あやまり堂日記
2冊目

2019/03/25（映画感想など）

Ready Player 1
後半の派手な戦闘シーンはおもしろかった。
ガンダムVSメカゴジラ。
そのようなサービスが可能だったつくりは、すごいと思う。

あとは、徹底してゲーム創設者を研究する部門があるにもかかわらず、
一般素人が割と単純な暗号を解読してしまうなど、物語運びとしては物足らぬ。

清洲会議
史実面で不審なものがあるのと、そもそもおもしろくないのとで、愉しめなかった。
が、ツイッタで評判を見ると、感涙している例もあり、己の楽しみ方と、
歴史小説の読者となるべき人の楽しみ方が違うのかと疑われた。
……が、ともかく、己の書き方を通すほかあるまい。
史実解釈としては、目新しいものも、参考になるものもなし。
三法師が武田の子という説は、今回初めて知った。

それにしても史実における「清洲会議」は、かなり不審。
だいたい４人で話し合う、とはどういうことか。宿老とは何だとか。
今後も明らかになるまいが、おもしろいものだ。

が、空想の上に空想を重ねるやり方は、好まないし、己の小説ではやれない。

……長編の兼和の修正を始めた。
よほどおもしろいものになっている。

2019/03/11（安東守就初稿了、映画感想、「おもしろさ」について）

「光秀の友」長編の初稿が終わったので、
頭を整理すべく短編で安東守就で７０枚。

一色義俊、武田元明、安東守就。
「アウトレイジ」３部作を見て以来、小説のおもしろさを考えていて、守就が一番小説になった気がする。

もう一人くらい用意しておきたい。
京極高次か、幽斎、忠興か、あるいは山岡兄弟。

で、長編へのコメント来たので、書き直しを始める。
端的にいえば、「おもしろくない」ということで、
「けちょんけちょん」で戻ってきた過去を思えば、安堵、
していてはならぬし、「こんなもの」に時間をとってもらって申し訳ない。

抜群におもしろくなくてはならぬ。

おもしろさとは。

「カメラを止めるな」を、非常な興味とともに見た。
が、いずれも演技下手で、まったくおもしろくなく、家内など途中でツムツムをやっていた。
家内の友人も、冒頭３０分で寝たとか。

……とはいえ、おもしろかったという大評判を否定するのは愚かなので、
最後まで見た後、いろいろ感想ブログ、ツイートを眺めるに、
メタ構造というのか、楽屋落ちを解説するようなつくりというか、
二重構造に、非常なおもしろさ、人に勧めたくなるポイントがあるのだと思うた。

また、前半部分のゾンビものを、ある程度まじめに見た後、
ゾンビものの終盤、妙に間延びするところや、「ポン」などの奇声などの小ネタを、
次の章で解説してみせる工夫など、「ああ、なるほど」という心地よさなどが、
評判の根元かなあと思われた。
序盤で脱落する人もいた旨を記す絶賛ブログも、少なくなかった。

大評判に、期待して見たら、まったくダメだったのは、「ララランド」と同じ。

これも家内、「オープニングの歌だけじゃん」と。

そんな口の悪い家内と今、毎回絶賛しながら見ているのは、
「キリング・イヴ」と「キャッスル・ロック」という２作の海外ドラマ。
展開の濃さ、早さ、キャラクタ像、台詞回し、演技、舞台装置や演出の妙、いずれも抜群であって、
これらに比すれば、私の長編など、まだ全然おもしろくなく、
よくよく研磨し、戦って行かねばならぬと、初稿を睨んでいる。

2019/02/11（「武田元明」初稿了）

短編の「武田元明」初稿がようやくできた。
７１枚。
小説としては、もう少し細工が欲しい。

史実面。
一色義俊も同じだが、史実を丹念に見て行くと、細かな点で、止まることが多かった。
元明は、甲州武田攻めに出かけたのか。
武田と武田の立場は。
丹羽長秀は、丹羽か、惟住か。
丹羽家の重臣、一門衆は誰だ。
若狭衆と、武田元明の関係はどうだ。
松丸殿が秀吉のもとに嫁いだのは、いつだ……？

秀吉が名家の女性ばかりを愛好し、家康は、小づくりのため低い出自の女を好んだ……
という巷説を、妙に記憶しているのだけれど、
側室にした時点では、京極など落ちぶれに落ちぶれているし、
そもそも京極は、佐々木源氏の嫡流でもないのだから、秀吉が憧れを持つほどの高貴さもない。
また、いかに美人だからといって、ほかに人もいたわけで……。

と考えると、やはり松丸殿の才覚のすさまじさが見えてくる。
……ああ、これは改稿が必要だな。

とまれ、まずは「兼見」長編を仕上げて送るべし。
もう２月じゃ。大河まで10ヶ月……。

2019/01/16（「兼見」長編初稿了）

「光秀の友」長編の初稿書き上がり。
582枚。

……書き出した記録がないので、やっぱり日記は欲しいと思うた。
「創作支援システム」の出力結果が、去年の5月27日だったので、おそらくその頃開始。

途中、「佐々成政」の短編を書いたとはいえ、時間がかかった。
けれど、350枚見込みが600枚近くになったので、
枚数と時間の目安は、さほど間違っていたわけじゃない。

１冊の量としては多いけれど、新人がきっちり光秀を書くのだから、厚くなって良いじゃないか。
挑戦者の心。

最後、本能寺の変の書き方で、自分の短編との戦いに苦しんだけれど、
最後には短編を超える結末もひねり出せたので、良い。
長編においても正解はあるのだと思うた。

もう少し読み直して、編集さんとの戦い。
大幅に削られるかもしれないけど、たぶん書き加える必要の方が多くなる気がする。

週末には短編を書いておく。

やや風邪。
喉痛い。

2018/11/12

闇金うしじま君のTVドラマ、映画版をすべて視聴。
おもしろかった。
シリーズを重ねるごとに、不要な役者類を押し込まれているような印象を覚え、
人気シリーズの金に群がる人々の欲望が透けて見えるのが作品らしかった。
また、集中放送のCMが、洗顔や健康食品類といった、阿呆を騙す系統だったのも興味深い
作品の質としては、映画３つめは特にひどくなったと思うのだけれど、最後の映画は見事。
何やら、人生について考える物語。

フィクションとしては、それで良いのかもしれない。

「決戦！　設楽原」のレビューをあちこちで探している。
まず、自身の作が悪評にまみれていない点に安堵する。
次いで、他の作の評判を見て、今少し「小説」として書いた方が良いのかと思う。
「吉田兼和」の長編、もう少し光秀と兼和の造形を改めるべきか。

荒木宗太郎についての論文了。
突貫で書いた短いものだけれど、体裁は整ったはず。
ベトナムに来た甲斐があった。
もちろん彼も小説にできる。

トマス荒木との関連が見つかったら最高だけど、まあ、他人か。
ほかに、宗太郎の周辺で、退会者の動向が出たらなあ。。

2018/09/20（Note日記）

思い立って、Noteに日記を書き付けてみようと思ったのです。
でも３日で飽きました。
というか、Noteの感じが好きではなかった。

どうするか、また考えなければなりません。

2018/9/20
誕生日なので日記を残す。

２年前は、また九月馬齢を重ねる誕生日、と書いてて、去年は日記自体を書いていない。
去年の誕生日は、それまでの仕事を辞めて、さてベトナムへ行こうじゃないかと画策していた時期だと思うので、慌ただしかったのだろうけど、ほとんど記憶にない。
やはり日記は付けるべきだと思う。

来月、本が出ます。
「決戦！　設楽原　武田VS織田・徳川」
という講談社の人気シリーズで、７作家のうちの一人として参陣します。
織田の鉄砲隊を率いた、佐々成政を書きました。
……作者として堂々と公開して良いことがらか分からんので、以下は有料記事にしてしまいます。

もともと佐々成政は、第５回「決戦！」小説大賞に投稿するつもりで、多少、調べていました。
しかし戦場を舞台にしたものでは大賞作にはならない、と思ったので、書かなかった。
何というか、戦場を舞台にすると、「どんでん返し」を構築しにくいというのがあります。
んで、大賞を取るには、何かしらの「どんでん返し」が欠かせない、というのが、ぶっちゃけると、あるのですね。

ところが、ハノイでぼんやりしておりましたら、「書いてみませんか」と、今回お話をいただきまして、改めて、佐々成政で挑戦することを決めた次第。
「決戦！」シリーズなので、あからさまに他作家との比較が為されると思われ、作者としても「決戦！」となる今回の短編。

年齢、これで３８歳となり、自分の中では「不惑」の４０歳までは、ちょうど２年あるし、まあ、のんびり惑っておれば良いやと思うていましたが、数えでみれば、もう来年その４０歳となる

わけで、やはり機を摑んだからには惑わず、書いて行かねばなるまいと思いました。

不惑まで二年ハノイの誕生日

9/22「些細な計画」
日記など、個人的にどこかでこっそりひっそり付けておけば良いものでしょうが、私には、どこか人の視線を意識したいというのがあり、といって、人様に読んでいただくようなものは書いておらんので、何だろう、これ、と思うのですが、そうだ、有料にしてしまえば良いじゃないか、と思いつきました。

当分、宣伝しないつもりですし、有料であれば、まず読まれない。でも、書いている当人は、人様の視線を意識しつつ書き付けることができる。

時に、作家としての、ホームページをつくろうと考えています。今のところ本も出ていないので、そんなに深刻ではないのですが、今度の「決戦」と、デビュー作と、もう１冊くらい出してもらえたら、堂々と、公開したい。

そうなると、ブログを、なるべく毎日更新したいなあとも思う。要するに、宣伝ですね。アフィリエイトというか、本のリンクも、つくらねば。

で、どこが良いのか、あれこれ考えておるわけです。
もはや「あやまり」ではなくなるので、全部一新して。

以下、考えるだけで作家をうきうきさせる執筆計画。

兼見を終えたら、短編をそろえつつ、山岡兄弟でどうか。来年中には書き上げられる、これも大河ドラマ関連。
その後は、三河武士か、もう一つ明智関連か……。

戦国史、つらつら見て行くと、かなり曲がって伝わっている気がする。徳川家に対する三河武士の忠節なんて……という視点で、酒井忠次あたりを主軸に。
当時の人物に寄り添う……という私の視点は、作家の価値として、作って行けるんじゃないかなあ。

9/24「毎日書く挑戦」

……もう、写真もいいや。

文章修行関連の一環として、「とにかく毎日書くようにしなさい」といったメモをしばしば見る気がするのですが、私などは、

「書くのが億劫なら、書かなきゃいいじゃん」

としか思わんのですね。

ゲームやアニメ、漫画、市販の小説などの方がおもしろいのだったら、それを選ぶ。だって、おもしろいのだから。

「そんなこと言ったって、書きたいし……」

と思うのであれば、ぐずぐず言わず書けば良いと思いますが、何か、ぐずぐずしてしまうのは、書いてみたところで、期待ほどおもしろくならないからだと思われます。

そんな、おもしろくないものを、人様に見せようとしないでおくれ。

このご時世、作家に向いているのは、書く以上の愉しさが無く、書かなければ具合が悪くなってくるような人だと思われ、ゲームその他の方がおもしろければ、そちらを優先する方が、要するに、おもしろいと思うのです。

……で、そういうものを堪能した後で、

「あー、やっぱり書きたい！」

となった時、書けば良い。

2018/06/21（「宇治拾遺」電子書籍化了）

もう放置でいいや、と幾度思ったことか。

けれど、そんなに多くないにしても、１巻から買うてくださった方もあり、また、性分としても、やりかけたことは、やり遂げねばならぬと、ようやく、全１５巻、電子書籍にして、アマゾンKindleと、楽天Koboに並べた。
とくに楽天Koboなんて、ブログにも途中までしか掲載していなかったし、もういいだろう、とか思いつつ念のため、ダッシュボードを見たところ、各巻数冊ではあっても、買うてくださる方があって、ああ申し訳なし、と恥じ入りつつ、登録手続き。

Kindle版は、12巻から15巻まで。
Kobo版は、10巻から15巻まで一気に登録しました。

そもそも、すでにブログに連載したものを、再編集するだけなのに、なにゆえ斯く時間がかかったかといえば、おそらく10巻あたりから、やたらと注釈を増やし始めて、挙げ句に、関連する古典の訳などまで追加し始めたためであって、十訓抄だの高僧伝だの、読み始めたらおもしろくて、止まらなくなったことが大きい。
これまで立派な先生方と出版社のつくってきた、図書館にあるような古典全集ではない、「わたくし版」とするからには、いろいろ横道に逸れるのも良かろうと思うものの、それで斯く時間ばかりかかったのは、まこと情けなし。
（あと、昔の自分の訳が間違っていたり、貧弱であったりで、単純にコピペするだけでは到底済まなかった、ということも大きい）

とまれ、2010年9月ブログ開始、と記録してあるので、8年越しにできあがり。
いずれ、第1巻から、「余計な」参考古典抜き書き、などを追加しながら、全巻まとめをつくりたいと考えている、、けれど、何年かかるか。。。２年以内には。

2018/03/24（受賞作の文体について）

チラ裏の感想拝読しました。
ありがとうございます。励みます。

小説現代が発売となり、
「光秀の友ーー吉田兼和」が、日の目を見ることになりました。
きっとおもしろいですし、たくさんある「本能寺の変もの」の中でも、特異な一編となっていることと思います。

「九州さが」をいただいてから３年、苦しみました。
苦しくて、ベトナム国に逃避してしまうくらい、というのは言い過ぎですが、３年、せっせと鍛えてまいりました。

何を鍛えたかーー。

さっくり言えば、ひとつは言葉です。
たとえば「衝撃を受ける」というような現代語は、使わない。
もう少し言うと、
「うわまじショック」
と、明智光秀に言わせない、ということです。

……もちろん、ネオ時代劇というのか、現代語を使っても無問題な文体、表現方法もあると思います。
ただ私は、この３年で、私に書きうるものは厳密な小説だと悟ったのです。

ということで、「衝撃」は、近代の日本語なので使わない。
私の文体からすると、地の文でも使わない。

もちろん、
「敵などに激しく突きあたってうつこと。突撃」
という意味で、江戸後期の史書には出ているみたいなので、合戦の場面を描こうとするなら、使うかもしれません。

が、「その言葉に、光秀は衝撃を受けた」なんて使い方は、しない。
これは、完全に近代小説の言い方。

……この辺、森村誠一先生なんかは、「読者は現代人だから現代語で良いのです」とか仰っていたそうで、私などただ無益な悪足掻きをしている感も受けますが、まあ、何だかんだで今回、６０枚がその方針で書けた上、評価されたので、このまま一つの文体になるまで足掻き続けるのも悪くないのじゃないかと思うのです。

2018/02/06（受賞のこと）

ベトナムハノイに来て、まだ２ヶ月にならない。
２／５午過ぎ、講談社「決戦」受賞の知らせを電話にて受く。
見知らぬ番号から着信、出てみると講談社のと来たから驚いた。
が、何せ電話が遠い。電波がぶちぶちと切れる。
うれしさが、もどかしさと申し訳なさとでかきけされた感。

１月２５日（木）に書き上げて、２９日（月）に発送した。
「老虎」について案外メモを残さなかったので、今回感触の残るうちに、書き残しておきたい。
夢中だった「老虎」から脱却できそうな手応え。

吉田は前から興味があったが、深く知ったのは、D2の神谷ゼミで読み進めた慶長日記で、多武峰破裂の最後に吉田が出てきたことが大きい。

また、光秀の動機については、山田先生の説、畿内における謀叛の繰り返し――を思えば、光秀個人の野心が大きいように思われ、傍らに置かれるべき吉田兼和との友情は、朝廷黒幕説とは関係なく、ただ公家と光秀の関係として、非常に興味深く浮かび上がる。
結果として、今まで誰も触れていない書き方になったはず。

執筆の端緒としては、創作支援システムを利用して、ブレインストーミングした。
物語の始まりと終わりをぼんやり定め、登場人物があれこれ蠢く中、支援システムは頭を整理するのに非常に有用だったように思われる。
むしろ歴史小説にこそ向いているかもしれない。
最終形が異なるかたちとなったにせよ、人物を絞り、物語の核――光秀との友情、を浮かび上がらせるのに非常に有効だった。
……もっとも、完成時には創作支援システムを利用したのか記憶になかったが、残ったデータが、意味を物語る。

書き出しは、本能寺の変の直後に光秀に逢いに行くところだとは、割と当初から。
６０枚制限を念頭に、駆け足。
途中の筋書きは、当初計画より大きく史実に寄せ、迂闊に忍者などは出さなかったことが、功を奏したようである。今後もきっと私は、史実から離れず書くべきなのだろう。

女も出さなかった。
まだ描けないし、６０枚ではどうしても安っぽくなる。

当初、途中で登場させた梵舜を、冒頭で光秀に預けた。
物語をいきなり動かすため。
史実に齟齬がなければ、最初から動かす方が良い。
要するに、物語は駆け足がいいということか。

当初の兼和は、もっとずっと凡庸だった。
展開に流されるだけ。
おそらく人間て、基本的には凡庸なんじゃないのと思う。
が、流される人物を主役にしては小説にはならないと悟ったので、光秀の野心を焚きつける小ずるい根性を入れた。
不自然でない程度か。
結局、小ずるい人間として、兼和の心理は深く書き込まなかった。
それで良いのだろう。

犬千代。
愛童、寵童という表現は書き込まなかった気がする。
話が逸れてしまうため。
ただ兼和の愛情のみ分かるようにした。
それで良かったのだろう。

秀吉。
書き進むうちに、どうして秀吉が天下を獲れたかが分かった気がした。
公家との関係。
織田信孝が乱暴なことを言えば、公家はみな秀吉になびく。
それが「人たらし」と言えるのじゃないか。

電子版で買った「決戦・賤ヶ岳」における秀吉が、基本的に、どの作品でも小人物に描かれていた気がして、人たらしでもなければ、豊臣恩顧の大名の意識も醸成されねえじゃんと不満を抱いた。
ゆえに、秀吉は短いながらも魅力が出るように描いた。
兼和の目には驚きの人物と映ったことは間違いない。
秀吉と兼和の邂逅は、短いながらうまく行ったように思う。もちろん、前々から交流はあったはずだけど、その点は敢えて触れなかった。

当初は７５枚くらいだった気がする。
かなり削って６０枚ちょうど。
「老虎」の時も、大きく削った。

私の文章は、削らなきゃいけないということだろう。

天田優子弾き語り（**2017/07/27**）

東京行く用事があったので、例のごとく朝一番の新幹線にて東京へ。
土砂降りの雨に閉口し、やむなくコンビニ傘を購って、上智大学のキリシタン文庫を訪れ、例のごとく宣教師の手紙の写しを見せてもらったりした後、午後、居眠りのうちに用務をし済ませて、夕刻、新代田crossingという、ライブハウス？　バー？を訪ねる。

目当ては、天田優子弾き語り。
天田さんというのは、エウレカセブンAOの２期エンディング「アイオライト」を歌ってた、Joyというバンドのボーカルで、バンド解散の後、ソロで活動されてる、という人。

開場は７時。
新代田駅についたら６時半くらいだったので、さて晩飯を食おうとしたところ、有名なラーメン二郎の看板を見つけて、
「これは……」
と惹かれたけれど、行列できていたし、お腹をこわしそうだったので、近くの中華料理屋で担々麺。

７時を少し過ぎて会場につくと、BARBAR2という女性二人組が弾き語りしていて、何というか、良い。
前に、佐々木淳平さんのライブ見た来た時、佐々木さん以外については、正直、うむ、基礎練して欲しい……という感想を持ちましたが、こちらお二人はうまいし、楽曲も良く、まったく知らなくても愉しくなりました。

次いで、ユースムースアヴェニューという、２人組＋サポート２人、というバンドがありまして、これまた、いい。
演奏もうまいし、歌声もまた引きつけるし、二人ともいい顔をしてらっしゃる。

……と、そういう素敵な二組を見るにつけ、直前に読んだ、「アマチュアバンドマンの悲哀」みたいな記事が思い出されて、何ともいえない気持になりました。

何でしょう、うまいけど、売れない、当たらない。
劫を経た同人小説家のごときことになっているようで、切ないというか、何というか。

ユース...は、最初に、「泳げたい焼き君」を下敷きにして空気を入れて破裂させたような、非常にユニークな、たぶんほかには無い歌を披露したのですが、こういう特異な作品は、実力ある同人小説家界隈でも時おり目撃されることで、すごく愉快な歌ではありましたけど、あたくしには、

もの悲しくも感じられました。
ほかに、途中でやった「ロックショウ」という歌の中で、そのまま「いつか売れたい」というような叫びもあり、実力ある同人小説家、でも一向に当たらない、でも止められない……連中と重なって、そりゃ音楽業界にも、こういうことはあるのだなあ、とぼんやりしながら、真っ黒なギネスビールを、ちびちび飲んでました。

で、３組目の登場が、天田さん。
実は、BARBARとユース...の交代の合間に、物販コーナーで店番していた天田さんから、直接CD買いまして、サインまでいただいたのですね。

イエス。

出てきたのは、一人。
他が、みんなグループなのに対し、一人弾き語りなので、セットリストも「ぼっちを意識したもの」になっていたらしい。
最初が、Joy時代の「クレーエ」で、カラスの話だというのは初耳。
カラスは、一度つがいになった相手が死んだら、あとはひたすら一羽きりで過ごす、らしいところからの歌とのこと。
つまりぼっちの話。

次も、Joy時代の……何だっけ。
初めて生で聞いたこともあり、「ぼっち」の話が強くて、頭がぼんやりしてしまいました。
（「ジニア」？）

次いで、新しいソロプロジェクト（上のCD)から、「ブルーノイズ」
バンド時代に使っていた、青のギター。
バンドの思い出の歌なので、ブルーノイズ。
まことに直截な歌詞で、バンドがどれほど大切な居場所だったのだろうと思う。

それから、Joy時代（末期）に書いて、正式タイトル未定の
「花畑（仮）」

歌の合間に、バンド解散がどれほど寂しかったのかを言うので、どの曲も心に沁みるのですね。

天田さんの特長とあたくしが思うのは、愛らしい声、容姿から、非常に強い感情が出てくるところで、歌声など、一気に高音に跳ねるところなど、あたくしはたいへん好きなのです。

で、最後は、「アイオライト」。
最初に、Joy時代の曲を二つ聴いたので、まあ今日はこれで満足とも思うてましたが、
「みなさんはアニメとか見ますか」
と来た時にゃ、あ、もうこれ、ああ、ああ、ああ来たわ来たわと。

「アイオライト」の弾き語りは、Capo.4 でした。
何かそこ明瞭に覚えていて、歌い出しから中盤にかけてはもう、あたしゃ手拍子できずに、ただただ、しんみりと聞き入っておりました。
そして後半になれば、ああ、もう、歌が終わってしまう。。と哀しくてならず、でも最後、手拍子、口ずさみ、たいへん満足いたしました。
いやはや、本当、ええ歌や。

時刻は９時。
終電新幹線に乗るには、９：２３発の京王線に乗る必要があったので、ここらで退散せねばならんのですが、トリのシュノーケルも見たい。
シュノーケル、あたくしには、「銀魂」エンディングの「奇跡」が真っ先に思い浮かび、けっこう著名な、「当たってる」バンドだと思うのですけど、こういうライブハウスでの活動も行うみたい。
……で、一曲聴いたらそくささと出よう、と思うて、カバンを手に準備していると、いきなり「奇跡」が始まったので、まー、奇跡というか、感動。

華があるし、強いしうまいし、まあ、本当、ええ歌でした。
本当、これ一曲で帰らねばならんのはまことに辛うございました。

それにつけても。
やるせない魂の叫びというか表現活動を続けているという点、音楽界隈と、同人小説家界隈は似ているなあと思う一晩でした。

当たることなく、次第に歪んで行く実力者たち。
一度当たった地点から脱せず、もがく者たち。
そもそもヘタクソなのを気づかない者たち（昨日は違うたけど）。

また、わずかな読者・観客のため、時間をかけ、心血をすり減らして生み出され、基本的にはむなしく消えて行く、無数の作品たち。

ライブハウス、たぶん一組で貸し切りをするとお金がかかるし、客も少なくなるので、「対バン」を組む行為は、売れない同人作家たちが、割り勘で同人誌をつくって群れるのと似ているし、離合集散するのもまた似ている。。

絵描きも似た感じかもしれないけど、つまるところ、「表現界隈」は、何とも苦しく、そして愉しい場所ということでしょうかね。。

心得（**2017/07/18**）

メモ。

読者
感情
切迫感

京都（**2017/06/12)**

京都は、進学先として、相当まで具体的に、立命館大学を想定していたこともあって、
「青春の一時期に居住したかもしれない場所」
という意識がある、と思う。

先日、槙尾を訪問した際は、バスに乗り、京都駅からまさに立命館大学を経由して槙尾まで行ったものだから、余計、その念が強くて、妙に、青春を回顧するような小一時間となった。
大学時代を京都に送れば、当然、仕事先も現住所も、結婚相手も子供も、まるきり違うことになっていただろうと思うと、
「あ、なるほど俺の青春はもう過ぎていたのだな」
と認識することができるのだけど、何か、ふわふわとした思い……を、まとめることができないまま、とりあえず書き置く。

掲載中とか

あやまり堂日記「１冊目」「ペナン余録」
短編集「記憶した初恋の惑溺」
てきすぽどーじん　５号　４号　３号
ツイッター小説「飽きるまで」

ホームページ
http://minamiyama21.kinbyoubu.com/ayamarido/
何かありましたらツイッタとかメルでどぞ。
ayamarido21@gmail.com

小説家になろう「地味系僧侶と桜の妖精」（完結）

2017/03/28

コードギアス亡国のアキト
ロボットが四つ足でガチャガチャ動き回るところなど、かなり愉しい。
ただ、無愛想な主人公が無闇に愛される点、主人公の兄がとりあえず世界を滅ぼそうとするところは、
安易な印象。
せっかくのギアスも、あまり活用できなかった印象。
もったいない。

2017/03/21

キリシタン文化研究会に入会を認められました。
いよいよその道の人のように思われて誇らしいです。

何か変わる予感というのがありまして、たとえば職場で異動があるとか、
長らく苦しんだ小説に区切りを付けたとか、
（そして最も適切だと思われる方法で新たな長編の構想を開始したとか）、
博士論文の目星がついたぞとか、子供が生まれるぞとか、エウレカセブンの新作映画があるぞとか、、、
あとは、「てきすぽどーじん」を終えるとかですね。

ほかに「同人小説家悪魔の辞典」というやつ、
Ｋｉｎｄｌｅ版をつくる目安にしていた３００項目を超えたぞ、とかもあります。
最後の同人誌、「政治的に正しい文学：てきすぽどーじん１０号」は、４／１に発行予定で、
これと、この「悪魔の辞典」で、私のうちの同人小説家が終わりにできそうな感じ。

気持の問題。

とはいえ、この「同人小説家根性」が、どうも悪いものだなあと思いまして、
それは「悪魔の辞典」にさんざん書いてますので、興味ありましたら、
いずれＫＤＰか何かで発行するもので、ご一読ください。

上記は取らぬたぬきの、というよりは、もはや「ぬえ」の皮算用の如きもので、
どうなることかは分かりませんが、
「九州さが」をいただく前もこんな感覚を得たので、吉例として、書き込んでおきます。

ドラえもん　南極カチコチ大冒険
あの筋立てなら、「海底鬼岩城」とか「竜の騎士」をもっと勉強すべきだったはず。
中盤以降、睡魔との戦い。

冒頭のありふれた映画オープニングは、何らの説明にもなっていないので蛇足。
ゲストヒロインの葛藤もしょぼすぎるし、１０万年のタイムカプセル設定の無理筋はともかく、
愛らしい象みたいな生き物が、ラッパラッパと子供のための踊りをしたのが一度きりなのも信じられない。
（本来蛇足だけれど、やるなら仲間との再会と、エンディングの３回は見せるべきじゃないの？）

あと、その象みたいなのが、のび太に無根拠の愛情を向けるのは看過できるにしても、
その擬人化に翻訳こんにゃくが対応しない点、まったく思慮が向けられてないのは情けなかった。
秘密道具類の制限設定も不十分なら、ドラえもんの真偽判断も「何となく」で済ませる怠慢さ。
そもそもあのロボットは何物で、なぜ偽ドラえもんに変身したんだ？
そしてあの悠長な処刑手段は何なんだ。。。ここが睡魔の最高潮だった。

……藤子Ｆ不二雄は、本当に、筋運びもうまかったのだなあと、改めて思った映画でした。

死者の帝国
死体を切開してゾンビをつくるグロさに強さがあるだけで、話はまったく凡庸。
登場人物名に有名人を借用するこずるさの効果は、興味深かった。

2017/03/09

残響のテロル
全話
やや消化不良に終わってしまった感あるけれど、
毎回引きの強い展開で、おもしろかった。
非現実的な設定に現実をあてはめようとして、かえって失敗の原因になっている部分も多く、
まー、難しいわね、と思う。
毎回ハラハラポイントあり、かなりおもしろかったので、脚本、筋立て、もう少し時間をかけられたらと悔やまれた。

物語作法の教訓としては、帰着点を明確にしないまま、大風呂敷を広げちゃいけない、ということか。
でも広げた風呂敷が大きければ大きいほど、見ている側は（少なくとも中盤までは）愉しめる。

2017/02/17

鋼鉄城のカバネリ
全話。
とにかく血みどろに死にまくる描写が強くて、緊迫感、３０分があっという間。
しかし最後はうっちゃりすぎじゃないか。。
あと鉄道の保線はどうしてるんだろうとか、いろいろ不思議。

けものフレンズ
１話。
何か、話題になっていた気がしたので見たけれど、ダメだった。
愛らしいキャラクタたちの、ふわふわした棒読み会話がいいのだろうけど、、
「らきすた」とか「あずまんが」とか、そっちの系統は、
あたくしには無理。
構造自体も、「金の羊毛」系の、至極単純なものと見ました。

2017/01/23

「承菊伝」として、了。
もうちょっと読み返すけど、これ以上はないと思うところまでは仕上げた。

そんなわけで、「てきすぽどーじん」用の短編を考え始め。
ちょっと試したい書き方があるので、やってみる。

マクロスデルタ全話
失敗原因の第一は、書き込む登場人物が多すぎること。
「フロンティア」の続編じゃなくて、「セブン」の続編だと気づいた割と序盤以降、
良くするにはどう直すか、という観点で見ていたけれど、
歌えばすべて全部解決、という割に歌がしょぼいのは、仕方がないとして、
おそらく、
１）ウィンダミアの各人を描かない。「白騎士」とか恰好いい用語だけ散りばめればいい。
２）ワルキューレは、せいぜい３人。ミクモ、フレイア、カナメ。
３）ミラージュを出すなら、せめてハヤテの幼馴染にして、心理的葛藤、恋に落ちる過程を省く。
４）フレイアが最後ウィンダミア風土病で死ぬ。
この辺にしたら、多少見られたものになったんじゃないかなあと思う。

失敗感の象徴としては、最後の最後で、「永遠のワルキューレ」とか言っておいて、
ミクモを迎えたワルキューレが３人だったことで、
ハヤテとフレイアは二人でデート。あとワルキューレ４人、ミラージュ１人、ウィンダミア残党、その他、
と、三角形どころか、多角形の極みのバラッバラで終幕という、とんでもない失敗作だったなあと、茫然。

魔法使いプリキュア
もう一週あるみたいだけど、これで最終回という扱いでしょう。
別離を書き込み、後日談で泣かせにかかる脚本。
大学生になったプリキュアは初めてじゃないかと思いつつ、、
最終回の脚本家を見たら、村山功でした。
村山功といえば、「オールスターズＤＸ」３部作と、
去年の「みんなで歌う」の脚本。

「魔法使い」は、最初はよかったけど途中から見るのをやめた。。

とかいうネット意見を見たことがあるのですが、
最初の５話が村山脚本で、そこから別の人が入ってくるので、
悪評は案外それが原因では。。と思いました。
脚本家の力は大きいものだと、改めて感心したシリーズでした。

2017/01/16

あけましておめでとうございます、本年もよろしくお願いします。

採択が決まった論文誌について、案外掲載数が少なく厳選されていて、
しかも五味先生と並んで載るようで、まことに誇らかであります。

雑誌は２月末の発行のようですが、全国の大学図書館にちらほら入るほかは流通しないので、
もしご興味ありましたら、実費でお送りします。
内容等の詳細は、またここでお知らせします。

長編も、ようやく完成しそう。
で、てきすぽどーじん用の次の短編が、ようやっと書き始められる。。

年始は、富士市にて。
善得寺公園を訪れたほかは、富士市のイオンのサンマルクカフェで小説。
夜は例の如くビデオ見ながら飲んだくれる。

劇場版アクセル・ワールド
原作・アニメともたいへんな人気があるみたいだけれど、筋立ては平凡な印象。
劇場版が、総集編みたいな運びだったためかもしれないけれど、
凡庸なバトルもので、主人公が主人公補正と気合いでパワーアップするだけの展開は、
今ひとつの感。

ガンダムサンダーボルト
So heavy..
連邦、ジオンの敵味方、両方の背景を描き込んでいるため、
殺し合いがまことに重たい。
ガンダムじゃなきゃ、わざわざこんなクソ重たい話は見ないだろうから、
これは成功作だ。

2016/12/20

年明けにも、２本、論考を載せて貰えることになりまして、
ようやくどうにか、
「日本史研究してる人です」
と言えるような気がします。

片方は、キリシタン時代日本人修道士の退会事例についてのノートで、
信仰を棄てたり、棄てなかったり、そりゃいろんな人がいたわね、
という基礎的な情報を整理したもの。
ここから、もうちょっとつなげて、大きめな論文にまとめなくちゃいけない。

もう一方は、同じ時代の、明忍という律僧についての、これまた研究ノートで、
変な坊さんなんですが、実はキリシタンとつながりがあったり、なかったり、
といったあたりにも言及してます。
もうちょっと深く掘り下げれば、ざくざくと宝が見つかりそうで、これももう一方書けそう。

今年は古いポルトガル語を眺めながら、僧伝の漢文をちまちま読み下していたので、
わし何やってんねん、
とか思うこともありましたが、最終的に、何とふたつがつながるという、
どうだい、みなさん、
と思うような方向へ、博士論文仕上げられたらと思います。

一時、キリスト教文化なんて、日本じゃ大して影響はなかったぜーーと思うていたのですが、
このところは、案外とそうとう（薄くて浅い）広がりがあったように、認識を改めてます。

小説も書き書き。
年内に書き上がらないおそれがあるのだけれど、ともかくやらなきゃな。

大江健三郎は、書き上げた小説を、二度、三度と、
改めて最初から書き始めることで、小説の精度を上げて行くらしいのだけれど、
何となく、あたくしもそんな作法が向いているような気がして、
きわめて不本意であります。

2016/12/08

映画「君の名は」が、驚くほど人気で、
こうなると、「ああ、さすがに見たいな！」というのと、
「くそっ、意地でも見てやるものか！」というのとがせめぎ合うのですけれど、
まあ、意地が勝ちますわね。

プリキュア映画「奇跡の変身キュアモフルン」
意地尽くで、アニメ映画を見ました。
オールスターものでないプリキュア映画は久しぶりかもしれない。
メリハリのきいた良い映画。
最後に戦う敵を、怨念の暴走としたのは、良い作戦と思われました。

さて。
現在、長編に挑みつつ、「同人小説家悪魔の辞典」というのをつくっていて、
今のところ、２３０項目くらい。
だらだらと書いているうち、どうして同人作家は同人作家のままなのか、
この状況を脱するにはどうすべきなのか、といったあたりが見つかるような、
見つからないような。

３００項目くらいになったら、どうにかしたいと思うのだけれど、
あれです、これと、「てきすぽどーじん１０号」の発行くらいで、
あたくしの（意識の中での）「同人作家」を終わりにできるのかなあと思う。
そんな予感。

それができれば、この日記もおしまい。
ようやく、あやまりから脱せられるのです。

2016/11/21

昨日は中学の同窓会。幹事が偉いので、５年に一度のクラス会と、
１０年に一度の学年合同会をきちんと開催していて、
今回は、卒業後２０年の会。
中学時代の担任の先生が、ちょうど今あたくしと同じ年の頃に、
我らを教えていたということで、あんなに立派で（おそろしかった）先生が、
今の我らのごとき感じかと、同窓生互いに顔を見合わせる。

一学年４０名×４クラス。
そのうち５０名余りが地元に集まる。
東京方面に出てたりする中で、よく集まったもんだ。

2016/11/10

明忍についての論文、ひとまず完成。
何とキリシタンとの関係を見出してしまい、我ながら仰天している。
現下、キリシタン研究、近世仏僧研究とも低空飛行を続けているけれど、
一緒にやれたらおもしろいんじゃね、とか思ったり。
（といっても、そんなに研究できそうな対象はないけどね）

そんなこんなで、年末モードですか。
気合入れて、きっちりどっしり、長編を書き直すべい。
丹念にやりつつ、もう少し、「簡単」でいいのかもしれないと思う。
このあたり、塩梅難しい。

2016/11/04

論文書いてます。
江戸期初めの、明忍というお坊さんの話。
というか、明忍というお坊さんの話の話。
いくつか存在して混沌としている評伝類を、あれこれ整理して、すっきりさせようぜ、
という話なのだけれど、その中で、
省我という坊さんと、元政という坊さんが出てきたのですね。
明忍研究の中では、まあ、ちょい役。

このうち、元政という坊さんの方は、割とその界隈では著名なのですが、
省我は、どうも分からない。
つらつら調べていると、二十年ほど前に、ほぼ自費出版のかたちで、
この省我についての事跡をまとめた奇特な坊さんがいるということが分かったのですが、
全国の大学図書館検索、国会図書館検索をかけても、そんな本などまったく出ない。

然るに、この幻の本を、「日本の古本屋」で検索してみると、
ぽいと、一軒の古書店で売られているのが見出された。
で、中味まったくわからんのですが、ええい、まあ、いいさ、と、とりあえず買ってみたわけです。
タイトル買い、１８００円（送料込み）。

そしたら、これが、すごい。

省我と元政の事跡研究は勿論のこと、巻末に、ななななな何と！！
「明忍律師之行状記」
が丸ごと翻刻されているではないか！！！！

……読者とあたくしとのテンションの乖離。

この「行状記」は、先ごろ、あたくしが東大の史料編纂所で読もうとして、
ムリ（コピって時間かけないと）。
と放擲したもので、「コピー取りたいなら、持主（お寺）に許可とってね」と言われて、
あー、何とかやらなきゃいかんなあ、でもなあ、ああ、ああ、とだらだらしていたもので、
それが、ああた、丸ごと翻刻て！
しかも！！　省我と元政て、別人についての研究書じゃん！！！

……ということで、論文完成します。
発表できる水準のものかは知りませんけどね。

それにしても、近世の仏教研究て、全然進んでないのですねえ。。

2016/10/25

「同人小説家悪魔の辞典」とかいうのを、何か、思いつくまま作ってます。
「一次落ち」とか「文字数」とか「本棚」とか。
「パターン」とか「日記」とか「下読み」とか。
だらだらとやって、「を」「ん」を除いて、とりあえず、あいうえお全部を埋めて、
１６０項目くらいまで来ました。

これどうするのか決めてませんが、まあ、２００とか３００くらいになったら、
キンドルとかに並べてみてもおもしろいかもしれないなあと思います。
紙にしてもおもしろいですけど、思いきり同人作家向けなので、まあ、需要少ねえな。

我ながらヒットだなあとおもったのは、

【新人賞】　同人作家に締切の目安をくれるもの。
【プロット】　本編を書き出す前、名作誕生の予感に作者をぬか喜びさせるもの。

とかですかね。。こんなのが、１６０ほど。
愉しい。

【逃避】　①執筆中、頻繁にわき起こり、逃れられない欲求のこと。作品完成までの間、作家がもっとも苦闘する対象であり、ほぼ確実に敗北する。敗北時には「気分転換」ないし「息抜き」といった言い訳が用いられる。往々にして、執筆への帰還に失敗する。②人生における執筆活動そのもの。

……長いやつも、けっこうあります。

2016/10/24

部屋の入口付近に、本棚をこしらえました。
ちょうど階段の手すりと同じ高さ。
「賞金とったら買う」としていた吉川英治全集を入れるものですが、
賞金もらってから何か、やたらと時間が経ってしまったので、
まあ、次に何か賞金なり手に入ったらとして。。
しばらく空っぽの本棚を眺め続けたいと思います。
それが自分に対する叱咤になりますし。

吉川英治全集のための本棚一一は、実は１号機を作ってあったのですが、
実家に引っ越した際、他の本が入らず、またそもそもサイズ的に、
全集が全冊入らないものだったので、他の本で充たしてあるのですね。
時にこの吉川全集。
すでにキンドルなんかで全冊２００円とかで売られているようで、
まー、紙本と併せて電子版が読める御時世は、まことありがたい。

先週は、ばたばたと東京へ。
国会図書館、東大の文学部（漢籍）図書館と、史料編纂所を、１日ではしごする慌ただしさ。
史料がそろう、という点では、東京が実にうらやましい。
こればっかりは、首都が強い。

７時のひかりで東京に出て、朝９時半に国会図書館。
目当ての本、論文を幾つかコピーしたものの、一冊、もっとも必要な本が、
「関西館蔵」
だということに気づいて愕然としつつ、ともかく１１時頃、本郷三丁目の東大に移動、
図書館多すぎで迷子になりつつ、漢籍資料館に入って、
「明忍律師行業曲記」というのを、１３時１０分の昼休憩までカタカタと書き写し（複写不可）
。
昼だからと追い出された後、その足で史料編纂所に赴き、
「西明寺文書」を閲覧。

この時、史料編纂所で、国会図書館で閲覧しようとしてた「もっとも必要な本」が閲覧できること
に気づいて随喜、
コピーを取りつつ、「西明寺文書」は時間的に無理だと途中であきらめて、
１５時に漢籍室に舞い戻り、ひたすら「曲記」の漢文を読み下し、書き写し。

１７時になるまでに筆写を終えたいと、ひたすら頑張り続けていると、どうやら、
１６：５７に作業完了。
１７：０５頃に追い出されるまで、ちょろちょろと修正その他行って、疲労困憊。

昼飯食わず、ひたすら集中。頭おかしくなるも、ともかく銀座に移動。
松浦さんと久しぶりに会って、飯。
銀座ライオン。ビールうまいメニュばかり。　いい店だ！

後、椿屋コーヒー店というところに入り、
業界の話、漫画ネームの話等々、いろいろ伺って、９：３０のひかりで帰還。
帰路、「ペルソナ３・映画１」を見る。
普通。。RPGをそのまま映画にした場面もあって、なかなか表現的におもしろい。
ゲームのせいか、主人公が「無感情系」だったので、のめり込みにくい。
映像、キャラクタ絵は嫌いじゃないので、続きも見たい。

2016/10/12

市議会議員選挙があるようで、このところ毎朝、駅のエスカレータ下から渡り廊下に至るまで、
何組かの立候補者＆応援団が出て、あれこれ騒いでます。

衆議院とかの選挙では、割と、政党！　組織！　大団結！　といった感じで、
狂信的で賑々しいのだけれど、市議会選挙では、例の如く組織！　でやっているところと、
何か、つつましやかな夫婦で済みません、とかいう感じで、
組織選挙の間に立って、二人きりで挨拶運動している人などいて、
どちらかといえば、後者に好ましさを覚えます。

せいぜい１－２週間のこととは思いますが、
毎日毎日、声を枯らして、冷めた目の人たちに頭を下げている姿を見ると、
まー、小説落ち続けるくらいいいじゃないかと、元気をもらうと思うことにして、
せいぜい書くばかり。
（また落ちたのを確認した）

2016/10/11（青森旅行記）

三連休、一年ぶりの青森へ。
くそ寒い。

すでにストーブがたかれている親戚宅などを回り、祖母の人を見舞う。
祖母、昨年までは、行くたび車いす移動でホテルで一泊できていたけれど、
去年手術の由、もはや施設から出るわけには行かず、見舞いのみ。
相変わらず言葉わからないけれど、アッハッハという豪快な笑いは健在。
すでに９６という。
さらなる長命を願うばかり。

その後、昨年まで祖母とともに訪れていた、恒例のそば屋で夕食。
一泊後、再び祖母を見舞って夕べの写真を渡し、リンゴ畑へ。
くそ寒い大雨降るわ、くそ寒い大風吹くわでたいへんだったけれど、
午後かろうじて雨止みあって、親戚からりんご１０箇ほどいただく。
りんご農家、収穫最盛期で、目を回すほど多忙の最中であった。

やがて夕食場所どこがいいかしらと思案しながら、青森市内から浅虫温泉へ走る途中、
かっぱ寿司を見かけたので、回転寿司だと思いつき、
函館本拠という、回転寿司屋「函太郎」へ。
うめえ。
北海道はどこでも寿司屋がうまいというけど、当然ながら青森もうまいのだ。
個人的には、しゃりの米のうまさが印象的。
あと、勿論はまちとかまぐろ。うめえうめえ。
たらふく食べて、一人１５００円くらい。イイネ。

そんなこんなで、土産等々買って帰還。
今年の三日間は、どうにも天候が悪く、秋というよりは冬を感じた。
帰路、青森空港の売店で、吉例になりつつある「あおもり草紙」という雑誌の、おもしろそうな号を購入。
この草紙は、作家志願者に名高い「ゆきのまち幻想文学賞」をやっている、
企画集団ぷりずむが発行している地元雑誌。
内容まことに濃いので、おもしろい。隔月間。行くたび買っている。

2016/09/28（展示とか）

箱根にて、放送大学大学院日本史研究会。
一年ぶり。
五味先生とも一年ぶり。ご壮健で何より。
キリシタン時代の性愛問題について報告。
認識に、おそろしいほどの相違があったことなど。あと近世初期の戒律復興運動とか。
やっぱり近世初期は、おもしろい。

さて翌日は箱根から足を伸ばして、東京西荻窪で折しも開催中の、
植田陽貴・河内麻美二人展「犬と猫10周年」を見ました。
※箱根も東京も同じ関東。
狭いカレー屋と、おそろしく階段の急な深夜喫茶の２店を会場にしていて、
小さなイラスト、絵が壁いっぱいに貼ってあり、購入・持ち帰りも可能、
という変な展示。

うえはるさんの絵は、確か８年前のデザインフェスタで初めて見たもので、
それから展示などちょくちょく訪れ、河内さんと一緒の「犬と猫」も、幾度か訪れているので、
二人の絵の変化、成長といったものを、割とずっと、見ている気がする。

過去、「犬と猫」展示といえば、小さな会場の隅に、二人の若い画家がべたっと座って、
壁いっぱいになるまで、（肯定的意味の）落書きを量産し続けていた――記憶があるけれど、
今回は、たぶん自宅なりで描いたものを、持ち込んでいるのがメインかなあとか思われ、
その点、いかにも学生ふうのやり方から、ある種大人の描き方に変わっているというか、
絵柄の変化と一緒に適当なことを想像しつつ、カレーを喰い、ビールを飲んだ。

展示。
抽象で色彩を操っている印象の、河内さんの絵が、おそ松さんふうのイラスト中心になっていて
、
力の抜き方というか、そこも大人な印象。
若い、もやもやしたところを絵にぶち込みました――的な勢いが次第に削がれて、
反面、味気ない印象も持つのだけれど、イラストの方が当然親しみやすく、
河内さんらしい（気がする）好ましい色彩の、手頃なイラストがあったので、一枚購入。

うえはるさんの方は、大量産しているドローイング等も含めて、あれこれ眺めていて、
最初に見た少女の絵から、あきらかに大人に変化しているのを、とくに興味深く思う。
このところは、その大人になった女性が、いろいろ旅する風景かしらと見ているのだけれど、

過去、ずばっと正面から少女を描いていたところから、だんだん顔を彼方に向け始めて、
旅に出たり、森に迷い込んだりして、あるいは顔だけ花束で隠す等をしている絵が多い印象で、
姿を現そうとしているのか隠そうとしているのか、そこら辺、よく分からないところにいる印象
。

今回の展示は小さいものが多く、手に取りやすい、小さく手軽なものを、といった意図もあるのだろうけど、
個人的には、小さい＝遠い（潜んでいる）印象も持った。
旅に出て、帰ってきて、隠れることなく出てきた時の姿こそ興味深いとか適当なことを思う。

そういえばツイッターによれば期間中、二人の好きなバンド？　歌手？　のライブがあったようだけれど、
会場、きわめて狭くて、あんなところでどうやってライブできたんだ、と不思議。

８年前の、最初にうえはるさんの絵を見た時は、たぶんロンドンに行く前年で、
（……？　だっけ？？）
いずれにしても、二人の絵の変化を、自分自身の変化とともに眺めて行けるというのは、
実にありがたい、稀有な経験だと思うておるのでありました。
自分自身の変化、成長と重なるというか、何というか。

あたくしは世界や自己の認識を言葉で行っていますが、たぶん二人はそうでない部分もあるはずで、
そうでないものが出てくる絵は興味深く、
ちゅかこちらとしては何より、上記のごとく、適当なことを考えられる点、たいへんおもしろく思う。

……何か、酒飲んでるみたいに妙な記録になった。

2016/09/21

また九月馬齢を重ねる誕生日

さて前に「てきすぽどーじん」に書いたヒーローものの長編
「英姿颯爽ジャスティス・クロス」
初稿。２５０枚。
日記を読み返すと、９月頭から書きだしているようで、
第一章の５０枚は出来合とはいえ、長編一本が２０日ほどでできたのは、
まあ、まあ、こんなものでしょう。

昨日はいつものスタバの前に、イオン内の、コーヒービーンズ＆ティーリーフなるカフェで、
２時間ほど、台風の雨を眺めながらカタカタやり、
然る後、スタバに移って４時間ほどカタカタと。
台風につきお店がらんとしていて、ありがたかった。

最近は、コーヒーを胃に入れすぎているせいか、カタカタ三昧をすると、
何か体調がおかしくなるので、紅茶を好むようになっており、
そのお蔭か、昨日の体調は悪からず。

ちゅかちゅか、今回、時代小説をきっちりやって、そこそこに疲れたので、
「さあ今度は、ズカン、バカンと爽快にやろう」
とストレス解消を兼ねてヒーローものを書き始めたところが、
「あー、歴史書きたい。歴史がいい。ロマンが無い」
と悶々とすることになり、とにかく早く終わらせたくて、疾走した。

書くべきポイント――ヒーローゆえ、主人公の魅力を全開にする、
ひっくり返しを意識しつつ、ヒロイン出すという、
（面倒くせえ）王道をなるべくこなして行こうとはしてましたが、さてどうか。
この辺は当然、時代劇にも役立つはずで、やっぱりこれからも、
面倒くさいとは思えど、あれこれ試しつつ書かねばならんなあと思いました。

（そうして、歴史物読み返しを始めたところの、居心地のよさといったら！）

今週末は、放送大学日本史研究会合宿。
キリシタン時代の性愛問題――日本人は昔からどれほどエロかったかについて、発表する予定。

2016/09/12

キズナイーバー全話
痛覚を持たない、つまり感情の無い主人公が、
感情の揺れの激しいサブヒロインを振って、感情を持たないヒロインに恋をする話。
過去を掘り下げて行く系等の話で、
終盤に相当ヘヴィな人格矯正譚が入る、以外は、大凡つまらなかった。

地味系主人公が、地味系ヒロインに恋をして、過去を掘り下げて行く――物語は、
やはりどう頑張っても、魅力は生じない。
で、最終版、感情無いはずの二人に感情が生じて物語を動かして行くのだけど、
結局感情的になるのかと、何か違和感あった。

あと主人公と周辺人物に、「絆」に関係するゲームを課して、
絆を確立させて行くという、何ちゅか「マニュアル感」が、なじめなかった。
ただ、はまってる、と言うてる人は、身近でいたらしい。
この「絆」によって生ずる、感情の無い主人公＆ヒロイン以外の、関係性は普通に愉しめる。

作法。
感情の無い主人公の隣に、感情あるサブヒロインを置いたのは当然として、
でもその感情（≒魅力）あるサブヒロインを振って、感情欠落のメインヒロインに惚れる、
流れで、メインヒロインに魅力が出ていないのは、まずい。
……とすると、最終版で明らかにしたヘヴィな人格矯正の話を、
もっと当初に出して、メインヒロインに同情が集まる流れにすべきだったのかとか思うた。

宇宙パトロールルル子全話
むちゃくちゃ。
中盤以降、キルラキルのセルフパロディを隠さなくて、なお好ましかった。
やるならこれくらいやらなきゃな！

長編。自分の。
作者としてそれほど興味が持てない時、作者（≒読者）の興味を、
いかに掻き立てるかを工夫しながら続けることは価値あると思われた。
がんばれ、自分。

2016/09/08

ラノベをやり始めたのだけれど、どうも愉しさが以前ほどでなく、
歴史物をやれと、そういうことなんだろうなあと思うたり。
文体はもちろん、驚きとか人物の感情とか展開とか、
あたくしに向いているのは、要するに歴史物だねえと、今さらら。

でも何ちゅか、ここまでやったからには、
ラノベ方面でも、一つくらい成果を得てみせるぞという気合いはあり、
時間も惜しまれるので、ここ一二作が潮時と思い、せっせと書くばかり。

さっくり、向き不向きというのがあろうかと思いますが、
おまえが書くべきものか否か、おまえが書かずに誰が書く、
というものに沿えるかが大事であろうかと思うようになりました。
「老虎の檻」など、追放後の武田信虎の野心に目をつける作家は、
なるほど、まあ、あたくしくらいだったわな、という自負が今ごろ出てきている。

そこら辺、自覚的に挑んで行きたい、行かねばならぬ。

2016/08/30

31日締切のがあって、消印有効で良いと思いきや必着で、
ばたばたと昨夜遅くに郵便局のポストに入れてきました。
朝一の便は、５時。
これなら間違いなく明日には着くでしょう。

残る課題は、長編の読み直し。
第二稿と称して編集さんに見てもらう。
いい加減もりもりと論文やらなきゃなあ。。と思いつつ、
「てきすぽどーじん」に書いた、「ジャスティス・イレブン始末」の長編化が、
もにょもにょとしている。
その前の「秘密の勇者のドリル」も、ちょっと直したい部分があるので、
もにょもにょと。。

論文、なかなかばちっとした感じにならなかったのだけれど、
明忍というおもろい坊さんに行き当たったので、３本目が書けそうな気がしている。
こちらは、放送大学の論叢に挑む。
ちゅか、これもやっぱりもにょもにょしている。

小説に区切りがついた夜、wiiとPS3を起動してあそんだのだけれど、
まあ、まあ、おもしろいっちゃおもしろいのだけれど、
やっぱり論文とか小説やってる方が愉しい。

そんなものなのかねえ。

やはりそろそろ、吉川英治全集を揃えるしかあるまい。
賞とったら買うつもりが、まだ買ってないのだ。

2016/08/17

オリンピックを眺めていて気づいたのですが、
柔道って、開始３秒とかで投げられて終わったら、そのまま帰国になるので、
オリンピック参加時間がもっとも短い可能性があるスポーツですかね？

もちろん１００メートルの徒競走とか、
１０秒で決着が付いて、大半の出場者はそこで帰国になるのですけど、
一応、最後まで走り抜くので、「精一杯やれました！」と言えます。
飛び込みとか体操とかも、一瞬で終わってしまいますけど、
実力を出しきる機会は与えられる……けど柔道て、あれです、
何にもさせてもらえず転がされて１０秒で帰国、があり得るわけで、
案外、もっとも苛酷なスポーツなんじゃないかなあと思うたりしました。
（帰国報告会とか、記者会見とかはせにゃならんでしょうし）

ちょっと連休があって、スタバ７時間耐久レースなどをやり、
ようやく時代もの第２稿が書き上がりました。
書き上げ、書き直し、書き直し、そして結局一から書き始めたものなので、
今回はちょっと、書き上がりに感動を覚えました。
がんばった。

引き続いて、バタバタと５０枚に取りかかる。
ひとつ出来れば、芋づる式に題材が見つかるのが、歴史物のありがたいところかもしれない。

2016/08/08

映画プリキュアオールスターズ　2016春版
昨年のプリキュア映画があまりにひどかったので、
今年は見に行かず、でも気になっていたのでTSUTAYAレンタルした。

で、2016版。
かなりの上出来で、映画館行っても良かったなあと思いました。
今回から、過去のプリキュアたちの出番を大幅に圧縮、
４－５人の過去グループであれば、主役以外決めポーズどころか台詞もなしにして、
脚本をすっきりさせていました。
もはやこういう対応をするしかない。

その中で、キュアマリンのキャラクタは、まことに都合がいいようで、
今回は「その他大勢」をうまく統合していた感あり。
制作側のマリン好きもうかがえ、当分、消えることはなさそうな印象。
（マリンが喋るため、ブロッサムの役割が増えていた感）

展開は、昨年版の悪夢のような運びから一転、オールスターズ２（ハートキャッチ主役）を思わせる、
派手なアクションと順当な運びがあって、満足。
ゲストの悪役声優は、俳優の山本耕史で、これは文句なし。
昨年のお笑い芸人の悪夢は何だったのだ。
前半のミュージカル化は、たぶん失敗していたけれど、特に最後の戦いは近年にない出来。
……と思って、脚本家を見たら、なるほど初期の「オールスターズ」３部作の脚本家。
さすが。

シン・ゴジラ
こりゃおもしろい。
怪獣ものの宿命、怪獣が出てくるまでのゆるみとかが一切生じない、
冒頭から猛烈な速度で運ばれる脚本のうまさに脱帽。
映像といい、脚本の速度は、エヴァンゲリオンを思わせました。
色々な人が褒めているとおりと思う。

まあでも、日本映画はまだ大丈夫ーーと言う人がいた気がするけど、
アニメの手法が、実写映画でも有効だということが分かっただけで、
基本的に、既存の日本映画界隈がダメだと思うのは、変わらない。

撮影技術とか、役者の伎倆とか、個々の要素はハナから問題になっていたわけじゃなくて、
さっくり言って、監督と脚本がダメなんでしょう、日本映画って。。
（予告編だけでわかる、「真田十勇士」の失敗感に絶望。。）

2016/08/04

そういえば、見ていたメモ。

魔法少女リリカルなのは The MOVIE 2nd A's
ある程度話題になっていた気がして、眺めましたが、
主人公らの絵柄に時代遅れ感を覚え、魅力を覚えることができず、
困難な映画でした。
筋立ても、魔法少女たちの諸々の定義が奇怪不親切千万で、
一度敗北を喫した小学生女子たちが、素のまま肉弾戦修行をするところとか、
やめておけばいいのにとしか思わなかったです。

中盤以降、これは女の子の衣裳と、派手な魔法機械を愉しむものであろうと、
OK, Master!
とか、ゴドン、ゴドンと派手な重低音を響かせる機械バトルを見ていましたが、
魔法機械設定のゆるさや、小学生女子の絵柄の不自然さの方が気になって
（しかも変身時パンツ丸出しじゃねえか）、
最後まで愉しめませんでした。

……絵柄で入れなものには、最初から近づくべきじゃないのだなあと思った次第。

2016/08/01

白泉社に投稿。結果は１２月。
別の長編にかかりきりで、最後の読み返しがなかなかできず、
またポケモンGOのせいもあって、
締切前日の夜ガストに入って、酒飲みながら２５時くらいまで読み返し、
翌日入力したのち、あらすじ書いて、出した。
せめてあらすじはもっと前に書いておけよと、また思った。

難物は終わってないけど、ともかくひとつ長編おわったので、
その後、部屋の片づけ。
机のまわりに資料がだんだん積み上がるので、ここしばらくひどかった。
しかし長編終わらないことには、片づけきる意欲が出ない。
夏暑いし。

今度の長編、あと５０枚くらい書いたら、しばらく論文。
年末、「最後の」てきすぽどーじん用にひとつ書くくらいに留めたい。
何かすごい変なやつまじめに書きたい。

あ、しかし去年の「ジャスティス・イレブン始末」の長編も課題だ。
ゴジラ映画を見る気でいるので、たぶんヒーローは怪獣と戦える。

……時間が欲しい。

雑感
ポケモンGO
岡崎城公園で歩き回った。
鼠、雀、鳩、毛玉、くらげ、の辺が５０匹くらい。
あと、ちょっと珍しそうな、大きな蟹とかくらげの親方、草やたまご。

おもしろいけど、同じ場所に留まり続けるほどに、おもしろすぎるのかしらとも。。？
子供といろいろ歩きながら、「あ、いた」とやるのはおもしろい。
公園歩いてたら、武将隊の小松姫と井伊直政に遭遇。
装備ばっちりきめて暑そうだった。

都知事選挙
愛知県民は関係ないけど、偉ぶっている人が頽れるのを眺めるのは、

げす根性からまことに痛快でありました。
選挙といえば、駅前で毎朝なぞの挨拶運動している同年代の人が、
市議会議員に挑戦するぜ、とかいう看板を、近所の人が出していて「へえ」と思うた。
やっぱり選挙の人だったのか＆あんた後援会の人か、という「へえ」。

障害者殺し
こわやこわや。

2016/07/25

オリンピックがもうすぐだというので、色々盛り上がっていて、なかなか興味深いです。
ドーピングとか。

個人的には、ドーピングなんて、飲みたきゃ飲めばいいじゃん、としか思わんのですね。
何が問題なのかと。。
人工的なプロテインだのポカリだのはＯＫで、ドーピング薬物はダメ、というのが、
微妙に納得しきれないところがあります。
もちろん、世界的にダメな麻薬とかは、そもそもダメなわけですけど。

まあこの際、オリンピック一ヶ月前は、
公式の流動食とビタミン剤以外摂取禁止とかにすれば、平等で簡単でしょうか。

2016/07/14

先の東京滞在、高波さんと飯食って、
夜の浅草をぶらぶらして宿に入った後、
ＴＶつけると、バングラデシュのテロ犠牲者の葬儀の模様が流れていて、
それが、上智大学の教会。
「あ、昼間見たのはこれか」
と合点が行ったけれど、何やら、あれこれ、もやもやした。

翌日は、上野の国立博物館に、伊東マンショの絵と、洛中洛外図のＶＲ映像を見る。
朝から大雨。
折りたたみ傘で濡れながら、行列。
チケット購入から３０分くらいか。
東京は人多い。外国人観光客も多いのが今時。

天正遣欧使節の話はまことに興味深い。
若い連中が、まったくの異世界に連れて行かれ、帰国し、
秀吉に逢い、キリシタン禁教に遭遇し、棄教したり司祭になったりマカオに行ったり。
これほどに「数奇な」運命と言える人の生涯も見つけがたいと思う。

マンショは、１５歳くらいの「少年」のはずだけれど、
いかにも西洋風で、帽子をかぶった顔は、うっすら口髭もあってまことに凛々しい。
秀吉が「余に仕えよ」と言ったというのも頷ける。
イケメン。

マンショは１６１２年、弾圧が強化される前に死んでいるので、強いて言えば、
キリシタン日本人としては、もっとも幸福な生涯を送れた人かもしれない。

……いやあ、余生をマカオで送ったマルティノとか、
修道院長として、おだやかに暮らしたドラードの方が、いいかもしれないし、
殉教の栄光を得た中浦ジュリアンの方がいいかもしれない（福者になってるし）。
ちゅか、キリスト教に見切りを付けて侍になったミゲルの方がいいかもしれん。
キリシタン日本人の生涯として、それぞれ特徴的な人びとじゃ。

ＶＲ洛中洛外図。
慶長期の舟木本洛中洛外図を、いろいろ大画面に拡大して投影、
お姉さんが慣れた感じで解説を加えるというもので、

どこら辺がＶＲなのか疑わしかったけれど、なかなか見応えありました。
で、上杉本の洛中洛外図の冊子を購入。
今のあたくしに興味深いのは、細川髙国政権の方。

午後は神保町。
幸い雨も上がった。

翌日、帰宅の前に秋葉原でＶＲ体験をする。
ゴーグルと、ヘッドフォン。
ゾンビが３６０度襲ってくるやつを体験させてもらう。
体験版ということで、こちらはその場を動かず、
完璧にその世界に入って、右左後ろ前、ぐるぐる回ってゾンビを撃つ。
怖い。
２度ゲームオーバーを喰らって、
あまりに満足したので体験時間前に終わる。

VRすごい。
おもろいおもろい。

個人的には、ロボットに乗り込むやつがやりたいので、
ロボットに搭乗して、あちこち飛び回る的系のゲームで、よいものが出れば、
PS4&VRを買うに違いない。

2016/07/11

日記書く頻度が減っているからと、６－８月分をまとめようとしたところ、
書いている。

時に週末、東京。
用事を済ませて、キリシタン文庫を見学させてもらうため、四谷の上智大学を訪れたところ、
何やら人だかり。上智の教会で葬式があって、ＴＶキャメラなども来ている。
はて誰か有名な人か、教会関係者のすごい人が死んだのかしら、と思うも、
特に看板など出ておらず、ふらふら行くうち、「イエズス会日本管区本部」の看板を見て、
何となしに感激する。

古いお寺など、日本じゃありふれているほどで、
実際のところ、そうしたものは、過去から連綿とつながっているもので、
積み重なった歳月を含めると、きわめて現代的なものの感じ。
他方、キリシタン、イエズス会は明らかに一時期断絶しているので、
過去のもの――で、これを今再びこの時代に見るのは、何やら「時空を超越した感」を覚える。
あたくしがキリシタン史に惹かれるのは、そうした「時空超越」感が面白く見えるためだったりする、
……のかもしれない。
よくわからんけどね。

で、キリシタン文庫で、秘蔵資料を拝見し、その字の小ささに愕然とする。
圧縮コピーしたのかと思うような、極小の筆記体。
けっこう重要なことが記されているっぽいのだけれど、
過去の先生がどうして邦訳しなかったかは一目瞭然。
読めないからだ。

でもギリッギリで、判読できるのが憎たらしい。
「ファビアン」も見つけてしまった。
とりあえず、許可を得ていたので、デジカメで何枚も写真を撮り、
数年費やす覚悟で翻刻に挑もうか。。

それから、「アジュダ文庫」のJesuitas na Asia のマイクロフィルムを閲覧。
これは、東大の駒場一高図書館に一部写真版があって、
今回それとの校合を行いたかったのだけれど、閲覧史料としては、東大のものの方が断然良質。
マイクロフィルム版は、けっこう文字がつぶれていて判読困難。

それでも、以前の翻刻が有効だったことは確認でけたので、えがった。

図書館を脱して高波さんと飯。
そうそう、その前に、上智大学生の男女とも美しくおしゃれな感じが、何か、東京って感じがしました。
同じキリスト教系の名古屋南山大学とは比べちゃいけない感じ。

で高波さん。
車で来ていただいたので、打合せのできるファミレスを探しながら、都内をドライブ。
都心を走りながら小説談議は贅沢。

……ここらで日記つける気力尽く。

2016/07/07

宗教と政治はよく似ているとか聞きまして、
確かに、ふわふわしている主張を、何となくこうだと思い込み、信じるに至るというような、
しかも割と狂信的な感じになりがちなところなど、二つは似ている気がいたします。

そんなわけで、車上に立ち、盛んに辻説法している候補者を見るたび、
「あ、昔の宣教師たちも、所詮こんな感じだったのじゃまいか」
と思うたりします。

まれに、有名な政治家が来ると、どっと人が押し寄せたりしますが、
基本的には素通りですし、また、有名な政治家でも時間や場所が悪いと、みんな素通り。

「おいあそこに何か、話題の政治家が来とるらしいぞ」
「行ってみよう」
「チラシもらった！」
「俺なんか一緒に写真撮っちゃった！」
「何かの署名してやったぜ！」
「新聞もらった！」
「入党届書いてきたwww」

……とまあ、よく分かりませんが、
政治家を「異人」とか「伴天連」に置き換えても、けっこう通じるなあと思ったりしました。

でもこうした辻説法聞いたくらいで入党届書く奴は、まあ、いないのと同様、
宣教戦略って、そうとうたいへんだったろうなあ、とかぼんやりいたします。
せいぜい物珍しさで足を止めるくらい。
もちろん中には熱心な信者や、興味持ってる人、反発する人あれこれいて、
声援や野次が飛び交ったりするのでしょうけど、それもまあ、宣教師VS仏僧の時代と同じ。

現代の選挙活動と、イエズス会布教活動の類似性に関する研究。
……案外、おもしろいかもしれない。

2016/07/06

バタバタと東京行が決まる。

この際だからと、例の「イエズス会にメールする」で、許可をもらった件で、
宣教師の手紙を見せてもらうため、上智キリシタン文庫に問合せ。
キリシタン文庫の図書館の方、たいへん親切でありがたい。
（あまり利用者がいないんだろうね。。）

キリシタン研究が地べたを這うような低迷ぶりの昨今、
たまには、無理を承知の、変な研究者がいたっていいのじゃまいか。

そんなわけで、東京行くので、共幻の高波さんに会えないか問合せ。
祥伝社とかにも行きたいのだけれど、長編まだできてないのであきらめる。

あー、時間が欲しい。。

……ふおっと、上野の国立博物館で、
特別公開「新発見！天正遣欧少年使節 伊東マンショの肖像」がある。
しかも今週末まで！　これは！

同じく『洛中洛外図屏風 舟木本』のVRがある！
これも今週末限り！　ふおお！

2016/07/04

あんまり日記書いてないので、章の見出しを「2016年6〜8月」にしてみました。
ざっくり。

イエズス会にメールを送り、上智大学にある史料閲覧・複写の許可を得ました。
ちゅか、「イエズス会にメールを送る」という時空を超越した感じが素敵で、
何度でも口に出したい。

長編、６月末までに終えるつもりが終わらず。
あと三分の一。
負けるな自分。
ほかにちょっと手直しせねばならぬ長編としたい長編が念頭にあって、
時間不足に困惑しきり。
ちょっと手直しせなばならぬ論文２つもある。
ちゅか論文やれよとも思う。

あー。あー。あー。

暑さひどい。

2016/06/20

映画「山田　ーアユタヤの侍ー」
タイの映画。
山田長政のお話で、2010年、タイ国内ではヒットした、のかなあ？

週末、静岡文学マルシェというイベントがあり、
気楽に出かけるには、静岡市はやや遠い場所で、
また、斯様のイベント参加は、文学フリマで懲りている部分もあるので、
あれこれの人と酒が飲めるらしい、前夜祭にだけ参加したいと、
豊橋以西の静岡県内乗り放題のきっぷを買い、久しぶりの鈍行旅。

昼頃着いて、今川関連で調べたいことあり、
駅前からクソ暑い中、浅間神社目指して歩いているうち、
山田長政の銅像を発見し、
駿河出身の商人なり、ああ、こんな商店街の真ん中にあるのか、
と感心しつつ、酒飲んでおでん食って帰宅した翌日、
前から気になっていた「山田」を見た次第。

筋は、フィクション。
山田長政という史上の人物を用いた、ムエタイ映画ではありましたが、
文化交流方面的には、たいへん興味深くたのしい映画でした。
冒頭、「拙者は山田長政ーー」と、１０分ほど延々日本語の独白＆会話があるので驚きます。
日本語がきわめて流暢で、しかし「アユタヤ」というところが、「アヨータヤ」と、現地音めいて聞こえるので、
てっきり、日本語ぺらぺらのタイ人俳優がやっているのかと思いきや、
大関正義という、タイで活躍中の日本人俳優が、長政を演じていられました。
wikipedia等を見ると、いろんなタイの映画に出ていて、そうとうな人気者みたい。
すごい！　知らなかった！

筋：
１）日本人傭兵の仲間割れで、山田、黒田という坊主および忍者軍団に半殺しにされる。
２）山田、アユタヤの美女姉妹に救出される。
３）山田、ムエタイ修行を希望し、近衛兵選抜に向けて修行中の、ムエタイ名人に挑んでボコられる。
４）山田、美人からムエタイ名人より強いのは、寺の和尚だと教えられ、弟子入りする。
５）山田、全身にタイ風の入れ墨を入れ、修行し、ムエタイ名人と友だちになる。

６）山田、ムエタイ名人に、友情の証として、自分で鍛えた日本刀をプレゼントする。
７）山田、アユタヤ王の近衛兵選抜試験を受け、兄弟子らとともに合格する。
８）折悪しく２００の敵兵がジャングルを侵攻中だと注進。新卒近衛兵１０名で撃退する。
９）山田、裏切りの黒田を倒すため、着物を身につけ、寺院を出て暗殺に向かう。
１０）美人姉妹、さびしくて泣く。
１１）山田VS黒田。山田が追い詰めるが、忍者軍団が登場、邪魔をする。
１２）ムエタイ名人、助太刀。いい感じで戦う。
１３）ムエタイ名人、山田の楯になって、黒田に撃ち殺される。
１４）激怒した山田、人外の力を手に入れ、黒田の頭を真っ二つにして殺す。
１５）山田、名人を火葬して泣く。
１６）おわり。

注目ポイント：
ムエタイが執拗。
右に左に殴り倒した後関節技を決め、血反吐を飛び散らせる。
効果音も、バシバシじゃなくて、ドゴドゴで、倒れれば必ず血反吐。
山田が刀を振るえば鮮血乱れ飛び、左右左右左右乱れ斬りした挙句に、首を刎ねるなど、
日本の殺陣を思うと、まことに兇悪。
しかもみんな上半身裸なので、傷口がえぐい。
もはや戦国BASARA on ジャングル the movie である。

日本好き。
のっけから日本語全開というのも驚きだけど、
和尚が日本刀を眺めながらうっとりとするところなどは、
まさしく日泰文化交流。
日本人山田が、アユタヤ好きになって、ムエタイを学び、ムエタイ名人が侍と共闘する――という筋は、
今時のタイの人たちの希望なのかなあとも思われ、うれしかった。
（だからもう少し、アユタヤやタイ文化を丁寧に描けば。。と惜しまれる）

史実は関係ない。
細けえことはいいんだよ！

全編、いいのかどうか知らんけど、Youtubeで見られます。
yamada samurai of ayothaya
で検索検索。
中には、インドネシア語の字幕をグーグルが自動で翻訳してくれるやつがあるので、

タイ語部分も何となく理解できます。
ちゅか、敵がいかにもな敵顔なので、言葉いらないかもしれない。
（難しい部分は、山田が日本語で独白してくれます）

あと、日本人は色白。
タイ語で何と言われていたかは知らないけれど、
翻訳では、美人姉妹から、「white face」と呼ばれていたので、
色白みたい。
国王の近衛兵選抜試験で、１０人ばかりと並ぶと、そりゃ多少色白かもしれないが、
日に焼けてるし、そんなに白いかなあと思う。

あと、山田。
「長政」じゃなくて「山田」。
日本語パートでも「山田を探せ！」「山田を殺せ！」だったのが印象的。
映画の題名も「山田」だし。

……山田はいつか書いてみたい。
ただ、鄭成功もそうだけれど、あの辺、普通に書いても需要乏しい気がするので、
何か案出しなければなるまい。

2016/06/16

この前、アニソン大会（フェス？）のライブ版を眺めてまして、
あたくしの知る／知らないアニソン歌手、声優、アイドルたちが各組２曲ほど、
次々に歌って行く中で、fhana、という人たちの歌に、おっ、と思い、
すっかり好きになりました。

頻繁に聞いていたRound Table feat. Nino がやめてしまい、
曲をつくっていた北川さんが、今度は花澤さんという声優の歌をたくさん作り始めたので、
それを聞くこともあったのですが、あたくしには声が可愛すぎて落ち着かず、
仕方なく、しばらく各種サントラばかり聞いていたのですが、
まあ、この齢で新たな音に行き会うのは、なかなか良いものだなあと思うたり。

カレン・アームストロング「キリスト教とセックス戦争ー西洋における女性観念の構造」
これが、抜群でした。
キリスト教における（ということは西洋文明における）性的神経症の構造、
あたくしの知りたかった部分が、ずけずけ書かれていて、もうおもしろいのなんのって。

ところどころ、解釈に不審を覚えつつも、
とにかく非常に興奮。日記を書いちゃうくらい。

博士論文のための本なので、がつがつ読み進めなきゃならんのだけれど、
他方で、小説の書き直しも快調。
どちらもがつがつ進めたく、弱った弱った。

さらに言えば、さらに７月末締切で二つほど長編どうにかしたいが……。

今週末は「静岡文学マルシェ」の前夜祭に参加させてもらいます。
本番の方は、文学フリマで懲りてるので、いいとして。
共幻でお世話になってる徒川さん主催。

2016/06/08

日記をつけるのがまことに面倒くさくて、
どれくらい面倒くさいかといえば、５月の一泊二日の掛川原付旅を、
初日書いたまま一ヶ月放置しているくらいで。

掛川２日目。
掛川城を見た。
高天神城を思えば、全然堅牢ではない。
強引なる東照宮を建てた、古掛川城の山もたかが知れていて、
家康が氏真を包囲して、長期間落ちなかったというのは、あきらかに城の性能じゃない。
あと掛川城からわずかに富士山見える。

お城を見て、帰路。
浜松で市立博物館に立ち寄る。
遠州の豪族情報を得る。
今川の遠州支配って、案外ぼんやりしている。
あと、浜名湖岸をまわって豊橋着。

……旅日記くらいはつけておこうと思うけど、やはり面倒。

近頃、小説書くか論文書くかしている。
二つ目の論文できたので、先生に見てもらう。
書き方で修正いると思うけれど、この２つについては史料調べはもういいと思うので、
さて３本目どうすんべ。
ひとつは修論で、もう一つも、修論の最中に気になっていたものなので、
博士課程としての研究は、実はこれからだったりする。

小説は、普通じゃダメなので、悩む。
来週末、静岡文学マルシェというのがあり、その前夜祭に出かける。
共幻塾では馴染みある徒川さん主催。
豊橋～静岡は、１８きっぷない時期もお得きっぷがある。
あわせて久能山か市内見物する。

そうそう、６／２２に、小説NON、今年の「九州さが」の受賞作と選考経過が載ります。
去年も書いてますが、選考経過もすごい価値ありますので、購入しましょうぜ。

2016/05/02（遠州掛川原付旅　前編）

気候やよし、いざ再びの原付旅へ。
意気込んで今度目指したのは、遠州掛川。
豊橋から原付を走らせれば、前に原付に乗って行って死にかけた静岡の半分の地点で、
戦国大名としての今川氏終焉の地でもある。

どのようなものになるかはともかく、
次には今川氏真を描かずんばあらずとの志立てたからには、
掛川城は眺めておきたい。
また、遠州一の要害、高天神城も見ておきたい。

で、今度の旅程は、浜松までは以前と同じ東海道を通るも、
そこから北上する道は採らず、真東へ直進する。御前崎へ至る道。
遠州、ひたすら平地が広がっている印象だけれど、掛川や袋井の南には山地があって、
高天神城があるのはこの山地。

豊橋から新居を経て浜松、そして磐田市竜洋町。
どこやねん――という方は、字を見ていただくと分かりやすいかもしれない、
天竜川が太平洋に注ぐあたりに開けたところ。
ここにその昔は、掛塚湊という、割と繁盛した湊がありました。
天竜川の水運で、木材を流し、この掛塚から江戸などにじゃかじゃか運んで巨財を成した町。

今は正直、見る影もなくて、湊の雰囲気すら感じられず、
でも昔日の繁盛を眺めたいと、検索してつきとめた「竜洋郷土資料館」に入ってみれば、
ひと気絶無で、ほこりくさく、暗闇に包まれており、
「来館者は電気をつけてご覧下さい。退館の際には電気を消して下さい」
とあたくし初体験のセルフサービス資料館。
「来館者の統計をとっています。ノートに出身地等をご記入下さい」
とあるので、とりあえず書いて、数えれば、４月の来館者はあたくしが１６番目。

訪問したのは4月30日のお昼頃だったので、まあ、記名しない人を含めて、
月に２０名ほどの訪れがあるということでしょう。
資料館へ至る道すがらの看板、磐田市に吸収されて以降立てられたものと拝察、
たいへんきれいで見やすかったです。

さて近くの地元ラーメン屋で昼食。

静岡県民はおそらく肉好きで、ステーキの「さわやか」はじめ、
多くの肉喰いの店を見ていたこともあって、ラーメンと焼肉丼セット。
昔ながらのラーメン屋。悪からず。

さてさらに真東に走る走る。
昨年、静岡へ原付旅した際は、雨で凍えたけれど、今回は晴天。
風強いこともあったので厚着していたら暑い暑い。
磐田市を脱け袋井を走行していると、幾つか、津波避けのための人造山を見る。
なかなか珍景。

やがて掛川市に入って、まずは横須賀城跡。
例の、遠州南部にある山地の、西の果てに築かれた城で、
高天神城を攻めるため、徳川家康が建てたもの。
立地を見れば、ここしか建てる場所はない。
山地の西際、これより東は高天神城の支配範囲で、
これより西は平地ばかりで、防衛できそうな場所はない。
（往時は海が近かった模様）

そうして、いざ高天神城へ。
この横須賀の城は、別に大して急峻なものでもなく、
「まあ、遠州の山などこんなもの」
と思いながら、バイク走らせていると、次第次第に山らしくなってきて、
幾つか道を曲がれば、もう峻険なる山城。
「あ、こりゃ落とせぬ」
と、武田信玄がすぐあきらめて兵を返したのも頷ける。

この高天神城跡は、それほど整備されていない印象を持ち、
断崖となっているところに手すりがないとか、なかなか堪能できました。
見晴らしも、木が鬱蒼としているため、それほど良くないけれど、
ところどころ、整備されているところは遠州灘から、広い田地まで眺められて、
たいへんいい場所でありました。
家康は、この高天神を攻め落とした後は、放棄して横須賀に政庁を置いたみたいだけれど、
それも頷ける。
この城は、落とせない。
勝頼が落としたのは調略だし、家康が最終的に攻め落としたのも、火攻めだった気がする。
しかも、高天神城は、下の田地からよく見える。
象徴的な城、放置しておくこともできない。

北上して掛川へ。
大した道則ではあるまいと思いきや、幾つか山を越え、トンネルさえ通過していったので、
掛川城と高天神城とは、別物ですわね。

2016/04/14

この間、NHKでやっていた「映像の世紀」の最終回を見てまして、
「アラブの春」の威力というか、発端から政権転覆までの速度、
それからその後の混沌にあきれかえっておりましたが、同時に、
「あー、これ鎌倉幕府の滅亡と同じみたいだなあ」
とか思ったりしました。

北条一門がはっちゃけてはいましたが、
統治機構そのものは実はそんなに、むちゃくちゃでもなかったーーのは、
アラブ方面の独裁政権と同様で、
でも、彼の地における「民主化」と同様、「天皇親政！」という、強力な理念の熱狂が吹き荒れて、
わーっと、一気に鎌倉幕府を崩壊させちゃうわけですが、
崩壊させてみると、
「いやこれ、昔の方が良かったよね……」
とかなっちゃう感じの既視感。

あの地域の独裁、宗教対立、首切り、無差別テロリズム……の辺を見ると、
「うん。これは中世だ」
と思わざるを得んのですが、鎌倉幕府倒壊と、南北朝期の混沌のごとき、アラブの春を見ても、その感は強くなります。

家康が、頼朝を理想の武将としていたとかはよく聞きますが、
南北朝～義満～応仁の乱
の流れは、ざっくり言えば、鎌倉幕府倒壊以降の、あれやこれやの混沌が収まらぬ必然的なもので、
戦国の大乱でようやくそれが収束に向かい、家康がまとめあげたーーと見れば、
「アラブの混沌」は、向後２００年くらいは、収まらんのじゃないかなあとか思ったりしました。

あとあれです、年表つくってまして。。
上杉謙信て、何か、むちゃくちゃやね。もはや頭おかしいんじゃないかと思うレベル。。。

2016/04/12

最近日記書いておりませんが。。
「ふすまの向こうの文学☆てきすぽどーじん９号」発行いたしました。

みんなで述べる感想会もおわりまして、「どーじん」一連の流れが終わった感じ。
それからこの「てきすぽどーじん」という同人誌も、
まー、ぼちぼちと終わってもよろしかろうと思い始めておりまして、
次の１０号で、ひとまず終わるかもしれないです。

かなり熟達してますので、編集にそれほど手間はかからんのですが、
あれです、参加同人それぞれが、プロになったり、プロにきわめて近いところに至りつつあって、
同人の間で切磋琢磨するという、この同人誌の大目的は、ぼちぼちと、
おわりにしてもよろしかろうと思うのですね。
来年１０号を出す頃には、仲間の一人や二人がさらに、さくっと賞をとる気がしないでもないですし。

……そのようなハイレベルな同人誌は稀有だろうとも思うので、
やっぱり１１号以降も続けようとか思い直すかもしれませんが、まー、時期が来たら考えます。
１１号を発行するとしたら２年後。
（ちゅか、プロレベルの人が集まる同人誌というのは、普通の小説雑誌や）

「朱雀門千枝子の暗殺成功」了。
初稿→ＰＣ画面上で読み返し＆訂正→投稿体裁で印刷・最終確認
という、ほぼ理想のやり方で終えることができました。
このペースでやれれば、「月刊」も可能と。。

そういうことで、時代小説に戻って、編集さんに見てもらおう。
という前に、北方謙三先生の「破軍の星」を。
南北朝期の北畠顕家の話。
ほぼ知られてない人ばかりーーというところを、どうやって書いて、柴練賞に至ったか。
念のため知りたかったのだけれど、まー、あたくしのやり方は、大丈夫だと思いました。

2016/03/28

週末、「朱雀門千枝子の暗殺成功」の長編ができました。
どうやら3/9から書き始めているので、２週間余りで、２５０枚。
もともと「てきすぽどーじん８号」で書いた５０枚の続きーーではありますが、
ひと月かからず、これだけの量が書けたのは、自分としては新記録。
読み返して、４月半ばに投稿する。
このひどい時期に、無理かもしれんと思うてましたが、やろうと思えばやれるもんだ。

……こういう記録、どれだけ書いて、どこに出して、（どう蹴られて）とか、
これからはもう書くまいと思うていたのですけど、すると自分で、
「はていつから書き出して、いつ終ったっけ？」
と思い出せなくなるので、ちょろっと書いておこうと思います。

記録といえば、「朱雀門ーー」の読み返しの前に、「のぼうの城」を、読み始めましたが、
うまい運びだ！

メモメモ……。
「のぼう」を読み終えたら、読み返し後放置の長編を完成させて、編集さんに見てもらう。
その間に、高波さんに教えてもらった白泉社「招き猫文庫」というところに、
今ある１００枚の短編の続きを書いて、送ってみる。７月末締切。
すると年末まで時間があるので、今川氏真がやれる。

……計画は、計画を書くだけでやり遂げた気になるので快感ですね。

2016/03/25（「ふすまの向こうの文学☆てきすぽどーじん９号」発行しました）

発行しました。
電子版は、28日（月）まで無料ダウンロードキャンペーンを実施していますので、
興味ありましたら、この隙にぜひダウンロードしておいてくださいませ。
http://www.amazon.co.jp/dp/B01CSFQNKA/

こちらの「てきすぽどーじん」は、インターネットを介したモダーンなものですが、
参加作家がお金を出し合うという、まことに古いタイプの同人誌でもあります。

参加作家が、お互い切磋琢磨することを主目的としてまして、
毎度きっちり「感想を述べ合う会」を開催するので、質が高いものが集まっている――と思います。
あたくしとしては、せめて仲間内の度肝を抜くようなものに挑みたい、と毎回思ってたりもして。。

あやまり堂は今回、「ジャスティス☆イレブン始末」という、戦隊ヒーロー青春学園ストーリーを書きました。
ここ数年、「どーじん」に載せた短編の反応を見て、それを長編に書き直して、どこかに投稿する――
てことを続けてまして、個人的には、ぼちぼち成果が出てきている気がしてます。

他の参加作家の方針は分かりませんが、如実に腕前を上げてきてる方もあって、
呼びかけ人名利に尽きるかなあと思うところもあります。

あたくしとしては、黒田香居さんの短歌「二番線カスタネット」が大好きで、
大学文学サークルの同期なのですが、いやあ、いいものが読めたななあとたいへん喜んでおります。
今回、「作品題名には、掲載順と、【ふすまの向こうの文学☆】の該当文字を真ん中に入れる」という、
わけのわからん縛りを設けてまして、それで、【二番】と【ス】を入れてもらったのですが、
それで短歌と「二番線カスタネット」が編み出されるって、すごいなあと、
あたしゃただただ感動しておりました。

えー、電子版無料キャンペンやってますが、紙媒体も１０冊ほど残っています。
ご希望の方には、２００円＋送料（アマゾンギフト券可能）でお送りしますので、
ツイッタあやまり堂なんかへご連絡くださいませー。

2016/3/10

最近、１００枚くらいまでの短編であれば、そうとう自信がついてきたというか、
まあ、まあ、ある程度おもしろいものが書ける気がしていて、
今度の「ふすまの向こうの文学☆てきすぽどーじん９号」に載せる、
「ジャスティス☆イレブン始末」というやつも、まあまあ、おもしろいと思うのですね。
今見たら、４５枚ほど。

ネット界隈だと、字数で管理してる人がけっこういますので、字数でいえば、１万ほど。
つまるところ、その倍超、１００枚３万字くらいまでなら、まあまあ、いけるかなあと。

でもあたくしとしては、１冊の本になるくらいの、３００枚以上で、
これくらいの自信というか、確信を持てる水準まで来なければなあと思うているので、
なかなか困難。
今の長編も、本当は、初稿段階で編集さんに見てもらおうと思うていたところ、
「いや、これはちょっと書き直さなきゃ。第二稿で編集さんに見てもらおう」
と決めて、ひいこらいいながら、先日どうにか第二稿書き上げて、
「よし。じゃ、あとは誤字脱字チェックして」
と思うて読み始めたら、案外直さねばならぬ箇所多くて、結局第三稿をこしらえるはめに。

未熟な奴じゃとあきれかえりつつ、でも考えてみると、あたくしの場合、
短編でも、最低３稿くらいはこしらえているなあと思うたので、
これもまあ、仕方ないのかと思いました。

初稿ざっと書き、
次稿で順番変えたり主人公変えたりあれこれ変更して、
第三稿で台詞回り、地の文を整える。

理想はあれです、初稿どーん、読み返しちょびっとー、で完成ー！
というやつで、これができたら、ああ、どれほど人生が楽になるでしょう！

……そんな、苦労したり愉しんだりして書いた、
愉快な短編「ジャスティス☆イレブン始末」を掲載する、
「ふすまの向こうの文学☆てきすぽどーじん９号」を、本日入稿いたしました。

３月後半には刷り上がるはずです。
紙媒体は、限定３０部。

参加作者に大半を配りますので、もし紙版欲しいという方があれば、お早めにご連絡ください。
電子版（AmazonKindle）もこしらえて、こちらは無料キャンペンを実施しますので、
ちょっと興味お持ちの方は、ぜひダウンロードしてみてくださいませ。

あたくしの「ジャスティス☆イレブン始末」は、
ファンタジー系戦隊ヒーロー学園青春ストーリー、になります。

何ちゅか、編集そろそろ疲れてきたので、誰か奇特な方にかわってもらいたい気もするのですが、
あれです、
「ぼくは、同人誌の編集作業を通じて成長し、九州さが大衆文学賞を取りました」
といえば、誰かやりたい人出てきませんかねえ？

2016/02/26

先に、短編小説バトルの審査員をやらせていただいた縁で、
共幻塾というものに呼んでいただいて、そこで、色々な人が持ち寄る「企画」を拝見し、
あれこれ勝手なことを述べております。

この「共幻塾」において、小説の「企画」を精査するというのは、
池部さんの肝煎りで、編集長の高波さんも、たいへん情熱を込めてやっていられるので、
あたくしなどが混ざってて良いのかしらんとか思うこともありますが、
まーでも、こちらも勉強になるので、あれこれ言わせてもらってます。

池部さんも高波さんも、それから他の方々も、割ときびしいです。
あたくしは、そんなにきびしくない（と思うてます）。

あたくしなどは、歴史小説を書いたりするので、
いつ時代の誰を、どう調理するかーーは、きわめて重要な話になりますが、
まあ、でも、書いてみないことには、という思いがあるので、
基本的には、「その企画でおもしろく書くためにはどうしたらいいのかしら」とぼんやり眺めつつ、
コメントしているつもりです。

ときに今夜あたり、苦心に苦心を重ねた長編の第二稿ができあがるので、
さて次はどうしようかと考えつつ、ぼんやりと、今川氏真で長編を書こうかなあとか思い始めていたところ、
今年の「九州さが」で最終候補に選ばれた、
今村さんという方が、先に伊豆文学賞で、氏真書いて受賞されてるというのを見て、
あー。。と。

まー、でも、信虎書いて、勘助書いて、今、義元の家督相続書いて、、とやっているので、
氏真に挑むのはおもしろかろう、とか思います。
んでもって、今度は「企画」の段階から、編集さんと相談できたらいいなあとか思いました。
東北とか、佐賀でも書きたいのですけど、
せっかくなので、蓄積のあるところから、コツコツと地歩を広げた方がよろしいかなあと。

それにしても。
悩みに悩んだ長編が、書き上がる直前ーーってのは、まことにいい心持ちがしますね。

2016/02/16（京騒戯画とか）

アニメ「京騒戯画」全話
あたくしはアニメ見るの好きですが、基本的に「アニメオリジナル」が好き。
原作があるものは、そりゃ原作を読むなりした方がええでしょうーーと思うわけです。
で、この「京騒戯画」もアニメオリジナルのようで、絵の雰囲気がまことに独特。
ーーというだけだった感。

何だかわからない世界を描出しようとしているのだけれど、
その辺の、わけのわからなさは、キャラクタの視点を通してこそで、
何だか分からないキャラクタ４名、それぞれ大して掘り下げられないままなので、
キャラクタにも、特殊な世界にも感情移入して行けぬ。
途中、かれらは敵対したりするのだけれど、基本的に同じ方向を向いているので、
対立に切迫感がない。
最終的に、統合機関とかいう敵っぽいのが「この世界を壊す」とか言い出すのだけれど、
わけのわからない世界を描出してきたせいで、ふーん、そう。なんも感興なし。
むしろ壊せばよかったのに、普通になっちゃった。

そんなわけで、オープニングが秀逸。これに尽きちゃった。。

動物戦隊ジュウオウジャー
主人公が、今までで一番演技うまい感。
その分、他の４名の、「戦隊っぽいキャラ付け」が不自然に感じられた。
やっぱりキョウリュウジャーには勝てそうにない。

2016/02/03　（「宇治拾遺」やっと11巻）

わたくし版
宇治拾遺物語
現代語訳　第１１巻

あやまり堂　訳・註

……を、こしらえました。
気がつけば、前の「１０巻」を発行したのが、去年の８月とかで、
その１０巻も、９巻の発行からかなり時間が経ってましたので、
「全部買ってやるぜ」
とかお考えになってた方がいましたら、まことに申し訳なく思います。

今回は付録として、「道賢上人冥途記」という短編を入れました。
平安期に流布していたと考えられる本で、今は失われているのですが、
「扶桑略記」という歴史書などに転載されているので、現代の我々も読むことができます。
……こういう「散逸文学」とでもいえるものって、いいですよね。
詳しく見ると、「道賢上人冥途記」は、扶桑略記にほぼ載ってるので、散逸してない――となりますが、
物語自体は散逸してしまっているので、
「もともとは、どんなだったんだろうー？」
とか気になります。

「道賢上人冥途記」の筋書きは、道賢上人＝日蔵というお坊さんが、
金峰山で修行をしている最中、死んで、菅原道真や醍醐天皇に遭遇する、というもの。
道真の祟りの仕組みだとか、天神信仰が広まる、まさにその時代に書かれた話なので、
少なくともあたくしには、まことに興味深かったです。

「扶桑略記」は、漢文で書かれてまして、たぶん、読み下し文もまだ一部しか存在してない。
まして現代語訳なんてございません。
――というわけで、わたくし版の訳・読み下し文をこしらえましたので、
興味ありましたら是非どうぞ。99円です。

果てしなく奥深い日本の古典、そこら辺に分け入って、
おもしろそうな文章で、わたくし版の現代語訳をこしらえてKindleに並べるというのも、
価値あることかもしれないと思いました。
「宇治拾遺」は、あたくしなどがやらずとも、現代語訳もけっこう容易に読めますが、
「何コレ」
というような古典は山ほどもありましょう。

それから、「ふすまの向こうの文学：てきすぽどーじん９号」の掲載していただく、
文学作品バトルが、投票期間となりました。
４作も投稿していただきまして、しかもいずれもおもしろいので、どうしましょうね。
あたくしとしては、ほにゃほにゃが一番と思うてますが、そこはそれ、
言い出したからには、投票でやりますので、是非とも読んで、投票してみてくださいませ。

http://text-poi.net/vote/114/

あたくしの「十字架学校物語」の読み返しもせにゃなりません。
でも今は、歴史物の長編と格闘しておるので、なかなか。。
あと、４月締切の、次の星海社に向けた長編をどうにか仕上げたいのだけれど、どうだろう。。
座談会の好評で、３つくらいは続けざまに出したいと思うておるのですね。
１００枚のおもしろい時代劇ファンタジーがあるので、加筆する。きっとおもしろい。

2016/02/01

映画「ニンニンジャーVSトッキュウジャー」
おもしろかったです。

このシリーズは、今年の戦隊を主役に、彼らの能力で太刀打ちできない敵が現れた時に、
去年の戦隊が助け、事情を解説、物語を導いて行く――という筋になるため、
キャラクタが弱い（失敗した）トッキュウジャーが先輩風を吹かせることになるのが、ちと不満でしたが、
きっちりした筋書きと、何より抜群の殺陣は、戦隊ものならでは。
とくに猿飛佐助、風魔小太郎、服部半蔵と赤の戦いは、近頃見ない出来で、すばらしかった。
東映時代劇の伝統を愉しめました。
今時は、戦国BASARAだの、無双だの、イケメン刀剣だのが人気なのだから、
この映画くらい派手なバトルを、今の時代劇でもやればいいのにと、心底思います。

そんなニンニンジャーも、来週で最後。
今期は、年明けの割と早い時期から、次のジュウオウジャー情報を解禁していて、
すなわちクリスマス商戦が終われば来期ヒーロー、という分かりやすい作戦が取られている様子のため、
かえって脚本は、クライマックスに向けて着実に進むことができている感があって好ましいです。
いいエンディングを期待しておるのです。

んでプリキュアは、この日曜が最終回。
ここしばらくで随一の最終回じゃないでしょうか。
例年、最後はもうやっつけ仕事というか、
映画と新プリキュアに優秀なスタッフが取られているに違いない――と思わせる、
ひどい最終回が多かった気がしますが、今回はまことにいいものでした。
前回のディスピア戦も抜群で、、、このディスピアの声優は無類ですね。榊原良子。
やはり敵がいいと、物語が良くなります。

そして昨日の最後はクローズ戦。
クローズは最初の敵だった気がしますが、そこら辺でも、きっちり愛情持って、
敵が描かれているのが実によかったと思いました。
最後クローズの姿がブリーチみたいでしたけど、ご愛敬。
主人公との一騎打ちも、久しぶりに「プリキュアらしい」切れがあって、感動しました。
（主人公で物語を締める。案外できないことなので、そこでも感動してました）

いやー、えがった、えがった。

物語作法まとめ：
主人公が活躍する。
敵をきっちり、愛情を持って描く。
受け手（読者・観客）の期待するところは裏切らず、それを上回ることを考える。
細部まで手を抜かない。

ーー基本中の基本。
でも案外難しい。
何にしても、これが達成できた物語に失敗はないように思います。

2016/01/26

昨日はふと、夢と魔法とお金の国へ行って来たのですね。
あたくしの住まうところの愛知県から、東京というか千葉のこの国へ行くには、
さてどうするのが一番かを思案しまして、
一泊二日で、日曜朝に家を出て車で移動４時間余り。
その夜は公式ホテルに泊まり、１５分早い入定権をゲッツし、月曜に遊び回る、という方針に。

前日は、幕張にある途方も無く巨大なショッピングモールに、
東映ヒーローの夢とバトルとお金の秘密基地があるので、そこへ立ち寄る。

最強寒波で雪やら氷やらを恐怖しておりましたが、
何とか無事に走破でき、上記作戦でまずまず成功かと思われました。

それにしても……かの国に遊ぶ、外国人の多さには驚かされました。
昨年も、確か、かの国に行ったのですが、これほどだったかしらと。
春節の影響もあろうかと思いますが、いやー、本当、外国人だらけ。
スタッフ（キャスト？）の多くは、英語対応に問題ない様子ですが、さすがに、
中韓タイその他外国語まで通暁してはいないーーけれど、手元に眼科検査みたいなメモ束を用意していて、
注意事項はそれをめくって、にこやかに読ませて伝えている。

あと、おそらくは外国人客が、スマホ画面に自国語を喋って、
それを翻訳表示させて、これ見ろーーとやる作戦も、割と見かけまして、
いやはや、すごい時代じゃないですか。

「アナと雪」の大人気を受けて、「アナと雪」だけのパレードをやってたのですが、
あまりの人気に、よく分からない石の人や、へたれのハンス王子なんかも、
巨大な鉾（？）に乗って、人気者扱いを受けていたのが印象的でした。
（しかも「ありのーままでー」の歌と踊りの際に、あくびをしてみせる王子はなかなか素敵だ）

パレードといえば、キャラクタの山車（？）と山車の間で踊る、仮装人間ダンサーズも興味深くて、
キャラクタが見たい観客にはほぼ期待されていないけど、抜群の踊りと笑顔を振りまくプロフェッショナル。
彼らがいなくちゃ、パレードは間違いなくしょぼくなるでしょうし、いやはや、見事なものでした。

まー、そんなこんなで、たいへんな異世界だったなあと、改めて思いました。

2016/01/15

横溝正史「病院坂の首縊りの家」
読み終わり。
金田一耕助シリーズの最後、というやつですか。

いやー、すばらしい。
強力な一冊でございました。
二段組みの小さなフォントの、分厚い古書を買いまして、
市川崑の映画は見たことがありましたが、いやはや、原作はいいですね。
ドロドロ感といいますか、迫力があります。

市川崑の映画は、原作の前半部分だけーーと言えましょうか、
後半もきっちりばっちりおもしろい。

なんというか、緩急のつけかたが絶妙なのですね。
ちょっとだれてくるかなーーというところで、一気に核心的なところを、ずどんと入れてくる。
ちょっと金田一シリーズをそろえたくなりました。
また、ミステリーらしいミステリーを書いてみたくもなりました。

横溝正史あとがきで、これは「老年の金字塔」だと自負してましたが、まったくそのとおりでしょう。
ほかの金田一とか、あまり読んだことありませんが、いや大満足。
初めのうちは、通勤途上でちまちま読んでおりましたが、だんだん読む時間が増えて、
結局昨日は夕食後３時間読みふけって、最後まで読んでしまいました。

自分の短編も、まず、これでいいところまで来ましたので、
さあ、長編の読み返し（というより書き直し）を始めましょうか。

2016/01/14

短編がうまく書けている気がするので、
すこし気をよくして、壁面本棚をこしらえたりしてましたが、
短編書いて、それでどうだってところであって、
やはりここは長編を、完璧なものに仕上げて、ずばっと勝負しなくちゃなりません。

でもあれです、短編で真剣勝負する中で、書き方が分かってくる――こともあり、
今回の６０枚、たとえ採用されずとも、良いものが書けたと思うておりますので、
必要な経験であったと思います。

さあ次じゃ。

時に、これ日記に書いたか忘れましたが、
１０年前に「九州さが」をとって、次いで松本清張賞を取った、梶よう子さんが、
このたび直木賞候補になってます。
まだ読んだこともないのですが、ちょっとだけ、ドキドキしております。
直木賞は１９日発表。

2016/01/06（昨年まとめ）

去年のことをちょと振り返っておきます。
といっても、何を書いたか。。。

昨年は、何というても、「老虎の檻」で九州さが大衆文学賞をいただき、
ひたすら舞い上がっておりましたが、書き上げて投稿したのは一昨年。
初稿を書いたのなんて、３年も前だったりします。
（それから２度、最初から書き直した）

そんなこんなで、去年は書き直しとかで、案外新たなものは書いていない気がします。
新しい短編
「宮様の波斯剣」……「日本史Ｄ」掲載。室町時代。
「マラカ瑣記」……「世界史C」掲載。近世マラッカ。
「朱雀門千枝子の暗殺成功」……「てきすぽどーじん８号」掲載。平安時代。
「七難七福」……未発表。

新しい長編
「地味系僧侶と桜の妖精」……「小説家になろう」で毎日連載。

新しい細かいやつ
「烏賊の降臨」……共幻に投稿。
「ツイッター小説『飽きるまで』」……ここに挙げるまでもないけど。年末に完結させた。

長編書き直し
「秘密の勇者の最強剣」……投稿。星海社Fictionsの座談会まで行った。やったね。
「遙か銀河のディメンション」……投稿。

まだ終わってないけど
歴史物長編１
歴史物短編１

あと……論文１つに、「共幻」の審査、といったところかしら。
くそう、改めて振り返ると案外少ないな！
昨年後半は、歴史物長編に苦しみ抜いていたからな。。

個人的には、新しい長編３本行きたいところ。

でも最近つかみつつある精度でやろうとすると、無理だといえる。
……あれです、あたくしの作風からすると、どうやらこの「精度」が非常に重要のようで、
結局これが、おもしろさにつながる気がする。

……とすると、現状では、もう量産できない。

あー、あと２年。

2016/01/04

あけましておめでとうございます。
本年もあれこれよろしくお願いします。

年末日記。
２６日小説読み返しておりました。
２７日小説書いておりました。
２８日小説書いておりました。
２９日小説書き上げて編集さんに送りつけてスッキリした気分で中学時代の同級生と酒飲んでおりました。
３０日餅ついておりました。
３１日いろいろバタバタしておりました。

年始日記。
１日ちょっと買い物した後祖母宅で飯食って清水へ移動しておりました。
２日清水で富士山見てから「てきすぽどーじん」のための小説書いて、ホテルで飲んだくれておりました。
３日小説書いてから親戚宅で飯食って、ひとまず小説完成させました。
４日編集さんから読んだ旨返信あっておろおろしております。

清水のホテルでは、映画のドラゴンボール「神と神」、「逆さまのパテマ」を見ました。
どちらも不出来でした。
ドラゴンボールの方は、すでに神よりも宇宙最強生物より魔神より強くなっている悟空に、
誰を、どのようにぶつけるか、がんばって工夫し、失敗していたのがまことに痛々しかったです。
ただ、戦闘シーンは、ドラゴンボールらしさがあって、「これこれ」とか思っておりました。

「逆さまのパテマ」は、題名かっこいいなあとか思うて見始めましたが、
キャラクタに魅力がないのが決定的に駄作でした。
ああいう世界観で、ボーイ・ミーツ・ガールをやると、どうしても「ラピュタ」に勝てません。
世界観の作り込み、制作陣の意気込みの点からみても、最高の駄作「アギト」の方がよほど好ましい。

んで、まー、つまらんものは仕方ないとあきらめて、
絶対におもしろいという確信のあった、「キルラキル」最後３話を続けて見ました。
いやー・・・みごとでした。

これ絶対おもしろい、の期待を裏切ることなく、完結。
わずかに、ヌーディストビーチの連中が、物語の中盤以降、弱くなった気がしますが、
いやいや、そんなものは不平でもなんでもない。
近年随一の快作でした。

個人的に、アニメは、アニメオリジナルのものが見たいです。
ラノベにせよ漫画原作にせよ、原作があるからには、その物語は、
その原作媒体に適した形式で書かれていると思うのですね。

そうして良い気分で、飲みながら見てたら、ジーマに加えて５００ml缶が３本空いてました。
あたくしにしては、けっこう多いです。

2015/12/24

ツイッタ小説「飽きるまで」というのを、終わらせました。
http://p.booklog.jp/book/6857

放置しておいても、なんら害はないでしょうが、
性分として、こういうものをそのままにするのは、何とも、もやもやする。

今はちょいと、歴史ものに気合をいれておるので、余事がきわめて鬱陶しく見えます。
また心境かわるでしょうけれど。

2015/12/18

短編に難渋。
「老虎」の文体をいい加減、身につけたい。
「おお、これいいぞ」
とか思いながら書いた、その日の午後に嘆きながら抹消する。
３行書いて５行戻る。
１行書いて、１ページ戻る。
そんな日々、ツイッタに流れてきた箴言で、

【読者は著者が苦しむほど面白い。】

というのがあったので、やはり、仕方ないなあと思いつつ、ちまちまと進むしかない。
これが書けたら俺進化するんだ……と念じながら。
（未だあたしゃ小説の書き方がわからない）

んでもって、これ書き上げたら、前に初稿を書き上げた長編を、
思いきり書き改めたい。
やはりあの文体じゃダメだよ。

そんなこんなで、昨今は、山本勘助の専門家になっております。
前には、武田信虎の専門家になっていたわけですが、
何でしょう、キリシタン史と違って、勘助で論文を書こうぜーーとはならない。
逆に、キリシタン史使って小説書こうぜーーというのも、あまりない。

キリシタン史の方が、分からん、気になる部分が多いと思うておるわけですが、
自分のあたまの切り替え方って実際どうなっているのか、
自分のことなのだけれど、ちょと不思議であります。

2015/12/14

ここしばらく、毎年の正月といえば、
昼はスタバで小説やり、夕には帰宅して飲んだくれつつビデオを見る、
という感じで過ごしておりましたが、
そういえば実家に引き移ってしまい、この恒例もとりやめ。
年寄りの顔を見ながら過ごすのもおもしろくないので、どこぞへ行こう、
でも別に観光したくもないし、ホテルに籠もってカタカタやるのも愉しかろうと、
静岡は清水のホテルを予約しました。

なぜ清水かといえば、安いから。
まえに静岡駅まで原付で出かけた折、静岡駅より、清水駅周辺のホテルの方が、
断然よさそうでしかも安かったーーのを覚えておりまして、
さくっと予約してみました。

別に観光するつもりはないけれど、カタカタやりつつ、
富士山に、清水港が眺められれば良い正月となるかなあとも思われます。
今川氏がらみでもありますし。

先週〜週末は風邪。小説やろうにも頭ぼんやり。
ただ辛うじて、山本勘助について、いくつか良い資料を見つけたので、
何とか、年内に、編集さんに送りつけてみたいけれど、、、さて、その水準で書き上がるかしら。
でも勝負すると決めたからには、やるばかり。

2015/12/03

「烏賊の降臨」
という短編をこちらに載せました。
http://p.booklog.jp/book/35143/chapter/162769

「共幻」のコンテスト、池部さんの回で、芋屋だーらという名前で出したやつです。
応募数が少ない少ない言うてましたし、
ここはひとつ、判定に困るような奇っ怪なやつを投稿してみようと思うたのです。

奇妙な発端。
読者を引きずる運び方。
転機。
結末の大きさ。
題名。

等々、割と「常套的」な作法といいますか、作法を意識した書き方をしています。
それがおもしろくなるかどうかは別問題ですが――自分の作法メモとしての一編。

「共幻」には、ペンネームを変えて、ほかにも出してみようとか思うこともありましたが、
まー、いいや。

2015/12/02

12月。
見ると先月は５度しか日記を書いてなかった。
どうせ、小説書くしかないのだけれど。

――歴史物の長編初稿を書き上げた。
これを一年かけて直して行く。。すでにもう一章（史実でいえば３年ほど）
追加しないとダメだと思うている。
半年くらいで読めるものにして、編集さんに見てもらいたい。
前に見てもらったのが、けちょんけちょんだったので、危機感ある。

でも考えてみると、３００枚の歴史物をまがりなりにも「了」と出来たのは、
実は初めてのことなので、よかった。
ともかく、書けるのだ。

で、慌ただしく歴史物に区切りをつけたので、
星海社に出すためのSF長編読み返し・書き直し。
人物の置き換えだとか結末の変更とか、書き直しはおわった。

で、もう出しちゃおうと思うて、頭解き放つべく、
信長の野望やってたら、
「おまえ、もう一回くらい読み返せよ」
と自分に言われたので、読み返し。
細部の日本語、表現で粗目立った。
この辺つぶさねば、編集さんは見下げてくるに違いない。
あぶなかった。
でも１２／７必着だから、これも今週末でおわる。

講談社「決戦！」シリーズは、「小説NON」を並べないような、近所の書店にも並んでいた。
読んでみると、自分の歴史物は（作者的に）難しく書きすぎてるんじゃまいか、の感あり。
もっと（あたくしは）楽をしていいのかもしれない。
力点の置き所。
掲載される諸作に対抗できるだけの力はあるぜ、という確信ゆるがなかったので、挑む。

論文用の、イエズス会記録の翻刻と翻訳を終了。
思っていたよりは弱い史料だったけれど、使い方次第。

とりあえずは、来春までに論文書いてしまおうぜ。

そんなこんなの日々。

「ふすまの向こうの文学：てきすぽどーじん９号」のための小説を考えます。
「どーじん」は、賞に出すわけでもなく、ネットで普通に公開できるこの時代に、
わざわざ自腹で印刷して同人の間で回し読みする――というものであって、
そんな、普通じゃありえないものを書きたいですね。

2015/11/25

週末に、歴史物３００枚の初稿がでけたので、ラノベの読み返しに取りかかりました。

前に、キャラクタがさあ……と言われていたものを、
さてどう直したらいいか、名古屋のとあるカフェで考え込んでおりましたところ、
ヒロインと、主人公の男友だちの立場を入れ替えたらいいんじゃね？
と思いついて、それで直しております。

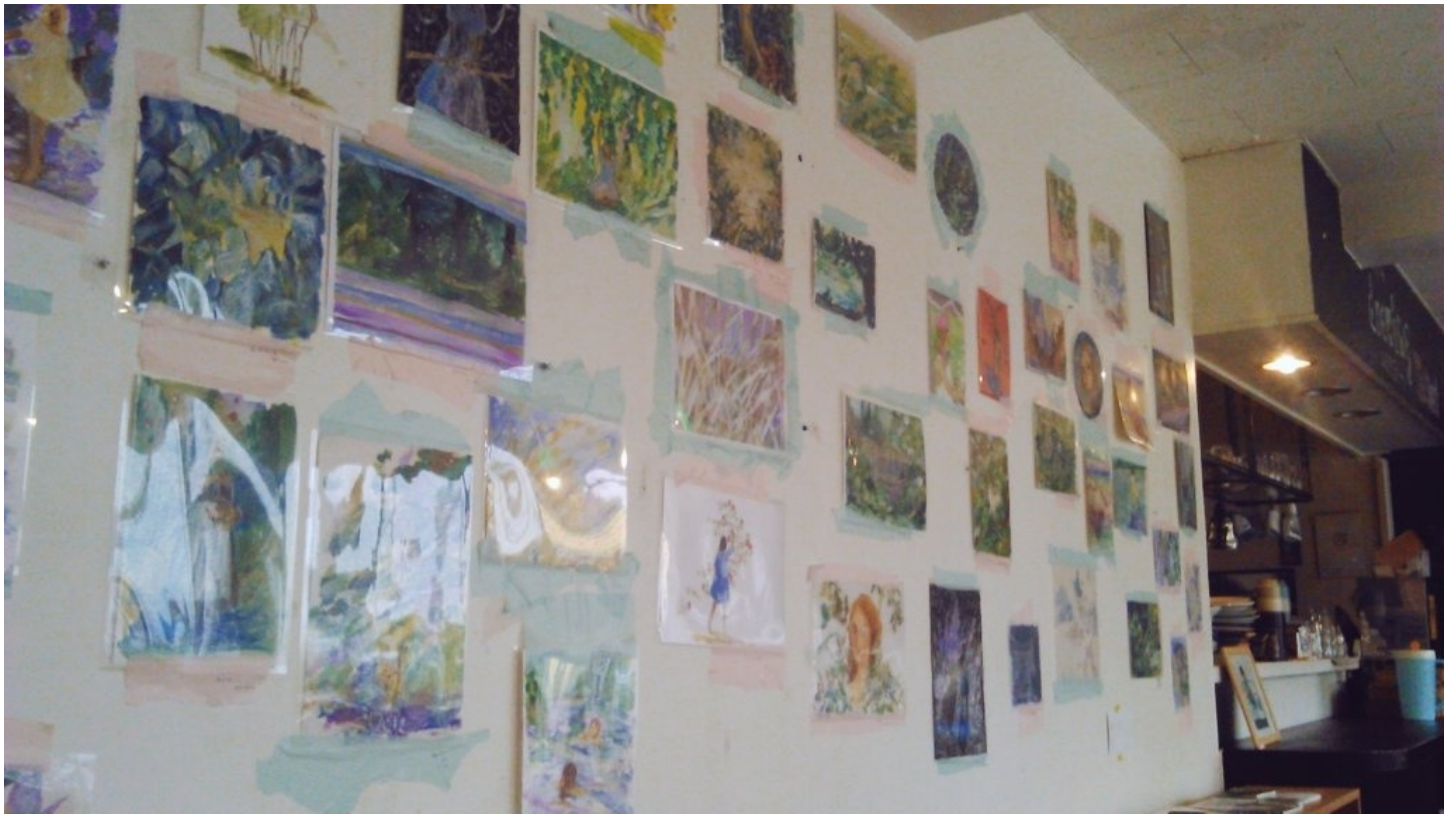
人物関係を思うに、そうすることで主人公の立場が強化され、ヒロインの魅力が増して行く気がします。
それが正解かどうか。
とりあえず、１２／７必着締切めざして、せっせと手直し、手直し。

ときに「七難七福」という題名の、１００枚時代小説がありまして、
これ、たいへんおもしろく書けており、
当初は、今年の「九州さが」に出すつもりだったのですが、大賞いただいたし、
ラノベ風味が濃いこともあって、始末のつけようがなかったのですね。
で、これも名古屋のカフェで思案した結果、
「３００枚にして、星海社Fictionsに出そう」
と方針決定。

１２／７の締切に、今やっているＳＦを出して、
その四ヶ月後の締切に、この「七難七福」の長編を出す、と。
せっかく座談会で取り上げられたのだから、印象に残っているうちに、
持ち玉は撃ち尽くしておきたい。
これでダメなら、仕方がない。

あと、講談社が、川中島合戦の山本勘助を題材とした、６０枚ほどの短編を募集していると知ったので、
年末年始の課題とします。
大賞とれば、葉室麟とか伊藤潤とかの、今現在の時代劇作家と一緒に掲載されるとあって、
これは勝負して行かねばなりません。

……で、これら方針を決めた名古屋のカフェですが、
あたくしの好きな絵描き、うえだはるきさんの展示があって、参ったのです。



遅めの時間に行ったので、お客さんほとんどいなくて、
のんびり、静かに眺めることができました。

個人的には、うえはるさんの絵というと、こういう落書きーーというのは失礼ですが、
何でしょう、気を張らずに描いたものが、特長になろうと思うています。
やわらかさというか、淡さというか、、、カフェのお客さんの一人が、
「おお、童話の世界だなあ」
とか口にしていたのを聞きましたが、そういうぼんやりした感じが、あたくしは好きなのです。

うえはるさんの絵は、かれこれ６－７年は見続けておりまして、
こういう、「落書き（いい意味の！）」も、何枚か持ってますし、多数見てきました。
で、今回、ドイツとか各地を旅行している最中に描かれたものを見て、
ーーうえはるさんは、旅の前にも、「日々のドローイング」を続けていて、
それを「深く潜るための訓練」と言うているのですが、
ともかく今回の旅行絵を通じて、

「そろそろ、深く潜った先の絵をみたいなー」

とか思うに至りました。
きっと、相当おもしろい景色・世界があるのだろうなあと思います。

ね。

2015/11/16

自慢ですが、かれこれ１５年ほど前、あたくしはパリに、
都合２ヶ月あまり、ホームステイしてたことがあるのですね。
とはいえ、金も語学力も友だちもおらぬ未成年のことで、
方々を出歩くこともできず、基本的にホームステイ先に引きこもっておりましたが、
いやはや、テロの話はおそろしいものです。

あたくしがいた頃、たしか通貨はまだフランで、
イスラム教徒など、ああ、世界史の教科書で見たなあ、という程度だった気がして、
それからのパリは、といいますか、世界の変化はすごいものだなあとか思ったりします。

自分は、変わりなく小説書くしかないわけで。。

時に、やはり１２月７日締切の星海社Fictionsに出しておいた方が良いのじゃまいか、
の念が日増しに強まり、
今の歴史物の初稿をあげてから、読み返しと修正に取りかかろうとも思うておりましたが、
それじゃどうしても間に合わぬので、
ここはひとつ、歴史物を中断して、あと半月でラノベを書き直してみようかと、思うのでありました。

まー、間に合わなきゃ、仕方ない。

思い出補正もあって、フランス情勢は気になりますが、
ともかく今は自分のことをするばかり。

2015/11/09

『ロミオとジュリエット』をふと再読しまして、
知ってはいましたが、筋立ては強引というかむちゃくちゃなのですね。
行き違いと勘違いのご都合主義。

ーーでも、それでいい。

ざっくり言って、抜群におもしろいわけで、
合理性云々など、ざっくりでよろしい。
そもそも合理的にやろうとしたら、二人が恋に落ちるくだりからして怪しくなる。

とまあ、己の長編の筋立てに疑念を抱くこともあるのですが、
とにかく書いちゃえ、書いちゃえ、と思うのでありました。
書いていて「うーん、これで説明つくのか」などと不安になったときには、
この『ロミオとジュリエット」を見返すなどして、
物語のおもしろさ、観客の求めるものなどについて、思いを致せばよろしかろうと思いました。

……それにしても。
やっぱり、頭を使い、きっちり書こうとしていると、
「どかーん！　ぎゅばーん！」
的なやつを書きたくなります。

どかーん！
ずばーん！

長編はあと２００枚くらい。
題名「歌道宗匠の忍び」にしようかと思います。
とりあえず年内に初稿書き上げて、
年末年始は、ずばーん、どかーん系をやりたい。

でも星海社、前のがたいへん良い具合だったので、次もきっちり読んで貰えそうで、
１２／７の次回締切に出しておきたいところだけれど。。むむーん。

2015/11/04

いろいろ感想文。

Ｇのレコンギスタ（全話）
ざっくり言えば、詰め込みすぎ。
まー、でも毎週ロボットを出し、新兵器を出し……とやった挙げ句、
あそこまで話とキャラクタを詰め込んで、なお魅力的に仕上げるのだから、
ガンダムはすごいなあ。。
何にしても、二十数話じゃ、短すぎる気がしました。

瀬戸内寂聴「さよならの秋」（掌編・雑誌「すばる」掲載）
老残。
ラインとか、デモとか、今時の単語を振りまく、みずみずしい９１歳！
とか言われると思うているのでしょうかね。
デモに参加する少女が、デモ参加男に浮気し、参加しない恋人に別れを告げる筋。
主人公の少女が、あまりに頭まずしい感じに描かれているので、
果たしてデモ参加を擁護しているのか、けなしているのか、よく分からず、
その政治的中立性を企図したのなら、すごいなあと思った（企図していないと思うので、老残と思う）。

大江健三郎「河馬に噛まれる」
昨今の、デモ流行（だいぶ沈静化したみたいですけど）をちょっと考えたくて、手に入れた。
浅間山荘事件で、内輪もめして自滅した（今のあたくしの視点からするとどう見ても阿呆な）連中を、
いかに大江さんが処理・認識するかの過程。

さしもの大江さんも、彼らの行動は阿呆であると思っている。
思っているけれど、左翼思想の極致まで行った若者の思いなどは尊崇されるべきであって、
でも実際、何だかよくわからない理由で仲間を虐殺している彼らを、
そのまま擁護することもできず（つまり自分の感情を肯定することもできず）、
とにかくもやもやしている間、浅間山荘の中で、糞尿処理係をやっていたという、
虐殺にそれほど関与していない、つまり擁護しやすい人を見出して、あれこれ弁護してみたり、
思考実験してみたりしている点、まことに興味深かったです。

大江健三郎は、あたくしとは「正反対」なので（昔、講演会で質問した際、本人から直接言われた）、

政治的な問題を考える際は、何かしら読みたくなります。

池部九郎「ＬＯＳＴ」（上・下）
「共幻」の短編コンテストで、あたくしの前の回の特別審査員の作。
あたくしは、知り合いの本だからと言って買うことはまずないのですが、
pixivのコンテストの第一回受賞作ということで、どんなもんだろうと、興味ありました。
内容――単純にいっておもしろく、デジタル音楽関係の用語も、
場面場面の説得力をつくり、初音ミク方面で売れて行く過程も、まったく知らない世界ですが、
「そういうものか」
と思いつつ、読み進めることができました。

何というても、題意である喪失――が、あだち充の良い漫画のようで、
物語が、みごとに流れて行くなあと思いました。
キャラクタも、pixivの仲間とともにつくりあげた――とのことですが、良いもの。
合理的な歴史小説書いている身からすると、時おり不自然というか、
それいいのか――と思うこともありましたが（そもそも幽霊出てくるし！）、
まー、そんなこと気にしてたら読書になりません。

文庫版と、pixiv版で、終わり方が異なる――ということを、ご本人から聞きまして、
ファミ通文庫の編集さんからの修正指示で書き直した部分、読み比べたところ、
あれです、文庫版の方が、プロの仕事だという印象を持ちました。

……うーむ、やっぱ知った人の本だと感想も書きにくいじゃない。

2015/11/02

特別審査員、というのをやらせてもらった「共幻文庫短編小説コンテスト」
結果発表となりました。
http://kyounobe.com/short-story-contest/schedule/page-1340/page-1903

各作について、できうる範囲で丁寧に感想・コメントをつけました。
的外れかもしれませんが、まー、そういう意見を持った奴もいるのだなあといった感じで。
とくに佳作となった一編、あたくしはほとんど評価していないのですが、
高波さんは優秀作に推しているとかありますし、
読まれ方はいろいろです。

推薦作、高波さんとけっこうずれるかなあと思うておりましたが、
上記以外は大きくずれていないようで、
なるほどそんなものだろうねえ、などと安堵したというか、ふーん、と思いました。
個人的には、「一次落ちコレクター」を長年続けていたこともあって、
なるべく多くの作を、佳作（候補）にしたかったです。

「いいところあるから、がんばろうぜ！」
という感じで。

「印象に残った作」としても７つ挙げたので、あたくしの挙げたのは２０作。
意図したわけじゃないですが、「てきすぽ」時代の８００字小説バトルを主催したときも、
入選作は、全体の3分の1くらいーーを方針にしていたので、
まあ、いい具合じゃないでしょうか！

時に、週末、南山大学の学祭がありまして、文学研究会ＯＢＯＧ会に参加、
その折、最新の部誌をゲッツし、読んでみたわけですが、
あれです、みなさん文章まことに上手なのですが、
主題というか、語る内容が、まことに「Me! Me! Me!」という印象。

もちろん、あたくしが現役だった頃から、そういう作は多かったわけですが、
でも何でしょう、、、
主人公が何もしないうちに、誰かから救われる、肯定されるーー系の話ばかりで、
しかも読み手が意識されていない感が強い。
「私の小説は、これだから」
「別に読めないなら読まなくていいです」

「私は私なので」
という意志の強さというか、何と言うか。。
（文章のうまさも、自分に向けて書かれているので、そりゃ、整うだろう。。）

それに比べると、「共幻」は、一応コンテストであり、審査員読みまっせーーというところへ、
敢えて投稿されたものなので、多くの作で、読み手が意識されており、
おもしかったり、おもしろくなかったりするわけですが。

……うーん、何でしょう。

まー、いいです。
「私は私」
で、ともかく、せっせと時代小説を書き上げるばかりですね。

2015/10/29

昨日はにわかに思い立って、東京へ行ってきました。
「共幻文庫短編小説コンテスト」で、あたくしの前に審査員やってた、
池部さんに会うーーのが、まず第一の目的。
それから、博士論文書くのに使う、イエズス会関係の記録を見るのが、第二の目的。

で、まずイエズス会の古記録を見るべく、
東大駒場図書館を訪れました。
そこで、Jesuitas na Asia 「アジアのイエズス会士」という本、といいますか、
記録集の写本をコピーしてもらいました。

これがどれほど貴重な本か、人に言うても理解されないので悔しく思いますが、
原本は、ポルトガル・アジュダ宮殿の図書館に収蔵されている、
手書きのイエズス会古記録集で、このうちの一巻について、
戦前、写真に撮って日本に持ち帰った方がいる。

その写真本は、現在、九州大学と天理大学、それから東京大学にのみ収蔵されて、
ちなみに、Jesuitas na Asia （のおそらく全巻）は、マイクロフィルムになっており、
日本では上智大学で閲覧できるのですが、複写も撮影もできぬ扱い。
コピーするなら、その写真本を用いるしかない、というものなのです。

内容はともかく、日本語の解説と、ポルトガル語活字のガイドがあるので、
それと見比べながら、手書きの、ほとんど読めないような文字を追って行くと、
カタログガイドのとおり、「これ！」と思う、欲しい箇所を発見。
内容読めないのですが、「あったあった」とひとり喜びにひたっておりました。

そういう次第で、１１時に入館し、１１時半にはコピー箇所を特定。
あとは、貴重書なので、事務の方にコピーを依頼して、こちらは昼食。
昼食済ませれば、コピーができていて、ゆうゆうと池部さんに会えるぜーーと思うていたら、
なかなかコピーが終わらない。

多少時間かかりますが、と言われてはいたので、
ともかく中庭で、池部さんの「LOST」を読みふけっておりましたが、
読み終わり、売店や書店を覗き、「ああ、東大の書店にもラノベは売られている」と感心し、
図書館の閲覧室入って新聞読み、週刊誌読み、小説雑誌の中に瀬戸内寂聴の耄碌したひどい短編を見つけて呆れ返り、

館内の授業推奨本を読み、それでも終わらず、
結局、４時半ごろに、「コピーでけたよ」の連絡をもらいました。

コピー箇所、１０枚だけでしたが。。。

それからばたばたと、池袋へ移動し、病気だという池部さんのご自宅へーーと思っていたら、
「とりあえず池袋駅来ましたよ」
と連絡を受けまして、
「うへ、出歩けるんだ？？」
とまず驚きつつ、ともかくお会いしてみれば、いや、本当、まことに元気で。。

ひょいひょい歩きながら、
「じゃあ飯食いに行こうか」
と、池袋の雑居ビル地下にある、地元人しか知らぬような居酒屋へ連れて行っていただき、
あれこれ、あれこれ、お話うかがいました。
（ツイッタに「俺はいつも元気だよ～～*\(^o^)/* どんな時もヘラヘラ笑っているのが信条^_^ ヘラヘラしてるとね、不思議といろんな事が上手くいくのでWW」とかありましたが、まさにそんなお人柄と見ました）

お店は、居酒屋大門、だったかと思います。
カレー炒め、ニラ玉、明太豆腐がとくに絶品の店で、
さすがに池部さん、お酒は召し上がらなかったですが、
ためになる話多くてまことに愉しく過ごしました。

遠くないうちに、「共幻」の高波編集長、それから次の審査員多千花さんと、
とりあえず４人で飯を、ということになりました。
たいへんためになる会だと思われます。

2015/10/26

ぼちぼちと、「共幻文庫短編小説コンテスト」の優秀作、佳作の候補を絞り込みました。
でも読み返してみると、
「あれ、意外とこれダメなんじゃ？」
とか、
「何でこれダメだと思うてたんだ？」
とか、評価定まらないというか、決めかねる部分も多いです。

けど、まあ、見知らぬ人の小説。
市販されている大半の本も、第一印象がすべてですし、
最初の読後感を重視して、決めてしまいたいと思います。

時に、前回審査員の池部九郎さんの本買いまして、こりゃサインもらわねばと、
この際、上智大学キリシタン文庫に所蔵されているイエズス会史料の閲覧とあわせて、
東京へ行こうと思いつき、あさってあたり、参ろうと思います。

図書館は平日限定なので、早めがいい。
……と思うていたら、
『アジアのイエズス会士』というのがその閲覧したい本（マイクロフィルム）なのですが、
「これは寄託されてる本なので、コピー不可でっせ」
と言われてしまい、脱力。

マイクロフィルムの、古スペイン語。
それほど多くのページを見るわけじゃありませんが、
一日で書写できるとは思えないので、こりゃ上智はまたの機会にするしかあるめえと、
東大の図書館に蔵せられているという、（おそらく同一の）写真本を見に行きます。

これまた、
「貴重書につき通常のコピーは不可。特別な上向きコピー機でなら複写できます」
「あと、デジカメ持参すれば、写真とっていいよ」
という、まことに「これが研究ばい！」という感じで対応しなきゃならんようですが、
とりあえず内容は確認できそうなので、まずはコピって、
あと時間かけて、わけの分からん文章を、せっせと翻刻＆訳出することになろうと思います。

本当は、もっと簡単な方法で論文書けりゃいいのですが、
まー、でもおもしろいテーマがあったのじゃろ、ということで、満足しておかねばなりません。

長編は、やっぱり腑に落ちないので振り出しに戻る。

2015/10/23

「共幻文庫短編コンテスト」６３作、読んでおります。
ラノベから純文学、ショート・ショートにＳＦ、はた時代小説。
ジャンルも、質もバラバラ。

がんばって読んでおりますが、的外れな短評も出ようかと思います。

でもせっかく投稿していただいたのですし、
少なくとも何作かは、あたくしが時代小説書いてるから――というので、
投稿していただいたと思われるので、
たとえ的外れになろうとも、阿呆なことになろうとも、
何か一つでも役に立つようなコメントができればと念じ、せっせと短評書いております。

あたくしは、南山大学の文学研究会というところにおりましたので、
拙い、素人小説における、ある種の傾向みたいなのは把握しているつもりでしたが、
いやはや、なんとも計り知れない主題や作風を持つものもあって、
「うーん、時代の変化かなあ」
とか適当なことを思うたりもしてます。

いろいろ思うところはありますが、まだ全部読み終わってないですし、
今回の経験は、後日、たんと書き残します。

あと、、池部さんにサインもらうべく東京行くぞと決め、
あわせて上智のキリシタン文庫を訪れる予定を立てます。
どうせ図書館平日しか開いてないので、年休使って、なるべく急ぎ目で。

2015/10/20

星海社Fictionsというところに出していた、長編「秘密の勇者の最強剣」というのが、
座談会の冒頭で、そこそこ良い具合に取り上げられておりました。
一次、二次、三次、最終、、という、よくある経過を取るわけじゃないですが、
いい感じなので、取り上げられた部分をコピペしておきますー。
http://sai-zen-sen.jp/works/extras/sfa015/01/01.html

タイトルはダメだけど

大里
トップバッターは林さん！　『秘密の勇者の最強剣』。

林
タイトルからは想像できないと思いますけど、かなり面白かったです！　勇者が魔界を統一した後のお話で、「強くてニューゲーム」状態なんです。人間界と魔界の間で平和条約を結んで、魔界の王様の娘まで嫁にもらっちゃって、勇者はやることがない。だからこの作品の冒頭は、勇者が風俗でハッスルしているところから始まります（笑）。

太田
『イクシオンサーガDT』とか、ドラマの『勇者ヨシヒコ』シリーズを彷彿とさせますね。ぼくは両方とも好きだけど、この作品ははたして？

林
勇者が嬢と合体している最中にチ◯コがドリルに変わる呪いをかけられてしまい、「抜けねえ！」と、いきなりピンチに陥ります。

岡村
（しみじみと）面白いな……。

林
テンポも良くて、お話もなかなか読ませる。アニメ『銀魂』の1話だったら間違いなく神回になると思います。この手のショートが３作続くんですけど、個性的な「点」にはなっているけど、まだ「線」になってない。

岡村
連作短編にはなってないってことね。ただの短編３つになってると。

林
「線」にしようと努力はしてるけど、もうひと工夫必要という感じですね。あと、ちょっと頑張って欲しいのはネーミング。わざとやってると思うけど、全体的にすべってるんですよね。たとえば、「色欲の魔女ヌーブラ」とか……。

平林
林さん、それは鳥山明先生ディスかね？

岡村
『ドラゴンボール』にも「ダーブラ」とかいたでしょ？　近いセンスだと思うけど、それについてはどう思うの？（真顔で）

林
うぅ……鳥山明先生リスペクトって言われたらそうなのかもしれないけど……。老剣士が集う戦闘集団の名前が「JJ無双」とか、読んでるこっちが恥ずかしくなる！

岡村
まぁ、声ではなくて文章にするとさむいジョークってあるからね。

林
勇者のパーティである魔法使い、怪力キャラ、魔王の娘（嫁）の過去が明かされたり、誘拐された仲間を救うという内容なので、物語が内に内に展開されて、最終的に話が小さくまとまりすぎているのも惜しいですね。でも、キャラや発想に光るものがあるので、誰か読んで欲しいなぁ。

太田
まあ、大冒険はもう終わってるもんな。

林
そうなんですよ。でも、狭い身内ネタってのがこの話の面白さでもあるんですよ。

岡村
たしかにそうだね。

林
そこを修正すると、凡百の話になるかな、と。

岡村
聞いてる限りでは惜しいよね。

林
読めば気にいる人いるとは思うんですけどねえ。

太田
誰か読んでみない？　……って！　こういうときサクッと手を挙げないから、石川さんと大里さんは小物感がどんどん醸成されていくんだよ。座談会の場はパフォーマンスの場でもあるんだから!!　ないわー今のはないわーー、２人ともダメだね。これだけ林さんが「押すなよ押すなよ」を３回くらいやったのに……！　「じゃあちょっと読ませてください」くらいあんたらが言わないでどうするんですか！　先輩がせっかく体張ってるのに。

石川
大里
すみません！！！

林
私、座談会に初参加した時の苦い記憶が蘇ってきました……。

大里
……というわけで読んでみたんですけど、物語を推進する原動力がほぼ100％下ネタで笑いました（笑）。コメディとしては面白かったです！　死人が蘇る魔法が便利に使われすぎてて倒した敵がガンガン復活してくるのは良くないですね。林さんもおっしゃるように魔王とか神とかでてくるわりに、話のスケールが村くらいに小さいというのはもったいないと思いました。最後を変えるだけでも随分違うのではないでしょうか。

石川
僕も読みました。スケールの小ささはそこまで気にならなかったです。むしろ、壮大な設定がバンバン出てくるのにちゃっちい、というギャップは魅力なのではと思いました。ギャグはそこそこ笑えたんですが、まだギャグ度数80くらいなので、もっと全振りしたものも読んでみたいです。

林
まとめると、『銀魂』のなかの神回じゃなくて、『銀魂』という作品そのものを作って欲しい。そんな感じです。また是非送ってください！

--コピペ以上--

……何ちゅか、もう少しですね！
おもしろい小説書けるようになれば、
ジャンルなんて関係ないのだと思い続けておりましたが、なお頑張りたいと思います。

2015/10/15

「共幻」コンテストの締切は、来週２１日（水）となっています。
ぼちぼちと読ませてもらっておるのですが、つくづくと、
日本語にうるせえ奴だな、こいつはーーと、自分で思います。
短評でそれしか言うてないやん、とも思ったりして、気をつけたいのですが、
しかし、気になるので仕方ない。

なお、誤字脱字は、それほど気になりません。
「あー、間違うとるわ」
と思うだけです。
けれど言い方の間違いや意識のなさーーたとえば、前に花村萬月さんが言うていた、
「夜が来た」と書いてはいけないーーの辺は、気になります。

別に「夜が来た」と書いていいのです。
ただ、厳密な日本語解釈として、夜が来たりはしないーーの辺を、
作者が理解した上で使用しているのかは、気になります。
。。分かりやすくいうと、
「芋を洗うようだ」
という表現を使うとき、果たして作者は、
本当に盥に芋をわらわらと入れて、洗っているところをイメージして、その謂を使っているのか
、
単純に、こなれた慣用句として使っているのか。
後者であれば、それは単純に、「人が多い」と言うた方が良いと思うのですね。

直近のニュースでおもしろかったのは、
朝日新聞のコラムが、愛らしい声優ヴォイスで聞くことができるようになる、というニュース。
その名も「聞かせて、天声人語」だったか、そんなアプリケーションだったと思いますが、
なぜ「聞かせて」で、「聞いて」ではないのか。

これは明らかに、システム運営者や執筆者が、
想定されるアプリ使用者は、当該コラムを読みたがっている、心底から聞きたがっている、
と妄信していることを明らかにするので、たいへんおもしろく感じるのですが、
愛らしい声優ヴォイスを導入してまでコラムを宣伝するのですから、
どう考えてもこれは、「聞いて」でなければならないわけで、
そこら辺、かれらの日本語に対する意識が欠落していることが指摘できるわけです。

※アプリのシステムとして、毎回声優が「ねえ、今日のコラムを聞かせて」と言って始まるのであれば、
アプリ名としては妥当かもしれないが、それはもはや幼児の絵本である。

――とまあ。
小説書くからには、それくらい意識的に書かなくてはならんなあと、
前に編集さんに「けちょんけちょん」に指摘されたものを読み返して、
つくづく感じ入った次第であります。

2015/10/13

特別審査員やらせてもらう「共幻文庫短編コンテスト」第7回の締切は、
10月21日です。
締切が平日なので、まー、第6回ほど多く集まらないと見ております。

今のところ１３編ありまして、あたくしが特別審査員だということが関係しているのか、
歴史物がすでに複数並んでいて、まことに嬉しく思います。
が、どんなジャンルであっても丁寧に読ませていただき、すべてにコメントできるものと思います。
http://kyounobe.com/short-story-contest/schedule

人様の作にコメントする時は、絶えず、
「おまえはどうやねん」
と脳内リフレインしており、今まさに書きつつある小説の自戒も生まれてありがたいです。

時にタベは、 愛知大学大学院日本史ゼミ飲み会でした。
博士学生４、教授３という飲み会は、やっぱり稀有なものだと思います。

あたくし以外、先生方も無論、みな学部から延々、日本史中世史にひたっているわけですが、
中であたくしのみ、学部も異質なら放送大学修士を経て、社会人入学してキリシタン史をかじっているという、
なんというか、きわめて異端な人間だなあと痛感。
とはいえ、まことに得がたい経験、きっちりかっちり、無駄にしないよう励みたいと思いました。

博士課程は、もう研究者なのだちゅーのは、なるほどそうですわね。
研究せにゃなりません。

2015/10/09

ツイッタ見てましたら、
「佐賀の戦国史 - 龍造寺鍋島伝 - 公式アカウント」
というところが、何やら興味深いセミナーを開催していたようで、
無論、遠すぎて行けませんが、お願いしたところ、冊子を送っていただきまして、
まことにかたじけなく思います。

唐突な連絡で不審がられるかしらんと思ったところ、
さすが佐賀の方、「九州さが大衆文学賞」のことを、新聞を通じてご存知だったようで、
改めて、受賞ありがてえなあ、と思いました。

いただいた冊子、まだ詳細に読めておりませんが、
「戦国時代の佐賀には、小説の主人公となりえる個性的なキャラクタがたくさんいるぜ」
「佐賀は眠れる題材の宝庫だ」
「佐賀戦国ラボの活動が実り、そうしたキャラクタやエピソードが小説家の目にとまり、佐賀戦国を舞台にしたベストセラー小説が生まれ、一気に全国区になることも夢じゃない！」
といったことも書かれてまして、
あたくしにできるかは知りませんが、挑むくらいは、挑んでまいりたいと思うのでありました。
実際、個性的なキャラクタ、話は多いですし、挑むつもりでいましたし。

さて、そんな日々。
ぼんやりネットを見ておりましたら、
「九州さが大衆文学賞作品集５」が発売になったぜーーという、佐賀新聞記事を見つけました。
俺知らんし。

早速、佐賀新聞の方にメルしてみたところ、催促せずとも送っていただけたようですが、
とりあえず今は、佐賀県内限定販売で、amazonなどでも買えないようなので、
とりあえず、amazonで買えるようにしてくれたらいいなあと思うております。
（しかし、新聞記者さんは忙しい上、何か、佐賀の人って、商売っ気が少ない気がするので。。）

あたくしの作から、５回分。
選考経過とセットで掲載されて、１０００円ということで、
こりゃエンタメ系作家志望の方は、必読の書になろうと思います。
（だからもっと宣伝すればいいのに！）

「共幻文庫」短編小説コンテストは、今週の日曜、１１日が、テーマ「Rock'n Roll」の締切。
あたくしが審査員やる、テーマ「秋の空」は、２１日（水）締切。
今の調子であれば、全作品に短評付けますので、どうぞよろしく。

2015/10/02

人から聞かれるのが多かったので、芥川賞「火花」を読んでおきました。

お笑い芸人の内面や、芸人社会、売れて行く過程などが、
感心できるレベルで丹念に描かれていて、芥川賞受賞も納得。
ただ、文章粗雑で読みにくく、退屈な箇所も多い。
文章でいえば、もう一人の受賞作家のものとは、比較にならない。

作者が実感してきた部分＝尊敬できる先輩との出会いから、自身が売れて行く過程については、
これは作者にしか書き得ないもので、その点、相当程度評価できると思われる、
ただ、コンビ解散から社会人生活を開始する辺は、なんとなくイマイチ。

結局売れない先輩に対して、同情や憐れみでない視線を向ける冷静さは良いと思うけど、
そうしたため、結局全体として、
「ちょっとおかしなところのある三十路女が、もっとおかしな奴に出会って自己肯定する」
的な、あたくしの嫌いでたまらない「イマドキ芥川賞らしい」匂いをまとっている。

その意味で、普通。
なので、前の三島賞受賞できなかったのも納得でき、
そしてこの三島賞落選のため、銓衡委員の目がかわり、芥川賞受賞となった、
という前々からの確信は揺るがない。

個人的には、これはお笑い芸人の社会を描いたために成功したもので、
次は無いと思うけど、どうだろう。。
（書けば、そりゃある程度売れるだろうけど、作品の質として、これ以上のものは書けないのじゃまいか）

……以上、小説書いている身で、人から「火花読んだ？」と聞かれたときのためのメモ。
ご自由にお使い下さい。

2015/09/28

あたくしが「特別審査員」を行う、
共幻文庫の短編小説コンテスト、早速幾編か、投稿があったので、
余裕のあるうちにと、読んでみました。

あれなのですね、あたくし人様の小説を読み、感想を述べようとすると、
作者目線の批評しか浮かばない――のですが、
あるいは「特別審査員」の短評、それで良いのかもしれず、
それであれば、けっこうさくさく書けると思われます。

まー、何というても自分は第7回担当で、「特別審査員」制はじまっての３回目。
前の審査員の短評の書き方を参考に、良い具合に書いて行けばよろしかろうと、
当初不安でしたが、けっこう気楽になりました。
（まして自分のあとは、たちばなさんやし）

過去運営していた小説バトルなど、800字とか1200字とかの字数制限きびしく、
案外、似た造形の話が並んでげっそりもすることがあったのですが、
「共幻」の方は、短い頓知ものがあると思えば、ラノベあり、純文学風あって、
長さもバラバラなので、読み込んで行く楽しみがあります。

10/21締切なので、どうぞおもしろいもの書いて、投稿してみてくださいませ。
テーマ「秋の空」ちゅーことで、要するに、どんな話だってＯＫですね。

2015/09/25

そんなわけで、amazon Kindle にて、
500年の短編集: あやまり堂歴史短編集

を並べてみました。

長編に四苦八苦している中で、ふと、ここに載せたものを読み返すと、
「あー、いいなあ」
とか思ったりもします。

長編に悩み悩み、頭ぼやぼやしておりますので、
「これ終わったら、次はラノベ。もう絶対ラノベ。ばーとやって、ぎゅーんとやれるやつ」
と思ったりもします。
（たぶん、あたくしのラノベとして書かれるべきは、そういうやつなのだと思う。。）

時代長編は、放っておくと、毎度の失敗作の呼吸になってしまうので、
とにかく今は、長編の書き方だ、呼吸さえ摑み得れば、もう以降の苦労はないのだからと思い込み、
せっせと書くばかりです。

ちなみにラノベは、意外にもどこだったかで二次まで通過した、
「遙か銀河のディメンション」
というロボットＳＦものを、
「なろう」において、精度高くなるよう書き直し＆毎日更新したいと考えております。

2015/09/24

連休中に、３５歳となりました。
吉川英治の年表を見れば、３５歳のときにはもう、「鳴門秘帖」を書いていたわけで、
あー、もっと頑張らねばなあとぼんやり。

前に日記で、第二章まで書いたと書いて「もう大丈夫、いいものだ」とか思っていた長編も、
どうやら大丈夫ではなく、最初から書き直しておる始末。
「もう大丈夫」とはもう書かない。
とりあえず、苦しみ悩みつつ書くしかありません。

そんな小説ですが、四つ集めて、Kindle短編集を出す準備が整いました。
「朱雀門千枝子の暗殺成功」
「宮様の波斯剣」
「木屋瀬川合戦」
「マラカ瑣記」
という「歴史もの」４編が載ってます。
いずれも、すでにどこかしらに掲載しているものなので、無料キャンペンは行いません。

共幻文庫の短編小説コンテストで、
「特別審査員」
をさせていただくからには、何か容易に読めるものがあった方が良いだろうと思いました。

表紙はこんな具合。
明日あたり、買うことができると思いますので、興味ありましたら、どぞ。

五百年の短編集

あやまり堂歴史短編集

あやまり堂

2015/09/18

政治と宗教ネタは、初対面では避けようね、
というのはよく言われる気がするのですが、
安全保障の政治問題、新聞TVのお祭騒ぎを見ていると、まことに真理じゃなあとか思います。

政治と宗教、どちらも「こう」というぼんやりした理想像があって、
でもそれは何ちゅーても、イメージ像でしかないので、
「こうだ」「そうじゃない」
の議論おさまることなく、しかもそれは理想なので、
お互い少しでも、いちゃもんつけられてはたまったものじゃなく、
果てはイスラム原理主義者のごとく首切り合戦を行わなきゃ収まらなくなる。
首切りあったところで、究極的には、イメージの共有なんてできないのですがね。。
（共有のため、五重塔を建てたり仏像をつくったりする。ああ平和）

『日本霊異記』を読みまして、
これは、仏教原理主義者の説話集だなあと思うたのですが、
日本じゃ１０００年くらい前に通り過ぎたはずの原理主義が、
政治方面で時々沸き起こるのは、いつまでも人間くさい気がして興味深く思われます。

「こうだ」「ああだ」の理想像、立て方にも二つあって、
理想像を先に立てて、「ああだ」「こうだ」理屈をつけて行く方式の人と、
「ああだ」「こうだ」の理屈から理想像を立てて行く方式の人がいるとして、
しかもその理想像がおおよそでも一致しないとなれば、そりゃもう、話なんて通じるはずがない
。

この際は、何やらのイメージの共有のため、何かシンボリックなものを立てるしかありませんね
。
（まーでも、すでに国会の開会に際してとか、そのイメージ共有の象徴がいらっしゃいますか）

2015/09/17

筒井康隆「モナドの領域」読みました。
最高傑作にして最後の長編ーーとのことでしたが、
それほど煽るものかいなあと。
数多くの西洋哲学を弄んで飽きさせないのはさすがだと思うたけど、
日本の思想史界隈をかじってきた身には、西洋哲学一辺倒は、ちとぼんやりする。

冒頭２章の、導入の仕方は圧巻で、
こりゃすごい、俺の長編はだめだ、と思うたけれど、
中盤以降、すなわちモナドの領域へ入ってくる頃には、
「虚人たち」「エディプスの恋人」「パプリカ」
その辺を再構築したくらいの印象にかわって、ふーん、で終わってしまった。

まー、でもこれだけのものを書ける作家は、
日本にゃいないと思うし、世界でもどうなんだろう。

『新潮』にはほかに、大江健三郎と古井由吉の対談もあり、
大江健三郎晩節の負け惜しみが心地良く、
ほかに、三浦朱門の阿川弘之追悼文が、絶佳でありました。
筒井康隆「モナドの領域」のために買った雑誌だけれど、
あたくし的には、三浦朱門の文章で満足。

あたくしが阿川弘之を尊敬する理由が書いてあった感。

2015/09/15

今度、「特別審査員」というものをやらせていただくこともあり、
ここらでひとつ、Amazon Kindleで、短編集を出そうと思います。
恥ずかしくないものを集めて、「九州さが」受賞前後のもの４つほど。

「マラカ瑣記」（『もっとあたらしい歴史教科書　世界史Ｃ』掲載）
「宮様の波斯剣」（『ありえない歴史教科書 日本史Ｄ』掲載）
「朱雀門千枝子の暗殺成功」（『大きなお友だちの文学：てきすぽどーじん８号』掲載）
「木屋瀬川合戦」（『きた☆たん 北九州市短編・掌編集』掲載）

いずれも一応は、歴史・時代小説。
評判も悪くなかった気がしますので、「特別審査員」の小説ってどんなもんやねん、
と見られて恥ずかしくないものかなあと思われます。
全部、どこかに載っているものなので、無料キャンペンは行わず、静かに並べておく予定。

Kindle版こしらえるにあたってはすべて読み返し、微修正しますが、
「朱雀門ーー」だけは、編集さんに一度見てもらったので、
その意見を受けて、そこそこ、改稿しておきます。

来週くらいにお披露目できたらいいなー。

2015/09/14（特別審査員＆瀋陽メモ）

第7回「共幻文庫短編小説コンテスト」というイベントの、
特別審査員をやらせていただくことになりました。
http://kyounobe.com/news/1208
己の長編に四苦八苦しており、審査員面などできたものじゃない気がするのですが、
せっかくの機会なので、あれこれ読ませていただきます。

ときに、二泊三日で、大陸へ参りまして、
自由時間などほとんど無く、ぼんやりしただけで帰ってきたのですが、
それでも、通勤時間帯に小一時間、ホテルの廻りをほっつき歩いているうち、
行き交うバスに満員の人が積み込まれているのを見、
また、数多の種類のバッテリー二輪車に車、車、車、
さらに、道路に面した小店舗の前に、ベンチ出しておっちゃんたちがまったりしている姿を眺め
、
なんというか、要するに、とにかく人が多いなあという印象を受けました。

東京のラッシュ時間なども多く、ぞろぞろ大量の人が蠢くのですが、
これらはみなサラリーマンだと思われ、他方の彼の地では、
荷台に奥さんを横座りさせた牧歌的な原付が行くとか、
掘り返した歩道に、スコップかついだ工夫が仕事しているとか、
おっちゃんが屋台で何か売っている、マンションゲートのおっちゃんが前でだべっている――
とか、
とにかく雑多に人が多い印象を受け、
「ああ、こりゃあ、人権とかいろいろ、概念ちがうてくるわ」
とか適当なことを思うておりました。

薄汚れた団地の後ろに、細長い高層ビルを建てており、まことに心細いのですが、
何にしてもとにかく、人の多いのは強いわなと、あきれておりました。

攻殻機動隊の世界観ではありますが、
微妙に理解できる漢字ばかりに囲まれる、不思議な感覚は、
日本人にしか味わえまいと、キョロキョロしておりました。

しかし、、、行くからには、せめてもうちと、時間を費やしたいわね。

2015/09/10

そんなわけで、漢字の多い国へ初めてやって参りました。
何気なく使おうとしたツイッタとかフェイスブックがつながらなくて、
あ、この国にいるのだ、と実感しました。

言語、漢字漢文で読めるような、読めないような、
何とも不可思議。
英語の方が分かり良いような、漢字を見た方が分かり良いような。

華人多いマレーシアと似た雰囲気もあり、とにかく奇怪なる感覚。
二泊三日。
すぐ帰る。
今回は一端をかすかに撫でる程度でおわる。

2015/09/04

『日本霊異記』を読み始めました。
奈良時代の日本語で、漢文読み下しも見慣れない文句が多く、ちょと新鮮。
話自体、仏教色の薄いものは、おもしろいーーと思いますが、
仏教説話も、原理主義的な現世利益、因果即応報の辺は、まことに興味深く感じられます。

「宇治拾遺」のうち、あたくしの興味ある平安期からすると、２００年、３００年違い、
執筆年代を見ればそれからさらに２００年ほども違うので、
まったく違う世界のような、でも「宇治拾遺」世界観の端緒が見られたりして不思議。

そうそう、中巻だかに、筑紫の防人の話があるのですが、
防人として派遣された人が、現地で世話してもらうため母ちゃんを同行していたとか、
初めて知りました。
防人は、故郷から泣く泣く連行された、悲惨で孤独な人たち。。みたいなイメージがありましたが、
すくなくとも、家族を同行していた例もあったと。
（霊異記では、この同行した母ちゃんをいじめる、ちゅー話でしたが。。）

万葉集などに、防人のたいへん哀しい歌が多数収録されていて、
イメージはそこからつくられてきましたが、思えば、友だちが都へ帰って行くーー袖をしぼる、
みたいな、ある種、演出過剰の歌は、戦国期の冷泉為和のものにも見られるわけで、
そりゃ、防人、寂しくつらいものであったろうとは思いますが、
あたくしが今までイメージしていたものほどは、つらくない例もあったに違いないと、思いました。

「霊異記」の防人の話は、まことに興味深く、かれは母ちゃんを同行して、嫁は家に残しています。
労働力の問題、子育ての問題、当時の家族制いろいろあるでしょうが、
いずれにしても万葉集「防人の歌」で、
「両親と別れて寂しいぜ」
と泣いている歌い手も、実はとなりに奥さんを連れているかもしれず、
「嫁と子供と別れて切ないよう」
という嘆きを詠んだ人の傍らには、母ちゃんがいたかもしれない。
ーーそんなイメージの転換があっても良いだろうなあと思いました。

注文しておいた『古今著聞集』『沙石集』も届いたので、

ぼちぼちと、読み進めるとしましょう。

ひたすら書いている今時点では、ちょと、人の小説は読みたくない。
でも何か物語は、読んでおきたい……というとき、古典は良いですねえ。

2015/08/31

土曜日は、京都まで、放送大学歴史研究会へ。
今博士でやっている、キリシタン史は、愛知大学で進めたいこともあり、
平安期の橘俊綱の伝説をからめたネタを持ち込んだところ、
案の定、五味先生の関心を引き、さまざまなお話を引き出せたと思う。

また、『文学から読む日本の歴史』という近著をいただいた。
古典文学と日本史、従来はそれぞれ別個に研究されているけれど、
ふたつを総合的に考えるところに、おもしろさが生ずると思うし、
当時の人々の姿が、真に見えてくると思う。。
歴史小説など、そこへさらに現代性をあわせるところに価値が出ると思うし、
いやはや、やるべきことはいつまでも尽きない。

京都は久しぶりで、研究会は午後からだということもあり、
駅近くの東寺を訪れる。
実は東寺は初めて。
（小学校の修学旅行で行ったかもしれないけど、たぶん行ってない）

京都の仏像！　京都の寺！
そこら辺、歴史好きな割に、大して興味は無かったけれど（多分あまのじゃく的に）、
東寺講堂の、国宝仏像群には圧倒されました。
京都は、一度は、最低一ヶ月くらい、できれば一年ほど滞在したいなあと思います。。
たとえば東寺御影堂の弘法大師像は、朝ご飯のときご開帳されるようで、
しかも開門は朝５時だというので、早朝夜間を体験するには、滞在しなくちゃ。
著名な観光地以外にも見たいところ多い。

岡崎から京都までは１８切符。
片道３時間半ほど。
週末は、米原乗り換えだけで済むから、楽ちん。。。混雑ひどいけど。

2015/08/28

三歩進んで二歩下がる。
そんな感じで、ひたすら時代長編を書いてます。
つらいです。
でも最高に愉しい。

小説の書き方を考え、考えながらやっており、
史料の使い方、人物の摑み方、緩急、展開、章立て、言葉使い。。そこら辺いっさい、
要するに「小説の書き方」が、ようやくちょっとだけ、
手応えがある、手に触れるところへ来た、かなあ、というところなので、日記。

これが無事に書き上がれば、賞に結びつくかはともかく、
少なくとも、自分にしか書き得ぬものであるし、
本にはなるレベルに達するものと、そこは疑っていないのですが、
まー、でも、今はまず無事に書き上げることを考えて。

このところは、ずっと、朝晩の通勤中にも書いてます。
３０分弱の小間切れでも、意識する価値がある。

拘泥されるところは、何かがおかしいのは間違いなく、
プロならば、それを一つとして残してはいけない。

編集さんも、プロとして扱ってくれている、
というか、編集さんて、書き手に対してはそういう扱いしか知らないわなあと思いまして、
（養成所の先生じゃないのだ）
とにかく厳格に、厳密に。精度高く書いて行くしかないなあと、思うのです。

然る後、さまざまの課題や方法が摑み得れば、あとは気楽にやれる時期が来る、はず。。

気楽にやるといえば、今年も「てきすぽどーじん」をやろうと、
仲間とそういう話をいたしました。
テーマは「ふすまの裏の三人目」とか昨日、雑談しておりましたが未定。
どうせテーマなんて関係ないので、また今年も、はっちゃけたものにしたいです。

今の自分なりには、笑いの探求ーーは、やり終えたので、
何かおもしろいものをーー久しぶりに恋愛小説なんていいんじゃないか、なんて思いつつ、

青春小説とか、時節柄ふさわしいかもしれない、暴力団方面の小説とか、
あんまりやったこと無いものを書きたいと思います。
ま、適当に。
ぼちぼちと。

2015/08/25（秋田山形記の５）

帰路は、それほど書きとめるべきこともなし。
ただ朝、電車に乗る前に立ち寄った、駅直結の霞城セントラルという高層ビルは印象に残った。
無料。
眺望すばらしい。

山形駅近くに城跡があり、そのまわりはずっと住宅街が広がっている。
民家はそれぞれ２－３台は入る、広い駐車場を有していて、
そういう住宅街が、市街化調整区域の田んぼで区切られるまで続いている。
田んぼは、山並みの手前まで開拓されていて、ここが極めて良好な盆地だということを示している。
なるほど、実に山形らしい景色だと思い、電車の時間まで佇む。

若いカップル、勉強中の学生などが窓辺に座り込んでおり、
たいそう邪魔であったが、この眺望ならば蝟集するのも無理からぬことと思う。

あ、そうだ。

昼の、郡山。
郡山駅には、フードコートがあり、ジャスコのそれと変わらぬ並びの中に、
「喜多方ラーメン！」
と、地元色をアピールする店あり。
あまり時間無いが、せっかくだから――とラーメン大盛りを注文したところ、
たまげるほど出てくるのが遅く、遅く、遅く、
すでに茹で上がった麺を、とりあえず湯から出して、湯気に当て続けており、
ようやくできあがったものも、奥のカウンターに放置する始末。

あたくし、食堂その他、店員さんの苦労を理解する方で、
親兄弟、誰であろうと、店員へ苦情厭味を言う奴は好きではない、
とはいえ電車の時間が迫っていたので、極力おだやかに、いい加減、
「まだかかりますか」
と言おうとしたところ、口をついて出たのは、
「２番まだ」
と脅迫するかの声で、よほど腹に据えかねていたのだと、そこに我ながら驚く。

大急ぎでかっ込んでみれば、味きわめて平凡な、レトルトパックのスープと、

すこぶる普通の製麺所縮れ麺であってみれば、
待たされた時間にまったく見合わぬ、不愉快な一杯であった。
値段も高い。
訪れるべからざるは、郡山駅フードコートのラーメン屋「蔵小町」である。

その後は、とくに可もなく、不可も無く旅を続ける。
往路のように睡魔に負けることなく、小説の読み返しも進められて、東京まであっという間。
「七難七福」と題した江戸舞台のチャンバラ時代小説が、なかなかおもしろくて、
でも調子としてはラノベめいたものを企図したこともあって、編集さんに見せるのもあれだし、
しかも１００枚の短編なので、さてどうしたものかなあと思う。
水増ししてラノベに送るか、磨き込んで、編集さんに見てもらうか。

あと、前に二次通過までいった「遙か銀河のディメンション」というSFロボット物も、
存外面白く書けていて、でも特に後半ボロボロで、
きっちり書かなくちゃいけない――ちゅか、キッチリ書けば、相当なところまで行けると思われた。
これも、どうにかしたい。

編集さんに前に言われた「精度が低い」というのは、まことにそのとおりの指摘。
「最後もう勢いで、もう、えいやで出しちゃいました！」
とかいうのは、要するに、この「精度不足」だと思われ、当たるはずもなく、
プロとして本を売ろうとするなら、最低限きっちりと、
ストーリーに破綻なく、過不足なく書き込まれたものにしなくちゃならぬと、痛感。
安易なものは、だめ。

東京からは学割の新幹線で、優雅に帰還。

2015/08/21（秋田山形記の４）

旅行四日目。
例年ならば、ここで丸一日かけて帰還するところなれど、今年は余裕あって、
せっかく東北行くのだしと、山形の「てきすぽどーじん」仲間、茶屋さんに逢うべく、
朝秋田を出て、新庄経由で山形へ。行程は、秋田へ来た時とほぼ同じ。
ただし、往路では宵闇の中であった、院内、横堀を、明るい内に通過できたことはうれしかった。

院内駅には、銀山資料館が併設されている。
立ち寄りたいところではあるが、一度電車を降りると、２時間ほど茫然とするしかないため、
車窓を眺むるに留む。
院内、横堀、今でこそ寒村の様子だけれど、家数自体は割とあって、
近世初頭、「梅津政景日記」当時は、そこそこの町であったと思う。

そういえば、秋田のお城にあった佐竹資料館で、
佐竹義宣から、梅津半右衛門へ宛てた書状が幾つもあって、
その半右衛門こそ、梅津政景の兄であるので、日記読者にはなかなか感慨深かった。

さて新庄で小一時間待機して、山形へ。
東北史で小説を書きたいという欲求あれば、
「最上義光も、恰好のネタじゃ」
と、山形見物も愉しみにしており、さてホテルへ荷物を預け、
――山形中心部は、１０分間隔で、１００円バスがぐるぐる廻っている、
ちょうど、ホテル正面からそのバスが出ていたので、
近くの山形城の土塁跡を見て――これがすこぶる大きなもので、なかなか感動。
まず最上義光記念館を目指す。

山形における最上義光の売り出しは、秋田・佐竹のそれを遙かに上回って、威勢いい。
最上義光以降、最上氏はあっさり沈んで、山形の殿様も次々かわるので、
歴史を誇るなら、そりゃ最上義光しかないと思うけれど、これほどとは想像しておらず、
「うむ、これなら、小説の需要も大きかろう」
と、わくわくしながら記念館へ入れば、折しも７月より、
高橋義夫という作家が、山形新聞において「最上義光」で小説連載を開始！
とポスター掲示。
一瞬で興味を失う。

最上義光を描くとなれば、伊達との書状のやりとりをつぶさに解いて行くことがおもしろかろう。
とか思うていたけど、もはやどうでもいい。
とはいえ小説完結の暁には、読んでみたい。

記念館を出て、お城へ。
ここは徒歩移動。
雨小降りで、半年ほど前に買った折りたたみ傘を、初めて活用する。
お城の堀端を電車が走る。その景色は雨でもどこか爽快であった。

山形城跡、取り立てて印象的な城ではない。
ただ、中に馬上の最上義光像があって、それが、鉄棒を掲げているのが好ましかった。
ここへ来るまでに読んでおいた「最上義光物語」などにも、鉄棒を使うとあり、
興味あったところ、記念館で実物を見ていたこともあり、興味深く思うた。

それから県立博物館。
縄文の女神という国宝があり、燦然と展示してあったが、まあ、別に、興味なし。
それよりも、青森木造駅のしゃこちゃんに類似の、遮光器土偶がいくつもあったことが印象的。
当然のことながら、複数ある。

肝心の中世史は、ここでも乏しい。
ただ、山形が古くから、出羽国の中心であったことは興味深く思う。
国府の位置は、酒田から秋田へ移ったと言われているようだけれど、
国分寺は山形にあったわけで、当地が、陸路による出羽国の中心だったことは疑いない。
また、江戸期における紅花の流通や花餅の展示も興味深かった。

お城から離れ、再び１００円バスに乗って、紅の蔵という古い建物に向かう。
バスは、１０分間隔で走るというが、２台走っていて、駅のバス停で時間調整をする。
ちょうど駅からもっとも離れたところから、無線で「今そこを通過」と聞かれて、再出発。

すぐ紅の蔵へついて、土産物を物色し、日本酒の試飲などする。
ところで山形市街地は、実に、きれいである。
区画整理や歩道整備が済んで、なおかつ町が生きて、活気あるのが不思議なように思われた。
だいたい、中心市街地は末期状態になってから整備が開始され、
きれいになった後はすでに手遅れ、ひと気ないきれいな衰退を見せるばかり……という印象があるけれど、
山形はきっちり賑わっていた印象。

自転車専用通路も確保されていて、比較するならば、秋田より整備されていたと思う。

……と、これは、山形の賑わいが、中心部に集中しているためかと思うた。
秋田は、秋田中心部と、土崎港（と新屋）に賑わいが分かれているため、
賑わいが分散され、中心部の整備が進まないうち、いずれも尻すぼみに衰退していく……かもしれないと、
適当なことを思った。

その後、茶屋さんと酒。
前日に、森さんと三人で飲み、話しているので、もう話すことなんて無いんじゃまいかと危ぶんだけれど、
あれこれ弾んだ感。
駅前居酒屋で芋煮を食う。また豚の角煮がうまかった。

2015/08/20（秋田山形記の３）

秋田二日目は、佐竹巡り。
久保田城に、佐竹史料館。

佐竹氏は、また興味深い。
義重と義宣の親子対立があったようで、秋田へ国替えを命ぜられた際、
親父の義重はすでに町であった土崎を首府とするよう主張したものの、
義宣は、今の秋田、久保田城を築き、入ることを押し通したとか。
源氏といえば親子喧嘩、身内喧嘩の絶えない血統なので、
この父子も、実際すこぶる仲が悪かっただろうなあ……とか思う。

いずれにしても、江戸初期から幕末まで、秋田は代々佐竹が納める土地であり、
おまけに今の県知事までが佐竹。
お城公園には、幕末最後の佐竹の殿様の銅像があって、よほど佐竹に愛着があるのかと思うけれど、
秋田の森さん曰く、さほどでもないらしい。

確かに、我が三河岡崎などが、狂信的に、家康や三河武士を売り出しているのや、
とくに発祥の地でもない仙台が、伊達政宗一色であるのに比すれば、
秋田における佐竹氏の売り出し、やや弱い印象あり。
といって、県知事に佐竹氏を選ぶ程度に、愛着あるのだからおもしろい。

戦国武将として、あたくしに興味深いのは、佐竹義重の方である。
が、かれは秋田とはあまり所縁がない。

秋田の歴史に思いを致すと、やはり、中世史料が薄いのが、つらいところで、
司馬遼太郎「街道をゆく」の秋田編でも、一章まるまる、秋田と無関係の戦争の思い出を語る始末。
はて、秋田は歴史的なものが弱いのかしらんとも思う。

お城と、史料館を見て回ると、主要なる目的地が尽きてしまったので、さてどうしようかと首をひねっていると、
「そうだ、男鹿半島へ行こう」
と不意に思いつき、電車では今ひとつの時間であったため、
「この際レンタカーだ」
と、ふらりとお店に入って聞けば、

「いや、今日は満車で……」
と、ことごとく断られる始末。お盆のまっただ中、空車があろうはずがない。

で、ギア無し自転車でふらふら巡っているうち、大きな市場があったので立ち寄り、
お土産その他を物色しつつ、昼飯のうどんとカレーを喰っていると、
「１３時から、何でも広場において、なまはげ太鼓の実演があります」
との報せを聞く。
「なまはげ太鼓？」
と、興味津々で、広場へ出れば、１５分前にすでに満席。
立って待っているうち時間となり、まず、黒の腹掛け姿の男が登場。
口上を述べ、一人でドコドコ太鼓を叩いていると、やがて奥から、
おうおう低い声を発しながら、蓑笠をまとった、赤と青の三人のなまはげが現れた。
面かなり大きく、迫力満点。
子供泣き出す――と思いきや、見ていた子供はニコニコとしている。

客席を悠然と廻った後、なまはげたちは、腹掛け男とともに前に並び、猛烈に太鼓を叩き始めた。
その迫力のすさまじさ。
かれらは、男鹿半島出身の観光ＰＲ団体らしく、海外公演も行い、
世界一にもなったことがある圧倒的なグループとか。
ウェブページもある。
http://www.namahage.jp/

なお、県立博物館で買った「なまはげ」本によれば、
なまはげは、冬場、火に当ってなまけてばかりいると出来る「なもみ」という火傷跡を剥ぐ輩だとか、
単純に、なまけ者の生身を剥ぐから「なまはげ」と言うとあるが、どうだろう。
男鹿半島だけでなく、秋田東北新潟などあちこちに類似のものがあるが、
今に至るまで、男鹿半島のそれがもっとも派手に、文化的にも古態を留めているとのこと。
ただ、明治年間、官憲へのはばかりから「神社へ御幣を捧げに」など、大幅に改めた部分がある由。
また、その発端は、渡来漢人に従っていた鬼の流れだの、荒くれ山伏だの、遁走した罪人だの……
まことに曖昧模糊としていて、いつ頃はじまったのかについても、不明らしい。
なまはげの最古記録からして、江戸も終り頃の、菅江真澄の記録だというから、史料的にはまこと寂しい。

最前、秋田の歴史性の乏しさ、などと書いた。
けれどこれは史料的な制約のせいであって、なまはげを挙げるまでもなく、
曖昧模糊とした、文字ではない歴史はたいへん奥深く濃厚であり、
その点、秋田の人の気質に何らかの影響を与えているのだろうなあと思う。
何がどう影響しとんねん、という話は分からない。
いずれにしても、あたくしはいずれ、秋田安東氏あるいは津軽氏で、東北時代の戦国を書きたく思う。

夕方は、雄物川を渡って、対岸の新屋を自転車で巡る。
秋田を挟んで北に土崎、南に新屋。
森さん曰く、両地区は、互いに仲が悪いらしい。
新屋は、もと、雄物川の川港、また酒田へ行く宿場町として発展。
他方の土崎は、大船も泊まる海港であってみれば、人々の気質が異なるのも当然。
新屋は、江戸期以前の遺物があまり見られず、それほど印象には残らなかったけれど、
雄物川にかかる大橋の、海側にだけ大きな風除けの覆いがしてあったのは印象的。
それだけ、特に冬場の、海からの風が強いということであろう。
秋田、五所川原、いずれにしても東北の冬を知らねば、小説は書けまい。

さて秋田駅前に戻り、茶屋さんと合流して森さんのオフィスを訪ねる。
茶屋さん、はるばる山形から、５－６時間も車を飛ばして来たという。
おそろしい。
オシャレなイタリアンで夕食の後、
森さんの車で、大森山の山頂へのぼり、秋田市街の夜景を臨む。
小雨も降って肌寒い夜だったけれど星もきれい。

……それにしても、街灯少なく、人家の灯りも稀で、 暗いものだと思うた。
以前は２４時間明るいコンビニも無く、さらに暗かった由。
暗さも、知らなければならない。

2015/08/20（秋田山形記の２）

さすがに疲れていたらしく、秋田到着の翌日は寝坊。
ホテル朝食もおわってしまったので、駅前デパートのドトールでサンドイッチを腹に入れ、
しかる後に、駅観光案内所で、レンタサイクルを拝借。

レンタサイクル、無料なり。
これまであちこち巡ったけれど、無料はなかなか珍しい。
観光客フレンドリーだぜ、ありがたいこっちゃと喜んでいると、
ギアなしの２６インチ、すこぶる平凡なママチャリ。
とりあえず土崎を目指そうぜと、暑い中漕ぎ出せば、すぐに股関節が痛くなる代物であった。

秋田旅の目的の第一は、土崎湊。
いずれ来年あたり、今書いている今川義元の辺が片付いたら、
北東北の戦国史を書いてみたいと、そのための気候風土を感得せんがため。
また、佐竹氏が入った際、すでに賑わっていた土崎ではなく、
秋田（久保田）に新たな町を築いた背景などを知りたいがための、秋田旅行。

ギア無し自転車で、秋田市街地を抜け、八橋、寺町といった丘、というより山を越えて、土崎へ。
このところの夏旅行、旅先では「電動」自転車を借りることができたのだが、当地はギア無し。
坂道を、汗ぽたぽた垂らしながらのぼるうち、だんだん腹が立ってくる。

土崎への途次、蜆塚や鶏卵塔といった珍景や、幾つもの寺を見る。
寺があるということは、それを建てて、維持するため金を出した連中がいるということで、
往時の土崎や秋田（久保田）の豊かさを思う。
右手に「秋田城跡」あり。これは帰路に見るべし、と通過。この秋田城跡は、古代の遺跡である。

山を登り切れば、下り坂。下りは楽ちん。土崎まで一気にくだる。
目的地の土崎湊には、高さ１００メートルの展望台あり。
ポートタワー・セリオン。
眺望すばらしく、無料、しかもすいている。
日本海側は、北は男鹿半島まで割と一直線で、起伏乏しく、船影もそれほど見えないので、
存外、見飽きるのが早い。けれど陸側は市街地、田園、それから山容となかなかおもしろく、
ずっと見ていられた。
椅子が欲しいところ、と室内を見渡せば、

角の、もっとも眺望良いところに、ピンクと水色で構成された、ハート型のカップル椅子があり、
すこぶる目ざわりであった。
しかもこのシート、V字型に、中央がくぼんでおり、座り心地もはなはだ悪し。

さて秋田駅前から土崎まで、自転車でおよそ１時間。
股関節痛いところだけれど、せっかくだから、さらに県立博物館まで足を伸ばそうかと、
地図を見ると、JR二駅分である。
これならまた１時間くらいで行けるだろう、しかも今度は坂道もないからと、安易に、
きわめて安易に１００メートル降って、自転車を漕ぎ出す。

で、案の定というか何と言うか、これがたいへんな苦行で、
「どうして、また、こんなことを」
と、昨年もその前も、似たようなことを繰り返している割に一向懲りず、
ひたすら退屈な幹線道路沿いを、汗垂らしながら走り続けた。

途中、信号脇のラーメン屋の隣に墓地、その向かいにパチンコ屋、
という極めて現代的というか、当世秋田事情を思わせる地点を見る。
そのラーメン屋で昼食を、と思ったけれど、濃厚豚骨を喰うと腹を下すことが多いので避け、
県立博物館に、ちょっとした喫茶店のようなものがあるようなことを見たので、
それを目当てに自転車を漕ぎ漕ぎ、汗をかきかき行けば、意識もうろうとするうち、やがて到着す。
「自転車置き場」
には当然ながら、一台もとまっておらず、しかも入口から遠いゆえ腹を立てる。

「まずは、腹ごしらえ」
と、これまた入館無料のところを、奥の喫茶コーナーを目指してずんずん行けば、お盆休み。
憤激する。

しかるにあまりの疲労のせいか、それほど空腹でもないように思われたので、
自販機のグレープフルーツジュースを飲み、一応満足する。

県立博物館。
目的は、秋田の中世が知りたい――ということであったが、
やはりというか何と言うか、中世は史料が乏しいようで、従って、内容も希薄であった。
展示は悪くないけれど、期待したほどではなし。
ただ、売店に、秋田史に関係する古本が大量に並んでいて、そこは大いに愉しかった。

中世史は、やはり乏しかったが、キリシタン史などに興味深いものを見て、買おうか、迷ったけれど、
結局「なまはげ」の研究書と、博物館の紀要を購う。

また、秋田県立博物館には、菅江真澄の展示が充実。
菅江真澄は、江戸期に秋田に滞在して多くの紀行・記録を残した人。
出身地は三河――まさしく、あたくしと同郷の人で、
「ここまで、はるばる来たのだなあ」
と、従来あまり興味なかった人なれど、改めて感慨を覚えた。

それから博物館分館、１キロほど離れたところにある、旧奈良家住宅を訪れる。
すでに疲れ切っていて、
「古民家など、見たいか」
と思うたが、再訪の機会も考えにくく、無理に訪れてみれば、
きわめて豪壮な屋敷で、訪れる価値じゅうぶんにあって、博物館そのものより興味深かった。
「大型農家建築物」
とあったけれど、考えてみれば「奈良」の名字（おそらく帯刀も）を許されていた人物であり、
この家の持っていた威望を考え合わせ、おもしろいものである。

で、帰る。
地図によれば、この奈良家住宅から秋田駅までは１５キロ。

漕ぎ出して、半分ほどまで来たところで、再び、土崎の街並み。
現代では哀しい感じのする古い町なれど、案内板さまざまあって、往時の賑わいが想像できた。
走行中、不意に曰くありげな神社を目撃、立ち寄ってみれば土崎神明社とあり、
これなん土崎湊の城跡なれ、と随喜する。
神明社は、真新しい感じがして特に印象なけれど、城跡の場所に立てたのは随一の収穫。
この土地はまことに平らで、海岸からはわずかに坂になっているにせよ、丘陵でもなく、
実に「何でもない」場所であった。
城の周囲に堀を巡らせていたにせよ、なるほどこれは城地としては不適格で、
これも佐竹義宣が、久保田を選んだ理由になろうかと思う。

さらに進んでイオンへ立ち寄り、さすがに腹が減っていたので、味噌おにぎりを買い食いする。
うまい。
何を喰うてもうまかったろうが、味噌は格別であった。
ふと見れば、食品売り場に行列ができており、
「はて秋田のお盆、何かすごいものがあるのか」

と思えば、
「たまご１パックいくら」の特売なり。日本全国津々浦々、結局こんなものであろう。

次いで、自転車を押して山をのぼり、秋田城跡を見る。
城門と、平安時代のトイレを再現したものあり。
観光パンフ、案内パネル数カ所に、「平安時代のトイレを再現」と誇らかな書きぶりがしてあり、
訪れてみるが、見物時間が過ぎていたのか、見られたのは外見のみ。
丘陵の上に小屋をしつらえ、そこから三本の溝で、一気に下水を流す仕組みのよう。
何のことはない。

秋田城は、平安中期に自然消滅したか、廃絶したようだが、
その後、当地の人々にどのように認識されていたのか、いくらか気になる。
「秋田城介」の称えが、後世まで残っていたところを見ると、
武家の中で、何か強いイメージがあったのかとも想像する。
「征夷大将軍」という称えが、最上となったことも考え合わせると、東北、蝦夷退治（統治）は、
武家の血をたぎらせるものがあったかもしれない。

城跡から離れ、午後６時ごろ秋田駅前へ帰還。
その後、森さんと酒を飲む。
きりたんぽ、いぶりがっこ等々。

2015/08/19（秋田山形記の１）

昨年夏、北九州・小倉へ出かけて、「てきすぽどーじん」の仲間に逢って、
その後ただちに、「九州さが」受賞となっためでたさを念頭に、
「いざ今年は秋田の仲間に逢おうず」
と思いつき、しかし何せ遠いので躊躇していたところ、
夜行の「ムーンライトながら」を使えば、２４時間のうちに秋田へ入れることを確認、
「行けるから行く」
なる、無思慮に等しい旅程を立て、
今年はやや長めの休みをとったこととて、夜１１時に自宅を出、
いざ午前０時過ぎの、東京行き夜行に乗り込んでの、旅はじめ。

「ムーンライト」は１０年ぶりくらいに使う。
以前乗ってみたところ、東京へ着いた日一日、眠気で死亡していたため、
「もう使わぬ」
と決めていたものなれど、この際しかたなし。
されば今回は、空気枕にアイマスク、と万端装備で挑んだところ、
朝５時の東京到着まで、ある程度は睡眠できたように思われるも、
眠れたところで４時間ほどしか眠れないわけで、結句、
「もう使わぬ」
を再確認することでおわった。

本来ならば、夏の鈍行電車旅、車内でカタカタ小説をやるべく、
また、書いたまま放置している小説の２つ３つ読み返すこともし、
さらに本だの史料を重々と用意してと、そうした作業も目的としていたにもかかわらず、
睡魔のため、ほとんど進展せずにおわったのは、返す返すももったいないことであった。

さて東京。
この手の強行軍を、あたくしよりも愛好する老父より、
「上野は、駅出てすぐに牛丼屋があるぜ。朝飯に最適だぜ」
と聞いていたので、朝は上野の牛丼屋で取る。
寝起きでは胃が死んでいると思いきや、案外喰うことを得。

上野発、宇都宮行きの車内は、半睡半醒。
東京から脱出する行程なれば、反対側ホームの列車へ、ぎゅうぎゅうと自らつぶれに行く人たちを、
哀しく眺めていると、埼玉の手前から案外、こちらも混雑してきて、

黒磯、郡山、福島、仙台と行く間ずっと満席。
帰省ラッシュか、夏休み旅行か、東北へ向かう人の多さに疲弊する。

そして仙台。
朝一番に東京を出ると、昼を仙台で喰うことができる。驚くべき近さ。
駅ビルの立ち食いそば屋で、適当なものを腹に入れて、次に、山寺を目指す。

東京から仙台までは、比較的容易に、鈍行旅行ができるが、
この先は、新幹線と在来線が一緒に走ることもあって、とにかく接続悪く電車なし。
どう足掻いてみても、半端なところで１時間、２時間と足踏みするので、
この際、山寺で２時間ほど時間調整すればよかろうと、仙山線を途中下車。
駅から奥の院まで往復で１時間半ほどとあったので、２時間はちょうど良い。

閑さや岩にしみ入る蝉の声

芭蕉の句の山寺、という程度の知識で出かけた場所。改めて見ると、
「しづけさ」
じゃなくて、
「しづかさ」
と読むのが本当らしく、そこに驚いた。

駅に多数のコインロッカーがあり、
「これは荷物を預けずんばあらず」
と押し込みかけたところ、財布のコインが不足しており、
「ま、いいか」
と、おどろくほど安易な妥協の結果、大荷物を背と手に持ったまま石段を登ることとなり、解脱する。

時節柄か、人多く、蝉の声は岩にしみ入っていたように思われるも、とても閑かじゃなく、
汗だくだく、息ぜえぜえ切らす苦行に、雅趣もくそもない。
思うに芭蕉は、宿坊へ泊まって、朝方の涼しい、閑さある時間に、一句読んだのだろう。
江戸期、山寺には今よりも多数の宿坊があった由。

山上より下界を眺める。
さすがに風すこぶる心地良し。ただ人多すぎてこれまた閉口。
犬まで登山している。

下山では膝ぶるぶる大いに笑う。
そういえば甲府旅した際も、甲府到達の前に身延登山をして、脱魂した記憶あり。
甲府旅行が「九州さが」へ結びついたことを思えば、これも吉例かと、己の無思慮を慰めるが、
何はさておき、コインロッカーへ荷物を預けねばならなかった。

さて山寺駅から山形の手前、羽前千歳で乗り換えて、新庄へ。
新庄までは、山形新幹線が走っている。
ここで夕食、新庄名物という、鳥もつラーメン。
普通の醤油ラーメンのトッピングに、鳥モツの醤油煮が入っているようなもので、
考えてみるまでもなく、臓物苦手の自分が選ぶべきものではなかった。
味も、鳥モツ無ければ、ごく平凡なるラーメンなり。

新庄から秋田までの鈍行、途中駅で乗ってくる人はおらず、一駅ごとに人が減って行く印象を持った。
車内は高校生も多く、１時間、２時間に一本しかないような電車であれば、
友だち恋人、同じ列車に乗り続けることになると思われ、
それもまた一つの青春の形態となるだろうと、以前だったら何か恋愛小説を想像したと思う。

院内、横堀といった、
折しも博士課程で読んでいる、「梅津政景日記」でなじみ深い土地の駅を通過して、
２１時過ぎに秋田へ到着。
ちょうど花火大会があったはずだけれど、到着が遅れたこともあり、名残なし。

この日はさすがにすぐに寝た。

2015/08/19（ニンニンジャー＆ドライブ映画）

秋田山形の旅行記録は、別に書くとして。。
映画「ニンニンジャー＆仮面ライダー・ドライブ」の感想。

この手の「子供向け」映画は、実は、東映正統派の流れにあって、
考えてみるまでもなく、これは毎年、確実に作り続けるアクション・コンテンツで、
すでに滅亡した時代劇文化の名残は、ここに見られる――ということで、
今年はとくに、忍者がモチーフですし、愉しみにしておりました。

で、映画は期待に反せず、見事な殺陣も披露してくれまして、
大いに満足。
ニンニンジャーの方は、何せ３０分制約があるのが可哀相でしたが、
赤いのと、悪いのの斬り合いのカメラ割り、流れ、そこに爆発などの特殊効果が入って、
まさに「火の出るような」戦いが描かれていて、良かったと思います。
シナリオ的には、２年ほど前の、キョウリュウジャーの濃さには及びませんが、まずまず。
途中で、仲間があわや全滅――という場面があり、
そこをやるならもうちょっと効果的にやれただろうと悔しかったですが、まあ満足。
やはり戦隊ものはスタッフが良いのだなあと思います。

次に仮面ドライバー。
シナリオが三条陸なので安心して堪能できました。
途中で不意に、次期ライダーのゴーストが出てくるのですが、
この登場させかたが抜群にうまい、と感心。
子供向けで「裏切り」をやったので、若干、展開に物足りない部分もありましたが、
相当程度、うまいものだと思いました。
それにしてもドライブは、主人公が今ひとつぱっとしない人になっているのが惜しい。。

2015/08/07（東三河交流午餐会）

阿川先生が亡くなったのは、ニュースの出た昨日じゃなかったみたい。
でも、８月にお亡くなりになったのは間違いない。

そんな御時世。
地方の小さな集まりで、あたくしなどが講師として招かれ、
武田信虎について、喋ってきました。

市議会議員の人だとか、何とか会社の会長、理事等々、
地域の名士が、予想以上に名士でおそれいりました。

信虎と、この地域との関わりーーで原稿を用意しておいたところ、
信虎話に時間を使い過ぎた印象。
あと持って行った原稿長いかなあと思っていたけど、やっぱり長かった。
本番になると早口になる、と思っていたのが、
強調箇所とかあるので、講演だとむしろ進みがゆっくりになりました。

それで色々省略して喋ったけれど、むしろ、
地域の伝承へ入るよりも、信虎の話をもっとやった方が、
来てくださった人は喜んだだろうなあとか思いました。
何せ地域の名士は、地域の伝承に通暁していらっしゃる。
ちゅか居並んだ名士たちは、要するに年のいったおっさんが多く、
時間の都合で省略してしまった下ネタこそ話すべきだったなあと、反省。

まー、当分こんな機会はないでしょうが、
偉くなった際には、きっとまた同じような機会ができるだろうし、
そんな時のために、以上メモ。

何にしても、今はとにかく、ぽつぽつ書くばかり。

2015/08/06（阿川弘之逝去）

阿川弘之逝去。
９４歳、老衰とあったし、文藝春秋の巻頭随筆、
最後の方はもういっさいが面倒くさいようになっていた感があって、
いいかげん志賀直哉はじめ諸先輩方あるいは、
多くの亡くなった戦友のもとへ行けるなあと、まったく満足されていたのかしらんと、
適当に想像。

広島出身で、原爆落とされた日の朝に亡くなるというのは、
何だろう、別にどうということもないのだろうけれど、
どうということがあったのかもしれない。
原爆後遺症を扱った「魔の遺産」という著作もあるし。。未読。
（第二作目だし、どちらかといえば失敗作なんじゃないかなあとも思うけど）

８月、二次世界大戦についての話がかまびすしくなるのだけれど、
当時に多少なりとも、ものごとを考えることができた世代は、
こうして、ほぼ亡くなって行くわけで、
まー、あたくしなどはせいぜい、文学的な記録、
それも志賀直哉ー白樺派の流れを受け、澄んだ美しい日本語で書かれた、
阿川先生の作などから、知見を得るばかりだと思う。

……と、この「戦争月間」からすれば、もっと大きく話題になって良いと思うのだけれど、
訃報のニュース原稿書いてる奴らも、読んでねえなあと思う。
あたくしだってそんなに読んでるわけじゃないが。。
（もっとも、老作家の訃報ニュース原稿は、ずっと前から用意されている）

著作リストを眺めていると、
先生の書きたいことは、もう全部とっくに書き終っていたようにも思われ、
なんというか、その辺でも、あたくしは心から憧れるものであります。

2015/08/03

大学時代の友人と酒を飲みました。
彼は大学時代から割とクリエイティブというか、色々デザインセンスある人で、
その人が、あたくしの「老虎の檻」に挿絵を描いてくださった、
佐藤美絵という切絵作家のファンだといい、
あたくしは「カッコイイ挿絵だ、プロの挿絵だ、うれしいな」
などと、単純に喜んでおっただけなのですが、
かれは、佐藤さんの画集を探したこともある――ほどで、
「ちょ、おまえ価値をわかってねえな。すごいことなんだぞ」
と怒られました。
何ともまことにありがたいことでした。

その二日酔い、ということもないと思うのですが、
体だるくてたまらない。

2015/07/31

講演の準備完了。
http://www.konwakai.jp/gosan2015.08.07.pdf
おもしろおかしく、お話しできたらと思います。

長編、第一章をちょくちょく直して５０枚ほど。
ある程度はよく書けている実感はあるのだけれど、
まだ足りない。
一章を摑み得ないので、二章へ入って行けない。
松本清張賞を――ということを、現実的に思うのであれば、
「ある程度」じゃ恥ずかしい。

……と、
「梟の城」
「鳴門秘帖」
を読み返して、思う。
そこら辺と、戦って行かなきゃならないのである。

秋田旅行、森さんからあれこれ教えてもらっているのだけれど、
絶妙な感じで、もろもろのお祭時期を外しているようで、
秋田のさまざま「奇妙な」祭が見られないのは残念なような、
でも、まー、ある種「特殊な」状況ではない、普通の空気感が見られたら良いので、
まー、ぼちぼちと。

それにしても、戦国のあの辺は特に、すごい。
まず安東、それから小野寺、戸沢、さらに最上に津軽、南部……。

何を軸に据えるかで、あれこれ難しい（愉しい）ところですな。

2015/07/27（青森記）

このところ毎年おとずれている青森、五所川原。
９５歳になる祖母の人を訪れるのとあわせて、
今年は、毎年りんごを送ってくれる伯母の人が入院した由で、
その見舞いも兼ねて、この時期に。

祖母の人は、去年とかわらず、むしろ去年より元気だった印象。
去年、老人施設を出て、はじめて五所川原市内のホテルでともに泊まり、
「ホテルさ泊まったのは５０年ぶりだ」（津軽弁意訳）
とのことで、そのことも良い思い出になっていれば幸い。

今年も同じホテルで、盛岡の叔父なども集まり、一晩たのしく。
夕食には、例のごとく、「きそば」を食べ、
祖母、よく笑い、まことにうれしい。

曾孫にあたる三歳児に、
「ボク何歳」
と３度尋ね、３度目に三歳児が、
「さっき言ったわ！」
と大声で答えるのに、祖母大いに笑い、またしばらくの談笑の後、
「ボク何歳」
と４度目の質問を投げたところ、同じように、
「さっき言ったわ！」
と大声が返るに及んで、祖母の人は、３歳児の年齢は覚えずとも、
「曾孫さの年きいたら、さっき言ったわと言われたべ。えっへっへ」（津軽弁意訳）
と、後々までそこを記憶。
まことうれしく思いました。

時に、入院中の伯母を訪れるのに、私ひとり、病室訪問に出遅れて、
「あとで行く、部屋はどこ」
「３階だけど部屋はわからない」
「探すよ」
とはいえ実際行って、わかるはずもなく、窓口の親切な看護婦さんに、
「あの、かかとを怪我して入院中の……７０才近いと思うんですけど……名前は分からないんですが、あ、でも、ミカミの伯母ちゃんと呼んでいるので、名前はミカミ……いや、でも地名がミカミなのかもしれないんですが……」

たいへんしどろもどろなことを伝えたところ、どうやらそれっぽい人がいるとのことで、
無事逢うことができました。
ミカミ、が地名だったら逢うことはできませんでした。

そんなこんなで、今年の青森旅は、りんご狩りできず、
その点、惜しい。
ただ、ねぷた会館で、できたばかりの、今年の立ちねぷたを見ることができて、大満足。
やはり巨大。
いずれ祭そのものを見に行かねば。
なお、母なる人が五所川原にいた若い頃は、ねぷたを実施していないか、まことに小規模だった由。
まあ、そんなものですな。

親戚訪問を終えた後は、碇ヶ関温泉へ。
碇ヶ関。
当初は、碇ヶ丘という名前であったところ、津軽為信が関所を置いたため、
碇ヶ関となったといい、関所のきびしさは、箱根以上だったとか。
津軽為信、北東北の戦国時代は、いつか書いてみたい。
というか、今後十年のうちに書きたいなあ。。

史料が限られるし、九州史よりは、取り組みやすい気がしている。

2015/07/21

今度の「講演」に使う写真撮影のため、豊橋、豊川の辺を原付で走り回りました。
ちょうど昨日梅雨明けの、真夏。
暑さ絶好調なのですが、原付はまことに快適。
と思って、調子こいて走っていたら、幾度となく迷子になり、
気がつけば腕と特に手の甲が真っ赤に焼けてしまい、
慌てて手袋をつけるも手遅れ気味。
（翌朝みれば、日焼け跡もなかったので安心したけれど）

とった写真は四種。
豊橋の、安久美神戸神明社、嵩山の蛇穴、賀茂の山本勘助生誕地、
それから豊川の牛久保にある大聖寺今川義元墓。
いずれも、地域の伝承、名所みたいなところ。

山本勘助の生誕地は碑文を見て、
念のため両親の墓があるという、本願寺へ行ったところ、
「勘助公をお参りか」と、住職が出てきて、熱心に説明してくださいました。
なお、本願寺は曹洞宗。
豊川稲荷の影響とか。

それはともかく、山本勘助という、まことにおもしろい人は、
「そもそもいねえよ」
という人もいるくらい、詳しいことの分からない人で、
出生地論争も、そうとうにぎやか。

で、勘助生誕地だという豊橋市の賀茂は、豊橋市とはいえかなり外れにあって、
県道に沿って、原付走らせていたら途中で豊川市へ入って、また豊橋に戻るような、
また電柱の看板に「奥三河の清酒」が並ぶような、遠い場所。
正直なところ、「生誕地の碑文」の写真さえとれればどうでも良かったのですが、
念のため訪れた本願寺で、さまざまの資料を見せてもらえたのは、実によかった。
位牌とか。。お墓とか。。

何より興味深かったのは、周囲にまことに山本さんの多いことで。。
本願寺の墓所、勘助の両親の墓などの周囲に、山本さん山本さん山本さんと並んでいて、
そりゃ、ここ出身だと言わなきゃ怒られるだろう。。とか思いました。

そこから牛久保大聖寺へ。
今川義元の胴塚、お墓。
そこで伝説の「手水鉢のお墓」実物を目撃できて感激。
間違いなく手水鉢でした。

そんなこんなで、講演原稿を手直しして、準備を終えたら今週末は、青森へ。
祖母なる人のもとへ。

小説は、第一章を終えて３８枚。
もうちょっと書き足さなくちゃいけない気がしているけれど、
全１０章くらいにすれば、ちょうど４００枚になる。
ちゅか。。３８枚て、「九州さが」で考えればもう半分なんだなあ。。

2015/07/17

芥川賞が決まりましたね。
今回は、ツイッタ上でもあれこれ言っている人がたくさんいるので、
売れるってすごいなあと思います。

個人的には、話題になっていた笑い芸人の作は、
受賞するだろうと思うてまして、
というのも、ひとつ前の三島賞でしたっけ、あれに落ちたから。
同じ銓衡委員ならともかく、違うので、
「おれはあいつらとは違う」
と思うている作家たちが、そこそこ書けている話題作を落とすはずがないと。。
何と言うても、このごろの銓衡委員はだいたい感覚だけで読んでるので、
最初から肯定感を持って読めば、そりゃ好評価になります。

芥川賞は、第1回からずっと読み通して、数年前まで惰性で文藝春秋を買い続けておりましたが、
「すこしおかしなところのある三十路女が、もっとおかしな奴と出会って自分を肯定する話」
ばかりになったのに絶望して、ここしばらく見ておらず、
（選評も、感覚的な、ためにならない感想ばかりになってうんざり）
まー、あたくしは、歴史物、エンタメ系を進むのだなあと、思いおります。

そのわりに、直木賞は読まない。
あまのじゃく。

さて昨夜は台風のせいで窓が開けられず、蒸し暑く、
いい加減クーラーを買うしかあるまいと思いつつ、とにかく集中できぬので、
書き上げた「最後のラノベ」を印刷、投稿準備を終えました。
出そうと思うてたところより、もうちと好ましげなところがあったので、
そちらへ投稿。

一次二次なく、一行コメントもらえればそれで充分、というところ。
自分の性質、特長を思いつつ、印刷を終えたラノベ長編を見ると、
「あー、これは、こういうふうに書けば、プロのものになったのじゃないか」
とか思われて、それはすでに敗北を察していることにもなりますが、
いずれにしても、今一度くらいは、挑戦したいなあとかそわそわしてきます。

おそらくは、時代小説で、まともなものが書き得れば、

その書き方で、おもしろいライトノベルが書けるだろうと思いました。
（それはきっと「ラノベ」ではなく、普通にいうファンタジーノベルだと思われるけど。。）
「ラノベらしいラノベ」は、今一度、「小説家になろう」で毎日連載で試したい。

……いずれにしても今は、ぼちぼちと、自分のなかで、今川義元の辺を書く機運が来ている感じ。

2015/07/15

今読んでいるのは、生きている作家の歴史もので、
やっぱりどうも好きではなく、
というより書きぶりが嫌いで、不満で、それでは読者にあまりに不親切じゃないかと、
腹も立ち、集中できないのですが、、、これ以上のことは、なかなか書きづらい。
前のごとく書いちゃえばいいのかもしれないけれど、
何か、「いずれお会いするかも知れないしー」とか思っちゃうので、なかなか書けない。

まー、つまるところ、あたくしとは書き方が違う。
あたくしは、あたくしが良いと思う書き方を通すんだと、そういうことなんですが。

長編がなかなか書き出せずにおりましたが、
夕べひとつ書き出し地点と主人公視点を思いついたので、
いい加減、そろそろ始められる、かなあ。。
（書き出しすでに三つ四つと試しては、没にしている）

時に、猛烈に暑くなりましたね。
空も青いし。
雲も白い。
まぶしい中、原付が最高に気持いいです。
こんな時にこそ、静岡へ行かねばならなかった。
雨ずぶぬれもまた一興、でも夏の日差しの原付ほど良いものはなかったですね。

以前は自転車でどこへでも行っており、こういう暑い日は恨めしいだけでしたが、
いや、原付はいいです。
どうせ３０キロ以上出すと怖いので、バイクじゃなく、原付。

そんなこと言うてたら、明日から台風雨のようですが。。

2015/07/13（秋田旅行計画）

２０００アクセスを超えました。
前の、１冊目の「あやまり堂日記」では、最後、2ヶ月で１万くらいのアクセスにもなっていたので、
２冊目になって、ふさわしい数字に落ち着いた気がします。

時に、今年の夏は秋田へ参ろうと思います。
と簡単に言えるほど近いところではないので、あれこれ計画してみますと、
だいたいこんな感じで行ける気がします。

	着	発	
岡崎		２３：４９	
豊橋	０：１２	０：１５	ムーンライトながら
東京	５：０５		
上野		５：４６	朝飯
宇都宮	７：２９	７：３７	
黒磯	８：２８	８：３９	
郡山	９：５８	１０：０８	
福島	１０：５４	１１：００	
仙台	１２：１６	１３：０１	昼飯
山寺	１３：５７	１６：０１	観光
羽前千歳	１６：１６	１６：２９	
新庄	１７：３６	１８：３３	夕食
秋田	２１：１１		

ちなみに帰りは。。

秋田		６：５２	
酒田	８：４４	９：０２	
新庄	１０：０５	１０：０９	
山形	１１：２１	１２：１６	昼飯
米沢	１３：０４	１３：０８	
福島	１３：５４	１４：２０	
郡山	１５：０７	１５：３０	
黒磯	１６：３０	１６：３８	
上野	１９：１０		
東京		２１：３０／２０：２６	新幹線

豊橋→岡崎

往復で経路が異なるのがおもしろい。
それらの複雑な経路も、基本的にはネットが見つけてくれるので、
ありがたいこっちゃ。

ちゅか、東北の新幹線走行区間の、電車の無いこと、無いこと。。
やるせないほど在来線が無いですね。
でもそれをうまく見極めて、山寺立石寺観光を入れ込んだり、
食事場所を見つけるのは、愉しい。

なお、ルート的に、
「色々やばくなったら新幹線」
が使えるので安心。

宿も予約したので、ばっちりやー。

2015/07/10

amazonに、祥伝社「小説NON」7月号が再入荷してました。
http://www.amazon.co.jp/dp/B00XU0UV4M/
朝あたくしが確認した時点では、在庫７点で、
すぐに知人が１冊買ってくれたようで、６冊に。あっという間に、また払底しそうだけれど、
近所の本屋に無いぞー、という方は、この隙にどうぞ。

何でも、
１）amazon在庫切れ
２）在庫切れだぜと、出版社に連絡
３）出版社amazon倉庫へ納品する
４）納品確認通知届く
５）そこから１週間ほどで、ネット上に反映
という流れを取るようで、案外時間がかかるのですね。

まー、よろしかったら、今のうちに是非。
雑誌のことで、もう間もなく、世間から消えてしまいますので。。

なお、電子版のWEB-NONなら、一年くらいはお求めいただけるかと思います。
http://www.amazon.co.jp/dp/B010RXMQCO/
上記amazon Kindleほか、いろいろな媒体で読むことができるみたい。
http://www.shodensha.co.jp/denshi/web_non.html

そんなこんなで、ぼちぼちと、今週末ぐらいから、今川の長編を書き出したいなあ。。

2015/07/09

吉川英治「新・平家物語」３度目くらいかなあ、読了。
今回がもっとも心に染みた。。
最終巻の意図、麻鳥夫婦の述懐、人間の歴史。。

将来、あたくしはこれほどの小説が書けるかなあと、そこを思う。
作者の年齢と経験からすれば、今書くべきものでもないし、
また世間的にも今時代の小説でもないので、そこは良いのだけれど、
読み終わって、涙ぐむなんてこと、久しくなかったことで、
しかも何度か読んでいるのにと、まことにまことに、心を打ちました。
ああ。ああ。

今川の長編は、最後をどうするかで悩み中。。
どこを着地点とするか。
そこはこの際、書き始めてから考えても良いかもしれない。

2015/07/06

またぞろ、
「やっぱり秋田へ行こうか」
の念が湧いてきて、
この際、往路はムーンライトながらを使えば何とかなるので、
豊橋０時発、秋田１９時半着
くらいの予定で、行けるのではないか。
これは、ムーンライトがとれれば、の話。

で困惑の帰りも、秋田を朝でれば、遅くとも東京２２時のひかりに乗れるので、
死ぬようなこともなく、帰還できるのじゃまいか。。

。。しかし、どうだろうなあ、この予定は。

時に週末、今度の「講演」のために、写真を撮っておこうと、
豊橋まで出たものの、雨のため動けず。
スタバで小説を仕上げて、床屋へ行って、それでも雨やまないので、
あきらめて帰宅しました。
何のことはない。

けれど、めでたくスタバで１００枚の短編ができあがって、
よしこれを「オール読物」へ出すぜ、と思ったら、6月末締切で。。
とりあえず、編集さんに送りつけて済ませました。

しかし、怖いす。

「あー、この程度か。。」
とか、
「もう次から送られても読む時間ないから」
とかになったら嫌だなあと、すでに慣れきっている「一次落ち」喰らうより怖ろしく、
自分ではおもしろいと思うておるだけに、あー、こわやこわや。

まー、いずれにしても、この辺の塩梅、
あまり他言すべきものでもない気もするので、以後は書かなくなるかもしれません。
「一次落ち」に慣れすぎたためか、
ここへ投稿した、これを書いた、かれを書いたと、臆面もなく書きすぎていた気がします。

小説を書くしかない身が、事務仕事なぞをする羽目に落とし込んだ我が選択を、
あやまりと断じたため、あやまり堂と言うておるわけで、
曲折の末、めでたく、小説を書くしかない身になり得れば、この日記を書く必要もなくなるわけであります。

そうそう、電子版の「小説NON」こと、WEB-NONが出ました。
あたくしの「老虎の檻」と選考経過も、きっちり掲載されているはずです。。
http://www.amazon.co.jp/dp/B010RXMQCO

もちろんamazon kindle だけじゃなく、ソニーとか、Koboとか、紀伊國屋とか、いろいろ媒体ある模様。
http://www.shodensha.co.jp/denshi/web_non.html

2015/07/03（ビブリオバトル）

ビブリオバトルなるものに参加をと言われて、参加いたしました。
人に本を薦めることが好きではないので、困惑しきりでしたが、
愚痴をこぼしても仕方ないので、自分の書いたものを宣伝しておきました。
制限時間は３分で、普通にいうビブリオバトルよりは短い模様。
以下原稿。

紹介する本がまったく思いつきませんで、本当なら出てくるべきでもないのですが、この際は、私の書いた小説「老虎の檻」というものの宣伝をいたします。
これは、有名な戦国武将、武田信玄の父親を描いたもので、「第22回九州さが大衆文学賞」の大賞をいただき、佐賀新聞に連載された後、こちらの、祥伝社「小説NON7月号」という雑誌に掲載されています。

そんなわけで、今回は、この小説の主人公とした武田信虎について紹介します。
ポイントは３つ。
１つは、わたくしが思う戦国最強。
２つめは、それゆえに、息子に追放される点。
そして３つめは、全然めげない後半生。

さてまず、わたしは、武田信虎こそが、戦国最強の武将だったと考えますが、彼はデビュー戦からして、無敵でした。デビューはわずか１４歳。祖父、父親が立て続けに亡くなった後、１４歳で――別の史料では１１歳だったともありますが、いずれにしても当時は、在地の豪族が好き放題に暴れていた上、叔父の油川彦四郎という奴が、家の乗っ取りを企んで、若い信虎に襲いかかります。これを、わずかな手勢で撃破。叔父を討ち取り、信虎は、甲斐武田の後継者としての地位を確立します。

それからも戦に明け暮れ、好き放題に暴れ回る在地豪族をドシドシ強引に従えて行きますが、強引すぎたのが禍して、４０歳を過ぎたころに、唐突に、息子晴信によって駿河へ追放されてしまいます。その辺も、いろいろおもしろいのですが、端折りまして。

その後、信虎は、駿河の今川家で牢人状態に留め置かれて、歴史の表舞台からは姿を消します。が、実は、桶狭間の戦いで今川義元が死んだ後などに、不穏な動きを見せていることが、記録されています。不穏な動き、といっても、彼は今川に保護された身分ですから、自前の兵隊なんてものは持っていないはずなのです。そんな人物が、今川の当主に不穏視されるのですから、たいしたものだと思います。
さらに信虎は、７０歳を過ぎても、足利将軍の傍や、京都の公家衆へさかんに出入りしていま

すし、８０歳の時にも、将軍による近江の六角討伐に加わったりと、年齢を忘れたみたいに、最後の最後まであちこち行動しています。そういう体力と野心の枯れぬ、おそろしい人物――の後半生を描いたものが、この小説になります。

何と言っても、そういうすごい武田信虎の動きを封じていたのが、武田信玄や今川義元といった有名な、すぐれた人物だったということ自体、たいへん興味深いものだなあと思います。そういうすぐれた人物に押さえられていたからこそ、信虎も、「ナニクソ。わしだって」と、最後まで気合いを入れ続けることができたのかもしれません。
以上、気が向きましたら、是非、読んでくださいませ。

2015/07/02

ラノベは思い切り、というか、あたくしなどがラノベを書くならば、
今現在店頭に並ぶ（驚くほど似たような）ものを片端から３０冊４０冊５０冊と読み、
何が求められているかを見知った上でやらねばならないと思うし、
それだけをして、書いて、かすりもしない人がいれば、
それはよほど才能が無いわけで、まー、でもいずれは一度、
そのくらいまでやってみたいと思いつつ、今はそんな時間を惜しんで、
歴史物にとりかからねばならない。

考えれば考えるほど、歴史物は、今そうとう求められている気がして、
それも、きちんと歴史を踏まえたもの――人情時代ファンタジーチャンバラではない小説、
そこら辺なれば、やっぱり自分にしか書き得ぬものもあろうと、
気合入ると同時に、いよいよ長編書き出すのが躊躇されます。
……いや、だいじょうぶ、だいじょうぶと言い聞かせて。

吉川英治「新・平家物語」再読をつづけておりまして、
今通勤が長いものですから、だいたい２日に一冊ほど読み進んで、
とうとう壇ノ浦で平家が滅びました。
それにしても、この辺の、圧巻の書きぶり。
時々の、時代の大きなうねりを描くときに、たれを軸に物語を運ぶかという点、
目線、気配り、そして描写。。つくづく、敬服の念を覚えます。

時に、十数年ぶりに、さだまさしの昔の曲ですが、今まで聞いたことのない歌の、
ギター弾き語りを覚えようとしておりまして。
高校の頃は、次々と、聞いては覚えて弾いて歌っておったのですが、
十数年経って、まこと久しぶりに、新たに覚えようとするときの不思議な感覚、
相当程度、歌へ沈み込んで行く感覚がおもしろくて、
何度も聞き返しております。

2015/06/30

「小説家になろう」において、がんばって書いておりました、
「地味系僧侶と桜の妖精」
が、あっさり一次落ちしておることを確認。
たいへん悔しく思います。

まー、でも仕方ない。

先週末に書き換えを終えた長編「秘密の勇者のドリル」で、
ラノベはもう書かないつもりではいますが、
「なろう」連載が案外勉強になったので、もうひとつくらい、
毎日連載で、「ラノベ」に再挑戦したいとも、思うております。

そんな週末は、東京で放送大学の歴史研究会。
相変らずの鈍行で、往路の途中で完成させるつもりが、
往路まるまる費やしてしまいましたが、ともかく完成。
初稿段階からすれば、そうとう、筋立てもしっかりとしまして、
というか最初の筋は、人様に読んでもらうための小説としては、破綻しているなあと思い、
落ちるものは落ちるのだと、つくづく感じ入りました。
「地味系」も同じ。

そもそも、昨今のラノベは、読まれ方が違うというか。。
一人称も、あたくしなどの知る一人称の意味合いと異なるというか、、
何ともよくわかりませんが、
さっくり言えば、あたくしの小説作法は昨今のラノベに向かないと、
そう思われるのですけれど、
といってあきらめたり挫けるのはイヤですし、
何ぞ、ラノベ読者の目にとまるようなものを、きちんと書きたいなあと、
めげずに思い続けておきます。

そんなこんなで、昨日は大学図書館から借りていた今川関係史料をすべて返却。
コピーしたものを読みつつ、ぼちぼち、
長編を、気合入れて、がんばって、書き始めるときがきたわいな。

2015/06/24

地域の人たちの集まりに招かれまして、何か喋ることになりました。
８月ごろに、１時間ほど。
詳しい様子は分かりませんが、珍しい機会なので即座に承諾しまして、
とりあえず、武田信虎について、喋りたいと思います。

とはいえ、７０枚の小説だし、１時間はきびしいなあとか思いつつ、
適当に原稿を作り始めましたが、案外、話せる気がするので、
まー、何とかなる気がします。
時間を持て余したら、修士論文のキリシタンのネタでも喋れば良いですし。
こちらなら、安心して１時間でも２時間でも話すことができます。

８月上旬なので、たぶん１００枚の「南海に消えゆく」を編集さんに見せて、
感触を聞いた後に、へこたれるか、元気になっているか。
また、今川義元がらみの長編を始めて、山にぶつかっている頃だと思いますし、
どうなんでしょうね。

時に思うのは、小説は、実は簡単なものなんじゃないかなあということで、
気がつくと、小難しく考えて袋小路に入ってしまうのですが、
もそっと気楽に、自信を持って、書けば良いのじゃないかなあと思いました。
そうすれば、今度の長編も、成功するする。

と祈念。

2015/06/23（「小説NON」発売された）

ついにめでたく、
「第22回九州さが大衆文学賞」大賞・笹沢左保賞いただきました、
「老虎の檻」が掲載された、
祥伝社「小説NON」７月号が発売となりました。

書店で予約購入し、祥伝社からも２冊送ってもらい、
こう言うとあれですが、けっこういい紙質の雑誌ですね。
文藝春秋とか、けっこう紙質の悪い印象がありますが、これなら保管も安心。

これまでに、放送大学関係者とか、ツイッタ、「小説家のたまご」などで宣伝してきた甲斐あってか、
amazonで即日品切れになるなど、ちょっと愉快でした。

編集さんに言えば、私の身近では、
> ＷＥＢ親和性が高いと販売には話していたのですが、
> アマゾンの配本数は弊社でもそこそこなのに予想以上だったようです。
一週間ほどもすれば、amazon再入荷されるとのことなので、
amazon注文される方は、しばらくお待ちくださいませ。

いやはや。
編集さんにはお世話になりっぱなしなので、
雑誌が予想外に売れれば、ごく僅かでも、ご恩返しになるのかなあと思います。
とはいえ一冊５００円の雑誌。１００冊余計に売れても５万円ですか。。。
雑誌で利益を、というよりは、作家・作品の囲い込みの場かしらんとか思いました。

さてそんなわけで、静岡取材も経て、いよいよ、太原雪斎を主軸に今川を書くぞと、
編集さんに構想を話してみたところ、
「ちょ、おまえ、それうちの雑誌で火坂雅志が連載してたし」
とか言われて驚きました。

あたくし、この構想を立てる前に、ネットで調べて、
「よし、今川はほぼ手つかずだ」
と確信しておったのですが、
あらためて検索すれば、たしかに、火坂雅志「太原雪斎」とあって、
しかもまさかの「小説NON」で連載されている。

然るに、火坂先生、今年の２月に急逝され、
連載も、どうやら書籍になるほどの量にはならなかったため、
最初の検索では、目に付かなかった模様。

何これ。

まじ勘弁。

まー、でも、書きます。
太原雪斎を主軸に――というのはやめますが、
冷泉為和を軸に据えて、書ける書ける。
もともと、そちらを調べていたわけだし。

公募に送るものだし、火坂先生の著作はいっさい読んだことないので、
別に丸かぶりしたって良いのだけれど、
そもそも「かぶる」ってのが、いや。

とにかく、清張賞をめざして、がんばるべいー。

2015/06/23（東海道原付記その２）

翌日曜、朝目覚めれば天気は明るい曇り。
「この分なら」
と天気予報を見れば、愛知県から浜松の辺におそろしげなる雨雲あり、
慄然としつつ、しかし静岡市内を巡る間は支障あるまい、
急げや急げと、原付を走らせ、まず駿府城を一回りする。
水堀を残した平城。
それほどのものでなし。

私の興味は今川時代の今川館だけれど、その名残も見えないため、
あきらめて浅間神社を目指す。
と、駿府城から浅間神社まで参道が続いている。
浅間社と今川館との近さ。

浅間社より、さらに走らせてすぐに東雲神社。
これは、浅間社別当寺の總持院の跡とある。
總持院は、小説に用いるゆえ、位置どり重要。
浅間社に隣接。
目と鼻の先よりなお近い。
別当寺なれば、同一のもの。

さらに賤機山の東側を少し行けば、臨済寺。
太原雪斎の寺。
見学いいけど、修行寺なので気軽に入ってくれるな、という看板。
見学は９時から。
８時前に到着したので、待つこともあるまい、と見ていると、
墨染めに笠をかぶった修行僧が７人ばかり、
ぞろぞろと朝の奉仕か散歩か、出かけるのに遭遇。
どこまで行くのか不明。

原付返して、浅間社へ入る。
社殿は江戸期のもの。
私の興味ではない。
曇天のため、掃除中の巫女さんに、
「富士山、見えるならどこら辺ですか」
と聞けば、方角を指し示しながら、

「でもここは下なので見えません、山の上まで出れば」
とのこと。

方角も違うし富士山見えることもない、はて参詣人は社殿で何を拝むのかしらん、
とぼんやりしつつ、ならば山の上を見るべしと、
しずはた山を登る。
案外峻険。
静岡の街中に、左右から、にゅっと挟んで地面をそこだけ急に盛り上げたような土地。
細長い山で、左右はいずれも崖で見晴らしが良い。
静岡の年寄りの健康散歩道となっている。

山頂から市街を見下ろし、遠くに駿河湾まで見える。
反対側には、木立を透かして富士山ーーは見えないのだけれど、
晴れていれば見えるだろう、と思って、
小説のひとつの重要な着想を得て喜ぶうち、雨ぽつぽつ。

「もう降り出したのか」
と思いつつ、資料館を訪れ、適当に見物、冊子をいくつか買うなどしていると、
雨ざあざあ降り。
ちょうど資料館の前が池になっているから、雨粒に濫打される水面もおそろしく、
リュックの上から上着を羽織り、ズボンの上に撥水ズボンを重ね、
「これならあたたかい」
とかいいながら、出発。
駐輪場へたどりつくまでに、撥水加工の脆弱さを悟って絶望する。

出発は、９時４０分ごろか。
とにかく雨はげしく困惑絶望しながら、静岡を離脱。
昨日の、ぱらぱら雨とは格の違う、本降り。
撥水加工、たちまち染みてきて、もう笑うしかない。

ひたすら走って、寒くなった頃、藤枝を通過。
これは腹に熱を入れねば死ぬと、折しも見えた、静岡名物ステーキの「さわやか」に、
立ち寄り、午前１１時に、昼飯。
ハンバーグをたいらげる。
客だれもいなかったのが、１１時半ごろには満席。
家族連れが多く、じいちゃん、ばあちゃんも、うれしそうに肉を食っていた。

天気予報によれば、西へ行けば雨が上がると知れているので、
とにかくこの雨雲を抜けたい、
と西へ西へ。
島田から金谷。
金谷宿を見たいと、往路と違う道をとったところ、迷子になる。
雨に濡れ鼠の迷子ほどみじめなものもない。

ようやく現在位置を確認し、菊川経由で、掛川へ。
雨のもっとも激しいときに余計な道をとったもの。
しかし掛川へ入ると、雨やむ。
「これは」
と歓喜して、掛川城へ入ろうとするも、何せ濡れ鼠だし、
もういいやと、城のまわりを一周してまた西へ行く。

雨あがったものの、天気どんより。
真っ黒。
「まだ降るのかなあ」
と言っていると、案の定というか、袋井の手前で降り出す。
バイパスのごとき大きな道を、延々走り続ける間、雨ざあざあ。
膝の裏側へ水がしみこみ、
パンツの中、尻の穴まで濡れる感覚に、もはや笑うしかない。

磐田の手前で、もはや凍死するんじゃないかと思ったので、
二度目の昼飯。
かけそばを喰う。
唐辛子をどかどか入れ、汁を飲み干し、生き返る。
しかし外は雨。

手袋した手を、ぐっと握れば、ぼたぼた水がしたたるのが、もはやおもしろい。
そんなこんなで天竜川を超え、浜松へ入ったころ、ようやく、ようやく雨あがる。
ガソリンを補給し、さらに走って、
浜名湖畔でコンビニコーヒーで熱量を補給、
靴下をはきかえ（でも靴の中ぐしょぐしょなので、たちまち濡れる）、
寝間着に使ったズボンをTシャツの下、腹に入れ、
服を買えば良いのだけれど、もうとにかく面倒くさくて、
ようようのことで、５時半ごろ、豊橋駅へたどりつく。

復路は飯を食うほかは寄り道せず、７時間ほど走り続けた印象。
でも無念無想、案外楽しかった。
風邪もひくことなく生還。

またやろう。
ただし今度は、天気予報をよくよく確かめて。。

2015/06/22（東海道原付記１）

外めっちゃいい天気。
昨日はあんなに降ってたのに。

今川義元、太原雪斎を書くべく、東海道を西へ、原付にて、駿府を目指す。
豊橋からなれば、片道およそ１１０キロ。
時速30キロの原付なら、６時間くらいで着くだろうと、
とろとろと、朝１０時前に出発。
東海道をひたすら東へ。

天気予報は曇り。
翌日曜日の予報が、曇り一時雨とあり、一時雨とはすなわち、時々雨より雨少ない、
とたかをくくって、東へ旅立って３０分ほどで、湖西の峠道で雨ぱらつく。
しかし撥水加工の上着着用、しっかりしたヘルメットのため、案外濡れず、
「この分なら」
とさっさと新居関を越えて浜名湖へ。

原付走行中は無心。
前を向きつつ、後方からの車トラック、速度、走行位置を確認。
ほとんど無念無想の境地で、浜松を通過。
そのうちに、だんだんと手がかじかんできたため、ホームセンターに立ち寄って手袋を買う。

しかし冷えるので、Tしゃつ二枚重ねにして、さらに東へ。
昼に予定どおり、磐田へ到着。
「浜松餃子」を売りにする中華屋でらーめん、麻婆なす、餃子を腹へ納めた後、
遠江国分寺跡、府八幡社、見附学校跡などを見て廻る。

浜名湖から、ほぼ似たような平地が続いて、「どうしてここに国府が？」の念かわらず。
天竜川と太田川のほぼ中間、今ノ浦川というのが流れている脇だから、
「そこら辺だった」と云うしかないのか。
なお、国分寺は、平安末に廃れた模様。
そこら辺の情報が知りたかったので満足。
遠江見附といえば堀越氏。
どこかの史料に、ほりごえ、と振ってあったけど、地名「ほりこし」を通過したので、
あきらかに「ほりこし」だわね。

さらに東へ、東へ。
国道一号線を使えば分かりやすい、と思うていたのだけれど、
気がつくと国道一号はバイパスになり、原付を排除するので、おそろしい。
自動車専用バイパスかと思うと、片道３車線の歩道付きで原付走って可の道もあり、
これまた脇を猛スピードの車が行くのでおそろしい。

袋井、掛川。
掛川城を見ようと思うていたけれど、
磐田で案外時間をくっていたので、通過。
「帰りでいいや」
と走って行くうち、山のぼりを開始したのでびっくり。
東海道の金谷宿。

東海道に、箱根以外にこんな山があるとは知らず、
まったく何も知らんかったのだなあと、ちょっと嬉しく、
行くうち、夜泣き石と子育て飴の伝承の地があったので、
これまたびっくりして原付を留める。

色々なネタを探している最中に見かけた、子育て飴伝説。
飴を買って、さらに東へ東へ。
島田、大井川を越えれば藤枝。
もはやこの頃になると、寒いし疲れたし、もうげっそりしていたのだけれど、
今さら戻るわけにも行かぬと、バイパスのごとき一号線を走るうち、
「静岡９キロ」
の表示に歓喜。

豊橋を出て、「静岡１００キロ以上」のところから延々カウントダウンしていて、
ついに一桁になったのかと、ヘルメットの内で叫ぶと、
自分の声が案外うるさく、
気づけば電柱に「駿河区」と書いてあって、
「あ、もう静岡市じゃないか」
と、走るうち、駅前、ホテル、まだ日のあるうちの、午後７時前に、たどりつく。

さそくに熱い風呂を入れて、蘇生。
風呂入ってたら、良い時間になって、駅前居酒屋でおでん喰おうと思うたら満員。
しかたなくうどん喰って、駅ビルでおでん買って、Ｇレコ見ながらホテルで喰う。
Ｇレコ、濃密。

何だろう、スタッフたちの気合、意気込みが感じられてたいへん好ましい。
中味は、まだ、わからない。

あと、スタードライバーも見て、こちらの主人公をとにかく魅力的に見せようとする方法は、
あこがれる。
スタードライバーは二度目。

2015/06/18

やっぱり年表づくり。
もともと、今川義元の家督相続前後を、１００枚ほどで、
と考えていたのを、長編で、雪斎の死までを書こうと決めたので、
年表を、せっせと追加。

「老虎の檻」で使ったやつに追加しておりますが、
長編ですし、織田の動向、北条の動向、上杉、長尾……と、そこら辺までからんでくるので、
なかなか楽しい。
次々と世界ができていく感じ。

ちなみに桶狭間は、色んな人が書いてるし、まあ書かんでも良いかなあと思うております。

2015/06/17

週末、どうにか天気がもちそうなので、
静岡市までの原付ツーリングを計画する。

今川義元の通った道をたどる――、というとイマドキの感じがしますが、
小説で、作中人物がふと振り返った時に何が見えるか、
とくに駿河国内は富士山がどこに見えるかが重要だと思われまして、
そこら辺の風景を見ておきたいなあと思うのです。

浜松も駿府も、家康が入って以降思いきり変化してますので、
今川時代は、けっこう暗黒の中にありますが、
まあ、小説なのでそこら辺は、多少、お気楽で良いかと思いました。

豊橋から行きますので、
１）新居関
２）磐田市見附、府八幡、国分寺跡
３）掛川城
４）大井川
５）島田市博物館
６）藤枝市郷土博物館
７）岡部宿 or 焼津の海

この辺を巡って、静岡市へ到着できるかなあと。
時間によっては、帰路に寄っても良いですわね。
個人的なメインは、２番目の磐田市見附。
遠江国府のあった場所。

曳馬というのが、今の浜松なんですが、
家康が曳馬に入るまでは、そこよりも東側、天竜川を超えた磐田の辺が、
遠江国の中心だったのですね。

天気が心配なので、ホテル予約は直前に。

2015/06/16

体調悪いまま。。
それでもようやく回復しつつあって、
ラノベ長編の書き直しも、ぼちぼち最終章。
今週末は、天気次第で静岡取材したいので、
まずそれまでに完成させて、一迅社へ送ってみたいところ。

駿河今川を素材にする歴史物は、１００枚じゃなく、
４００枚ほどの長編にして、清張賞を目指そうと思いました。
それだけの素材だし、自分の力からして、挑む価値はあるだろう。

2015/06/11

そういえば伊良湖ビューホテルの夜、
ＡＫＢの総選挙を見ておりましたが、あれは、たいへんおもしろいものですね。

何というか、年端も行かぬ、己自身があやふやなままの女の子らが、
感極まってスピーチをしているのだけれど、
その途中で、実はこの総選挙というのが何なのか摑み得ず、
ただやみくもに感情を昂ぶらせているのか意味わからない感じ。

大勢の人の前で、ようも怖じずに堂々とスピーチできるなあと、
感心したのですが、まー、ライブだのであのような機会は多いだろうし、
そこは良いのですが、感動のスピーチをしている彼女らが、ふと、
「選挙って何だろう」
という当惑を感動に押し隠す瞬間こそ、まことに見所だったなあと思いました。

「票」でいうから感動を呼びますが、あれが要するに「円」であることは、
もはや当人らも承知していると思われ、
大金を惜しまず払う狂信者を如何に囲うかを競うものであれば、
「来年はもっと上を目指すため、努力します！」
と叫ぶ時の、努力という曖昧模糊としたむなしさに気づかぬふりをする、いじましさ。

そこら辺、当人がまじめである分、まことに興味深く、
悪辣な大人たちの金儲けの贄にされて……ではなく、
十四五才の子供ならまだしも、二十歳をすぎてものごとが分かって、なお、
正気にかえるわけにも行かず、盲目的にならざるをえない子たちを、
あわれに感じておりました。

聞けば最下位というか、発表になった８０番目の子でさえ、
獲得票は、1300万円超で、８０位、７９位の票差が5万4000円だったことを思えば、
81位の子も、82位の子も、1300万円近くが投じられたことは疑いなく、
その辺りの下位なら、親兄弟、友人、祖父母が相当程度下支えしているように思われ、
８０位にも入れなかった屈辱から、過呼吸になって運ばれた子がいるとか聞きましたが、
そりゃ、身近な人に何百万も投じさせた挙句、名前が呼ばれないとなれば、
過呼吸くらい起こさないと、割に合いません。
あわれというか、ただむなしい気がします。

吉川英治『新平家物語』を読み返しております。
遙か彼方にあったものが、だいぶ近くまで来た感じがして、
成長したなあと思う。
書き方、構成、素材の取捨選択、現代性。

「平家」を書こうとは思いませんが、
吉川英治があまり書かなかったところ、平重盛や源三位に着目して……というような、個別の話は、
いずれ挑みたいなあと思いおります。

2015/06/08（伊勢の伊良湖見物記）

週末は、ようやっとアルバイト仕事までやめることができた老父ねぎらいのため、
伊良湖ビューホテルへ。
まこと眺めの良いホテル。
とくに土曜は、梅雨入り前の晴れ間で、前日までの雨に空気洗われて、
たいへん遠くまであざやかに見えました。
伊良湖半島の先端、小高い山の上にあって、太平洋に囲まれたような岬の地形が見えて、
たいへん結構な思いをしました。

翌日は、伊良湖岬からフェリーで鳥羽へ。
古い時代、伊良湖は「伊勢国」であって、
あたくしの曾祖母が住まいしていた辺にある、神戸という地名、
これも伊勢神宮の神田であったろう、
それに東大寺瓦の窯跡もある、これは船で伊勢経由で奈良へ運んだのだろう、
などと思うにつけ、一度、船で対岸へ渡りたかった。

なるほど近い。
フェリーで５５分。
最後、鳥羽湾へ入り込んで、坂手島の蔭に入るまで、
ずっと、伊良湖のホテルが見えていた。
波高く、古代から難所ではあったろうけど、
途中に立ち寄れる神島もあり、「伊勢の伊良湖」で間違いない。
陸路で田原や吉田へ出るよりも、はるかに伊勢が近く、また都会であったろう。
まして舟を使えば、なおさら。

田原から伊良湖にかけては、もうちょっと調べたい。
今度原付で行ってみよう。
たぶん古くの渥美半島、田原は貧しい一方、
赤羽や渥美（岬の方）は、伊勢神宮のからみで、案外裕福だったんじゃまいか。

鳥羽へ渡った後は、鳥羽水族館。
セイウチに触れた。
でけえ。
怪獣だ。まちがいない。
まのぬけた感じだけれど、のっさのっさと近づかれると、恐怖する。

ダイオウグソクムシのモップを買って帰る。

2015/06/03

昨日編集さんから、あたくしの「老虎の檻」ゲラを読んでくださった、
割と上の方の人が、「長編のプロット出してもらったらー？」と仰ってたと教えていただきまして、
そうとうな喜びにひたっておりました。
いつもの編集さん曰く、まーでも、もうひとつ大きな賞をとって、箔を付けるべきじゃね、とのことで、
あたくしもまだ自分の実力が不充分だと思うておりますので、
そのとおりに、別の賞を狙って行かねばと思うておりますが、
松本清張賞とか、今までは「いやいや、とてもとても、まだまだ」と思うていた、
新人賞としては最高峰の辺を、現実的に目指して行けるのだなあと思うにつけ、
何とも身が引き締まるというか、引き締められすぎて窒息しそうな思いにもなります。

長編の、とくに時代物は今まで書くたびに失敗して、放擲しつづけてますので、
まだ己の実力に半信半疑ですが、
編集さん曰く、商業デビューするなら長編で、という、これまた同感なところを胸に、
かっちりきっちりやって行かねばならんなあと思いました。

それにつけても。。何でしょう、今までの、
「どうせ出しても落ちるしー」
という、どこか気楽な、弛緩したところがなくなったというか、
目標が現実的に見えてきた緊張感が、何か苦しいちゅか。。
いよいよ給料働きに時間がとられることへの嫌悪感が増したのは言うまでもなく。。
でもまあ、なるべく気楽に、気楽に、やりたいなあと思うのでした。
何というても、時代劇書く人間の中じゃ、あたくしは、まだまだ若い（青い）のですから。
……たとえば葉室麟が新人賞とったのは５０代だし。。と見ていたら、
葉室さんは、北九州の小倉出身なのですね。
なんか親近感（あたしゃ全然小倉の人じゃないけど）。

「小説家のたまご」
の方で、前に質問として出ていた、
「プロになる覚悟はあるか」
ですが、あたくしの中では、
「自分の中でそれだけの自信が持ちうるかどうか」
がもっとも大きいように思われます。

何せ小心者のあたくしなので、
小さいところ、というと失礼ですが、まずは、地方文学賞で本にはならない、
でも編集さんにはきちんと読んでもらえる「九州さが」で受賞できて、
本当によかったと、改めて思うのでした。

これで仮に、いきなり清張賞に当たった日にゃ、あなた、
「お、お、お、俺あれでいいの。本当にあれでいいの。何なの。何なの」
と、うろたえ、へこたれてしまうに違いありません。

2015/06/01（プロフィール書いた）

祥伝社「小説ＮＯＮ」に載せてもらうプロフィールを、こしらえました。

経歴はささっと流して、好きな作家、抱負、執筆歴なんかを書いてね、とのことだったのですが、
どの程度のテンションで書いたら良いかわからず、
ちゅかそもそもあんまり読まれないだろうなあ、
あと、好きな作家をずらずら並べるのも好きじゃない。。。
賞をいただき、掲載されるからには、謙遜しすぎるのは無礼であろうし、
といって、俺はこんなにやってきたんだぜと誇るのも、不遜というよりは、
（その割に今まで箸にも棒にもかからなかったんですよねー）
という恥をさらすだけですし、
とまれ、こうまれ、あれこれ惑乱した結果、
味気ないようなものが出来たので、お送りしました。

難しい。
まー、あんまり読まれないに違いないので、そこは気にせず。。

週末、インクを買ってきたので、
「秘密の勇者のドリル」
の手直しと、再投稿を。
一迅社を想定。

風邪気味がずっと続いており、時代小説もはかどらず。
ゲームやりたい病が、一瞬、持ち上がったので、
時代小説がうまく書けていない証拠だけれど、
夕べもうろうとする中で、思うように直せたので、大丈夫大丈夫。

「受賞受賞」と、いくらか気負があった感。
あたしゃ相変らずの頭なので、相変らずやるしかない。
てきとうにー。

手直し前１００枚のものが３つ。
ラノベ３００枚が一つ。
で、新しい１００枚を書いてる。

なんか効率悪い気がしてきた。

2015/05/29

もひとつ株売る。
数年持ち続けたので、けっこうな含み益が出たのだけれど、
数年持ち続けたので、
この前の、任天堂との提携発表の直前に買っていたDeNAが、一気に跳ね上がって、
うっはー、もうかったー！　株こえー！　とかいう感覚にはならない。
むしろ、
「ああこれで毎年の配当がもらえなくなるー」
とか思います。

いずれにしても、前に売ったやつとあわせて、来年の学費できた。
ちゅか今さらながら、学費高え。
世界ぼったくりランキングをつくるなら、「大学」って結構上位に来るんじゃね。
何も考えてこなかったけれど、株高じゃなきゃ無理でした。
（あと「九州さが」の賞金な！）
ありがたや、ありがたや。

今川花蔵の乱の小説、未だ主人公を摑み得ず、なかなか難しい。
「老虎の檻」は、主人公相木鹿之助（←みんな信虎が主人公だと言うのだけど）を、
うまく摑めた＝描けたところが勝因の一つであるわけで、
やっぱり、主人公はじめ、人物を、しっかり考えなくちゃなりません。

いやはや。
何と言っても、
「あれはうまく書けたのだ」
と確信を持っていえるものがあるのは、心強いです。

同じものを書くわけじゃないにしても、
何が良くて、何がダメなのかを振り返ろうとしたとき、
ひとつの確かな規矩があるちゅーのは、
ありがたや、ありがたや。

ともかくあたくしは、まだまだ。まだまだ。

2015/05/27（原付買ったよ）

眼鏡を新調しました。
かれこれ７－８年は使っていた（もっとかも）ものを、
お安いJINSに。
しかし、安いですね。。
あたくし、目が悪いので、超薄型レンズを頼まなきゃならないわけですが、
JINSではそこら辺にしても、値段いっしょ。
これなら、複数本の眼鏡を所持したいぞと、思うに至ります。
まん丸い、作家・芸術家っぽいやつとか、あこがれます。

それから、原付を買いました。
白と黒の、HONDA Today。
やっぱバイクはホンダだよねー。いつかスーパーカブに乗りたいしー。
というわけで、Hondaの中でも、一番お安いやつにしました。
それを早速、岡崎から豊橋で走りまして、３５キロほど。
幹線道路をずっと左側で、制限速度を守ってとろとろ走っておりましたが、
なかなか快適。
時おり背後から巨大トラックに迫られたり、
軽自動車がすぐ脇を走りやがって憤ったりもしましたが、
幹線道路は広いですし、ごちゃごちゃもしてないので、案外と安全・快適に走れました。

あと、バイクは無心になるのが良いですね。前をしっかりと見て、道路の左側、安全な位置とりをしつつ、
制限速度や後方の車を意識する。。

まだ「若葉マーク」だから、というのじゃなく、いつまでも気をつけなくちゃなりませんけど、
ともかく邪念を棄てて走ることに集中できるのは、なかなか気持良いものでした。
といって、高速走行できる、大きめバイクが欲しいとかは思いません。
３０キロ超えたら、普通に怖いじゃないですか。

で、この原付走行が禍したのか、
翌日から風邪、気管支炎。
頭がぼんやりするので、ひたすら論文をやっておりました。

小説の息抜きに、論文。
我ながら、生意気なことだと思います。

そんな中で、「老虎の檻」の再校ゲラもお返ししたので、
あとは発売を待つばかり。
これでようやく、やっと、とうとう、「九州さが」受賞の流れが終わったかなあと思われて、
ほっとしたような、さびしいような。
次の小説を早う仕上げて、編集さんに見てもらいたいと思いながら、
論文をやるのでした。

そうそう、このたび歴史小説で「オール読物」をとった方が、
そのまま直木賞にノミネートされたそうで。
落選してしまったようですが、あたくしも、いっそう奮起せねばなりません。

その方の小説の出来が良かったことが一番でしょうが、
あたくしとしては、しっかりとした歴史小説への需要が大きいのじゃないか、
と、そこらへんを思った次第。

2015/05/22

昨日、「再校ゲラ」を受領。
これを確認したら、無事に「小説NON7月号」に、あたくしの「老虎の檻」が掲載、
という運びになります。
今見たところ、Amazonで予約注文可能となっていますね。

小説NON 2015年 07 月号 [雑誌]

530円と、小説雑誌としてはかなり安いと思いますし、
何より普通の書店ではなかなか手に入りにくいようですので、
この際、ぜひご注文ください一。
なお、7月5日くらいから、電子版も発売されるはずです。
（電子版は430円くらいで、ちょっと安い）

あたくしの小説なんて、まー、この際どっちでも良いですが、
森村、夏樹、北方各先生による選考経過の全文は、興味深いことと思います。
エンタメ系の、素人小説についての、一流作家による小説作法心得なんて、
そうそうあるものじゃないです。

……そういう意味からも、「九州さが」の賞と選考経過は、もっと宣伝されて良いと思うのですね。
たとえば、「オール読物」とかでは、すでにそうとうレベルの高いものが、
最終選考に残っていて、それについて、各選考委員がああでもないこうでもないと述べる。
けれど、小説修行している身からすれば、その最終選考まで至ることが困難なのであって、
その一歩前の段階にある作品に対するコメントが、ぜひ欲しかったなあと思うのです。

ある程度は、うまく書ける一一けど、どうしたら、もう一歩先へ行けるんだ？？？？
という悩みというか、もやもやを持つ方は多いんじゃないのかなあと。

そんなわけで、そういう方はぜひとも、小説NON７月号を、お求めください。
昨年の、2014年7月号も、今ならまだ、電子版（WEB-NON)が手に入ると思います。
なお、「小説NON」は、公共図書館でもあまり置いてない様子。。。
がんばってください、祥伝社！

いずれにしても、たぶん、曾野綾子とか山本一力とか、西村京太郎とか葉室麟とか伊藤潤とか、
、

そういった方たちの間に、あたくしの小説も並ぶんだなあと思うと、
そわそわしてきます。

でもまあ、それで浮ついていても仕方ない。
次の、「南海に消えゆく」の読み返しもぼちぼち終るので、
せっせと、この一年二年の間が勝負だと念じて、書きまくるしかありません。

2015/05/21

基本に戻り、初稿を印刷し、真っ黒けになるくらいにペンで修正中。
主題を明らかに、個々の人物の立場を明らかに。
いずれにしても、個々の事象を、あざやかに描き出すよう心掛ける。
――当然、作者は作中のいろいろなことを把握しているので、しょっちゅう、
省略というか、読者目線に立てば描かれなければならない点を、書かずに済ませてしまう気がする。
それが積み重なると、作者としても、何となくもやもやした感じで続けることになり、
完成品が、もやっとした、ぬるっとしたものになってしまいがち。
確かなものにしなくては。

昨日たまたま、ＰＣのＢＧＭが、「銀色の髪のアギト」になったこともあり、
「もやっとした完成品」
は絶対に避けなくちゃなるまいと、改めて感じた次第。

なお、「アギト現象」とでも名づけたい、愛すべき駄作「銀色の髪のアギト」は、
・個々の要素は、すぐれているのに（特にＯＰ）、
　全体としては限りなく陳腐。
・設定や構想だけはすごいのに、
　完成品は、つまらない。等々、欠点だらけで愛おしいので、小説修行中のみなさんは、一度くらい、
ご覧いただくと良いと思います。
長編ラノベ等を駄作化する要素が、すべて詰まっている気がします。
（あたくしは、スペシャルＤＶＤＢＯＸを持っています）

その、「アギト」についての自分の記録を掘り返そうと、
当日記をさかのぼっていたときに気づいたのですが、
「老虎の檻」
の初稿ができたのは、２０１２年９月でした。

それから、別の時代劇を書いて、「九州さが」へ投稿して一次落ちして、
改稿して、改稿して、２０１４年夏頃に、「九州さが」へ投稿、受賞となっていたので、
自分としては、２０１２年夏から、２年ほどの間に、
どんな成長があったんだろうと、自分のことながら、そこら辺を考えたくなりました。

……ひとつは、放送大学大学院ですね（２０１３年４月入学）。

これが大きかったのは間違いない。
歴史研究を専門的に行う――この心掛けが、影響したと。
あと何だろう。

2015/05/18

今川の「花蔵の乱」がらみで年表と史料まとめを終えて、
筋書きもできました。
歴史小説は、どこから初めて、どこを終着点とするかを見極めれば良いので、
粗筋考えるのは楽っちゃー楽。
その点でも、あたくしに向いているかもしれない。

そういう次第で、頭が切り替ったので、「南海に消えゆく」の初稿を読み返す。
不安だったけれど、読み返してみればそうとうに出来が良いので、
終章はがんばって直さなきゃならんけれど、まずまず、
次の「NON」発売前に、編集さんに見てもらえる気がしています。

「老虎の檻」
より良いものになる、とは思うのだけれど、
まー、読んだ人がどう思うかはわかりませんわね。

ひとまずは、「老虎の檻」でおぼろげに摑んだ小説の書き方を、
しっかりと身につける必要があるのだけれど、
ぼちぼちと、その次ーーを考える必要も出てくるかなあ。
７０枚くらいの短編の、その次。
要するに、長編。
歴史の長編。

「老虎の檻」で確信を持った技法からすれば、
長編も書き上げられると思う。。けど、なかなかたいへん。

書きたい素材は幾つかあるけれど、何がいいかなー。

まー、いずれにしても、ぼちぼちと。
追々と。

2015/05/12

午前中、給料仕事をして、
午後はまず市役所支所で住民票をとり、警察署で免許証の住所変更をし、
次いでバイク屋へ行って原付を契約し、
一度家へ帰って着替えて、大学院ゼミへ行くという、
なかなか慌ただしかった昨日。
疲れたかして、風邪気味。

ゼミの前に、今度の小説の材を得ようと、大学の書庫を巡って、
冷泉為和の和歌集があるぜ、いやっほうと、見たら、
写真本。
流麗なる、みやびやかなくずしの仮名文字が読めるはずもなく、
また別にそこまで読み込む必要までないなあと思うので、静岡県史でよしとする。

いずれにしても調べれば調べるほど、おもしろく、
これを無事に小説にできれば、本にできるなあと、手応え。
今川、花蔵の乱の辺を書きます。

いろいろぐるぐる廻ったけれど、
どうにか、ひとつ小説の書き方がわかった気がするので、
よかった、よかった。
……無事に書き上がったら、の話だけれど。

2015/05/07

連休中は、大学時代の恩師を訪問してお祝いしてもらったり、
中学時代の同級生に、お祝いしてもらったりしておりました。
その一方で、祥伝社の編集さんに、特に表記方法についてあれこれ聞いて、
気合を入れ直しておりました。

大学時代の恩師、卒業後に会うのは４度目くらい？
でも前回お宅を訪問した時からすると、８年ぶりくらいでしたが、
お変りない感じで、たいへん幸福な時間を過ごさせてもらいました。

先生にはひとかたならぬ世話をおかけしてるのですが、たとえば、
大学時代も、週に一度、何の質問もないのに研究室を訪れ、居座ってたり、
放送大学の研究で、途方に暮れた時に助言もらったり（そのお蔭で、良い論文が書けまいた）、
そんなこんなでようやく、文学賞もらいましたぜと、胸を張って報告できる成果を手土産にできたこと、
返す返すも喜ばしく思います。

ご馳走になった、美味なるイタリアン・レストランで、サービスマンの人に、
「かれは僕の一番弟子だから」
なんちゅって紹介してくれてたし、まこと嬉しい嬉しい。

そんなこんなで、今朝の通勤途上において、「南海に消えゆく」の初稿了。７３枚。
まだとても編集さんに見てもらえるレベルじゃないので、
これから第三稿くらいまでは、書き直さなきゃなりませんが、
まー、でも、できて良かった。

「老虎の檻」のゲラは、今週末に書き直して、送ります。
まー、基本的には、受賞作なので、あんまり変えるわけにも行かず、
表記については、指摘のとおり直して行けば良いでしょうし、
ちゃちゃっと済ませて、これから一ヶ月くらいは、ちょと論文をやらなきゃ。。
今川、北条、武田の年表つくりつつ。。

そうそう、ソニー製の無線ヘッドフォンを購入。
いよいよたくさん書ける。

2015/04/30（追記）

メモメモ。

次の８０枚、題名をひとまず、「南海に消えゆく」とする。

その論文の中味を、もっとも端的に表すものが題名である、
と、修論書くときに教わった常識を、きちんと活かそうと思うのですね。

描かれるべき点、主題が見えなきゃ、題名はつけられない。
題名が付けられないちゅーことは、中味をまだ摑み得ていないということ、
と言い切っても良いかもしれない。

いずれにしても、「老虎の檻」は、今までで一番良い題名だと思うております。
主題や軸が、そこに現れている。

……と、題名つけてみると、年表とにらめっこしているので、
８０枚の全体像が見えてくる。
良いものになるよう、せっせと頑張ろう。。

2015/04/30

「地味系僧侶と桜の妖精」
http://ncode.syosetu.com/n0241co/
完成。
明日、最終話が掲載されます。

毎日連載って、けっこうおもしろい。
「ああ、あそこを、こうしておけば」
「あれは、そうじゃない方が良かった」
とか反省して、書き直す猶予が与えられないってのも、
無事に完成させてみると、まことにおもしろいものだなあと思いました。
最終話を書いてみると、とりあえず全部、総括だけは出来たんじゃまいかと思います。

あれをああしたい、とか、ここをこんなふうにしておけば、
とかの意欲については、いずれ遠からぬうちに、
今一度の、「なろう」毎日連載で、挑戦してみたいと思います。
何かのイベントにあわせて。

ときに昨日、注文していたマウスコンピュータが届きました。
大きいのは邪魔ですし、どうせ一太郎とネットと音楽が聴ければ良いので、
iiyamaのディスプレイの背面に設置できる系の、小さなやつ、
でもそのシリーズの中では、SSD、メモリ増強、CPU最高ランク（といってもCorei3)を選択し、
さっそく使い始めましたが、快適です。

長くXPを使っていた身が、VAIOでwindows8.1 を使い始めたところ、
劇的な速度に感動していたのですが、それより、ちょびっと、しかし確実に早い環境に、
デスクトップで作業する、ちゅー意欲を増してくれた気がします。

また、windows8 のお蔭なのか、VAIOで設定しておいたものが、
ほぼそのまま（勝手に）インストールされました。
壁紙までVAIO。
一太郎とか、エクセルとか、chromeとか、あれこれインストールはしましたが、
shromeとか、細かな設定がそのままだったので、いやあ、便利なものだ。

いずれにしても、これで、「地味系僧侶と桜の妖精」が完結。
「マラカ瑣記」が、５／５の東京文学フリマ「世界史C」企画の同人誌に掲載。

「宮様の波斯剣」が、同じく文学フリマ「日本史D」企画本に掲載。

そしてまさに今、「老虎の檻」が、佐賀新聞にて連載中（たぶん。。）
そして、６月２２日発売の（５／２２じゃない！）「小説NON」に全文掲載。。と。

「老虎の檻」のゲラは、5月15日ごろまでに返送すれば良いらしいので、
次の１００枚は、連休中に初稿あげて、5月２０日ごろまでに、編集さんに送りつけて、
見てもらおうと、まあそんな計画。

あとは武田信虎ー今川義元ー大原雪斎の辺で、
朝日時代小説（４００枚）挑めないかなあと思いつつ、
ちとまだ実力（と史料収集）が不足している気持も。

いよいよ連休。。
どのくらい書けるのやら。。

2015/04/28

「吉川英治全集」収納のためにつくっていた本棚へ、
もろもろの本を詰め込むことで、
ついに、とうとう、引っ越しで持ち込んだ本がすべて室内におさまりました。

でもこれで、吉川英治全集が入らなくなったので。。
この際、もうひとつ、天井まで本棚を作成するしかない。

ちなみにマイ書斎は、設計図を見たら、３．７畳でした。
せまっ！
前は、四畳半＋納戸半畳ほどの空間があったので、そら無理があるわ。。

「老虎の檻」のゲラが、編集社から帰ってきました。
ものすごい修正意見。。
あれでよく受賞できたなあとか思われてくるほどの真っ黒けでしたが、
でも、そういう意見がもらえるのはまことにありがたい。
連休中に読み返し、修正して「小説ＮＯＮ」には恥ずかしくないものが載るようにしたいです。

「地味系僧侶と桜の妖精」
http://ncode.syosetu.com/n0241co/
も無事に本編完結。
今日から４回、【終章・幼女と魔王と妖精と僧侶】というのを連載して、
完結する予定です。
最後の一回分、つまり５／１掲載分だけ、これから書きますが、
いやはや、よくやり遂げられたなあ、自分。
最後のペース配分も絶妙だったし、、
けっこうやれるじゃん、自分！

ゲラ原稿を読む前に、自分の基本に立ち返っておこうと、
吉川英治「新・平家物語」の再読を開始。
なんなん、あれ。

でもようやく、この何度目かの再読で、吉川英治の小説的作為とか、
文体の背景が、何となく察せられるようになった気がするぞと、
いくらかの成長を思うのでした。。
それにしても、ああ、もう。。

2015/04/25

５月の連休、だいたい例年空白なのですが、
幸い今年は、久しぶりに大学時代の恩師宅訪問、中学同級生との飲み会、
なんてイベントが入っていて、たいへん楽しみ。
いずれも、受賞のお祝いちゅーことで、これだけでもありがたいこっちゃ。

天井まで本棚をつくるべく、柱とディアウォールというのを買ってきて、
明日、壁面本棚をこしらえます。
これでようやく、引っ越しで持ち込んだ段ボールが全部開けられるんじゃないかと予想。
うまく作れるかやや不安ですが、前にこしらえた本棚、
案外てきとうでも何とかなってたので、まあ、何とかなると希望してます。

本棚設置、部屋の片付け、そして「地味系僧侶と桜の妖精」の完結。
連休前に、これだけ済ませておけば、
心置きなく、休みの間に歴史物１００枚ができるんじゃないかなー。

そしたら、「NON」発売前に、原稿見てもらえるかな。。
あと論文やろう、論文。

計画は楽しい。
計画は。

2015/04/24

「地味系僧侶と桜の妖精」
http://ncode.syosetu.com/n0241co/
無事に、本編を２７日（月）に終えて、
あとは、エピローグ的なものを書くだけ、という感じの見通しが立ちました。
えがった、えがった。

いろいろ不満はありますが、
まー、思い切って、がんばってやった甲斐はあったんじゃないかなあと思います。
最後までおつきあいいただけたら、たいへん嬉しく思いまっすー。

2015/04/24（反省会）

こういうものは、読んでくれた人に対して失礼ちゅか、
人目に触れさせちゃならんと思うのですが、まー、でも日記ですし。

「九州さが」の受賞者インタビューで、
１０度目の投稿で受賞。つまり９回落ち続けて（しかも大半一次落ち）きたことになるが、
よくモチベーションを落とさずに書けたものだ、
つまるところ、いい加減で懲りなかったのか、諦めなかったのかと聞かれて、
「落ちるたびに読み返して、悪いところがあるので次回作ではそれを反省して……」
と答えたのですが、正確に言えば、
「書いてる最中から、悪いところ、改善したいところが浮かんでくるので、次はそれを受けて……」
といった感じになります。

そんなわけで、「地味系」の話、反省点は多くあります。

まず、そもそもの、「地味系僧侶を主人公に据える」というコンセプト。
考えてみると、ハーレムものって、要するにだいたい、地味系主人公であって、
どうせこれをやるなら、もっと性格の荒れたヒロイン（たち）に、
主人公が翻弄されるべきだったと思われる。

関連して、すくなくとも、ヒロインをもっと前面に出さなきゃいけなかった。

また、ニート勇者モディファイ、というのを出したけれど、
あれ女の子にすべきだったんじゃねえの。
（今からでも修正できるけど……まあ、でも掲載しちゃってるし）

結末に向けての、避けがたい陳腐化、凡庸化。
これは、でも、避けがたいなんて言うてる場合じゃない。

一人称にしているのだから、もっと、主人公に切迫感ある危機が来なきゃ意味がない。

また、僧侶にした意味。
特色。
一次や二次は通るかもしれないが、本にすることを目指すなら、
また、自分が満足するためには、もっと大いなる爆発力が必要。。

昨日は、久しぶりに２００PVを割っていたのですが、
このごろは、一日一更新でも、だいたい４００とか、５００PV出るようになっている、
そうやって、せっかく読んでもらえていると思われるのに、
「そこそこ……」
じゃ、申し訳ない。

やはり、読むのは読者で、その読者は、書かれているものを読むのであってみれば、
あたくしとしては、読者が（たぶんそれは、私自身が）、
「うっほーッ！」
と膝を叩くくらいのおもしろいものを書きたい、と思う。。。

……と、そんな反省をしつつ、今、最終決戦を書いてるのですが、
いくらか、上記反省を活かしつつ書いている部分もありつつ、
ここはやっぱり、最初に立ち返りたい――でも中途半端に戻るくらいなら、
一から書いた方がいいや、と思い、
いずれ近いうちに、「なろう連載」に挑戦したいなあと思うのでありました。
反省会。

2015/04/23

里見弴「今年竹」読了。
いやー、良作。
かれの文体はやっぱり大好き。
あれで３１才の作品とは。
（まー、途中で中断していたあとの後半が段違い良く、
　また本人による何度かの修正が入ってる版みたいだけれど）

「桐畑」は今ひとつ盛り上がらなかったけど、
「今年竹」は、読後感も良いし、抜群。
全集欲しいなあ。。
（自選集らしいけど、本人が良いとしたものだけが読めるのだから、一番良い）
でも、日本文学全集とか、岩波文庫とかでけっこう収集してるから、
まー、我慢するか！

2015/04/22

マウスコンピュータを発注しました。
どうせPCでは、一太郎と、ちょっとのネットしか使わないので、
とにかく小さなやつ、でも起動が遅いのはイヤだし、きっと長く使うので、
SSDで、Corei3 の、メモリ増やして、
マウスコンピュータの小さいやつの中では、高級なものにしました。

でも当初考えていたエプソンより、性能からすれば２－３万安いので、
まあ、安いですね。
ふるさと納税のiiyamaモニタと、相性も良いかと思います。

昨日は、佐賀県から新聞が届きまして、
予想よりも、あたくしの写真がでかでかと載っていて驚きました。
あれが佐賀のホテルニューオークラで、ぱしゃぱしゃ撮られたうちの、
一番、まし、なものだったのでしょう。。おそれいりました。

これで来週２９日から、佐賀新聞で６日間、連載。
その一方で、ぼちぼちと、「小説NON」の祥伝社から「ゲラ」が届く運びとなってまして、
まったく愉快に、まこと小説家っぽいことを経験させてもらっています。

そんなこんなで、「地味系僧侶と桜の妖精」も無事に終えられそう、
ちゅか今回は２ヶ月で１０万字、
字数で考える経験が無かったのであれですが、１０万字って単純に見ても２５０枚。
改行や隙間を考えれば、３００枚以上はあるわけで、
あたくしのペースとしては、たいへん高速の、しかも佐賀へ行ったり、引っ越したりと……、
そうとう無茶なものでしたが、まー、でも、何とかなって良かった。

そんなこんなで、次の歴史小説のため、年表づくりを開始。
基本的には、「世界史C」に載せる小編を書き直すものですが、
設定年をちょっと早めたり、あれこれ細工して、
よりきちんとした、おもしろいものになるよう、がんばらねばなりません。

2015/04/21

部屋の片づけの最中、大学時代の作品集がでてきました。
卒業前に、文学研究会（サークル。通称文研）の後輩たちがせっせと編纂してくれるもの。
部誌は年に６回発行されていて、
各回に８ページ以上、小説を載せ続けてきたので、
文研史上最多の掲載数となり、この「全集」もすてきな４分冊になりました。

で、読み返すと、んまあ、露骨というか、あけすけというか。
何もかもが、そのままなのですね。
青臭く、荒っぽく、板に付いてない感じがするのですが、
それでも、当時認識していた世界というか、感情が、
もろに出てきて、何だか涙ぐんでしまいました。

今じゃ絶対書けない、と思わせる、感情を吐露しまくりの恋愛小説とか、
ネット界隈の言語世界に、初めて触れた驚きというか、戸惑いというか、
さまざまな試行錯誤が、、、
ああ。
ああ。
荒っぽいなりに、きちんと書けているものも多く、恥ずかしくはないですけど、
いやはや、遠いものだなあと茫然。

小説書く以上は、自分の中をどんどん行く部分も必要と思い、
一度整理したいなあとも思うのですが、
でもKDPにするのも、何か違う気がして。

まー、ぼちぼちと、適当に。
「宇治拾遺」のKDPのつづきも、そろそろ上げて行こうかと。

2015/04/20

本の段ボールで埋もれていたマイ・ニュー書斎を、片づけ続けております。
土曜日に、とうとう部屋へ椅子を運び込むことに成功し、
日曜日にはとうとう、前にふるさと納税してもらっていたイイヤマのＰＣモニタを設置。
これでワイド画面で、執筆できる運びとなりました。

今までは、１２年ほど前の、ＳＯＮＹ製１７インチの正方形を使っていたのですが、
やっぱり小説は、ワイド画面が良いですね。
ネット記事やゲームを眺める分にゃ、ワイドにする必要性はまったく感じなかったのですが、
小説やるなら横長が良い。

その昔、紙にペンで書いていた頃も、紙を横長に置いていたわけですし、
原稿用紙だって横長。
横長ばんざい。
（なんだこれ）

ところで転居前の団地に、まだ洗濯機が取り残されていたのを、
昨日ようやく業者に持って行ってもらいました。
何せ４階。
狭い。

運び出すのが一苦労で、得体の知れぬことを商売にしている叔父が、
「持って行ってやろうか」とか言っていましたが、
あんなくそ重たいもの、どうやって運び出すねん、と業者に一任。
華麗なるテクニックで、運び出してもらいました。
リサイクル料＋搬出代金で、４６４４円。
あたくし的には、安いと思われました。

「地味系僧侶と桜の妖精」
http://ncode.syosetu.com/n0241co/
無事に、毎日更新を継続。

昨日は、朝の時点でつづき原稿が無く、昼過ぎからコツコツ書く予定で、
「１６時に更新しますー」と、近況報告のところに書いておいたのですが、
狭い団地で洗濯機回収を待っている間、
案に相違して、ネット更新ができませんで、

結局、帰宅して、部屋の片付けをして、PCモニタを据え付けてからの更新となりました。
更新時刻は、２２：４７でした。

ときに、あたくしの「なろう」ですが。

相互お気に入りもほとんどおらず、小説のPV何万という猛者と比べると、
ポイントは桁違いに低く、コメントも無いですし、まことにしょぼいなあ、、、
毎回PV３００とか４００とかあるけど、本当に読んでる人いるんかい？
とか、正直なところ、疑ってさえいたのですが、
昨日「１６時に更新しまっせ」と近況報告に書いておいて、
結局は、その時間に更新できなかったのですが、２３時の更新時に見たところ、
更新してないのに、１６時、１７時にPV数がぐんと伸びている。

「ひょっとしてつまりこれ、近況報告を見て、１６時ごろに来た人がいるってことけ？」
と思い至り、激しく感激しました。
これはいよいよ、気合いれて書き上げなきゃなあと思います。

現時点で、９万５千字。
ネット不通の間、せっせと書いてましたので、すでに１０万字は超えたと思います。
あとはきれいに完結させること。

この際、４月３０日の締切当日に、完結させられるよう、
頑張りたいなあと思うのでありました。
（あ、でも木曜日はPV少ないので、完結は、５月１日の金曜日にしよう！）

2015/04/15

受賞祭のおそらくは「打ち止め」となる、記者会見をやりました。
というか､情報公開と宣伝の一環で、
職場のお偉いさんが月例で実施している記者発表会に、
あたくしもちょろっと同席させてもらった、という感じで。。。
集まった記者も、地元新聞社から６人。

でもおかげさまで、たいへん良い経験ができました。
表彰にラジオ収録、記者会見に、会見後の個別取材。。
地元新聞にまた写真が載るとか。。
記者会見するなら、短い、威力あるキーワードが抜きやすい言い方をすべし、
誠実な、詳細な説明なんて要らないんだ。。とか、いろいろ。

でもまあ、いい加減、そろそろこの、浮かれポンチを切り上げて、
新しい小説を書きたくなってますが、
今はとにかく、残り２万字となっている「地味系」ラノベを書き上げて、
段ボールで埋もれた書斎を「つくる」ことに専念しなきゃなりません。

今のラノベ書き終えたら、当面、歴史小説を。。とか言いながら、
ちょっとむさくるしくなってた「地味系」に、別のヒロインを入れたところ、
PVとブックマークが如実に増えた気がして、
なるほど、ここはやっぱり、魅力的なヒロインを書く試みをしなきゃなあと、
もう一つくらい「なろう」で書きたく思うのでした。

自分のラノベがどの程度のものか知りたいなら、
投稿するより、「なろう」の反応を見た方が早い気がします。
PV数の多い、ブックマークの多い小説というのは、
当然それだけ良さがあるわけで、真似はできないかもしれませんが、
あたくしが対応できる部分は、考えて、対応してみたいなあと思うのでした。

何ひとつ無駄なことはない、と信じたいのですね。

2015/04/13

「地味系僧侶と桜の妖精」
http://ncode.syosetu.com/n0241co/
の連載を終えたら、当面、時代小説に専念します。

さて、この週末、引っ越しをしまして。
体は、すでに先週の時点で、引き移っていたのですが、
荷物は、この１１日に移動。
家財道具ほとんど全部を、実家へ運んでもらう大仕事、、はともかく、
何と言っても、この１０年ほどに貯めた本がたいへんで、
３２箱ですか。

引っ越し業者からは「ラスボス」呼ばわりされいたようで、
食器棚とか、家電製品とか、本棚とかを運び込んだ後で、
「ああ、まだラスボスがあった」
と落胆してるのを、家人が聞いたとか、何とか。

バケツリレー方式で、トラックから玄関、玄関から階段踊り場、
階段踊り場から書斎、という流れだったようですが、

「はい本」
「これも本」
「はい本。２階書斎ねー」
「はい本。２階」

と、延々、３２箱。
４畳半ほどの小さな書斎が、段ボールで埋まりました。

人も入れないので、これどうやって本並べりゃいいねんと、
自分のことですが、まったく、笑えます。

作業中、大きな箪笥が、階段を通過できず、
外から、２階ベランダへ引き揚げるという、プロの技を目撃。
「普通ならはしご使うんですが、これでも可能ですので」
と、長いマットを使うプロ仕事。

まことに恰好良かったです。

家財道具いっさいの移動は、初めてでしたが、
業者を使っての引っ越しは、これで３度目。
それにしても、今回のチームが、一番良かったです。
日通。

この会社だから、というのではなくて（家人によれば、事務の対応は悪かった模様）、
たまたま良いチームに当っただけかもしれませんが、
何にしても、幸いな引っ越しができたなあと思いました。

そんなわけで、部屋を片づけ、ラノベを完成させて、
大きな時代劇に挑まねばなりません。

佐賀県でも聞いたのですが、
今や各地で、盛んに、
「この人を主人公に、NHK大河ドラマを！」
という運動があるのですね。

佐賀や唐津では、
「この人物」
というのは無くて、ともかく、うちの地元を舞台にして。。
といっているだけのようですが、
「この人」
で提携して、自治体が協定を結んだりして、盛んに誘致合戦をやっている模様。

とはいえ、たとえば署名活動のリストなんかをNHKへ持ち込んでみても、
NHKが言うのは、
「うん。良い原作持って来てねー」
なんだそうで、
そこら辺、今後の、あたくしの高い目標に据えられそうだと思いました。
当面書けないにしても、史料収集しておけば役に立ちますし。

実家に転がっていた、ちょっと前の中日新聞によれば、
今や、全国で１９ほども、そういう運動があるそうです。
中日新聞に載っていたのは、加藤清正ですが、

さくっと検索してみれば、

北条五代、ジョン万次郎、明智光秀＆ガラシャ、保科正之、
真田幸村（は今度実現）、里見氏、木曽義仲と巴御前、
本多忠勝、太田道灌、水戸黄門、大友宗麟、藤堂高虎、長宗我部元親、山田方谷。。

この辺は、軽く出てくる。

大河ドラマのために書く、なんて芸当は、とてもあたくしなどには出来ませんが、
でも、ここら辺の人物から調べて、おもしろいものを書いて行く、
という目標は、持っていても良いんじゃないかなあと思い、
まずは早く書斎が片付くよう、そこから頑張ります。。

ちゅか、とりあえずはラノベ、
あと１５日で最低３万字、そして完成目指してがんばらねばなりません。。

2015/04/10

引っ越しでバタバタ。。
すでに体は実家に移っているのですが、
荷物は明日。
本が、３３箱。
けっこう棄てました。。芥川賞掲載の文藝春秋２０冊くらいとか、
岩波講座「文学」（旧版）１２冊とか。。コンビニ漫画のバキとか。
もっと棄てれば良かったような、棄てずに持っておきたいような。
読み返す時間なんて、おそらく無いので、
もっと棄てれば良かったと、今度は実家で、棚へ収める際に後悔すると思われます。

そんなバタバタでも、「地味系僧侶と桜の妖精」は、１０万字を目指して、
毎日更新を続けております。
http://ncode.syosetu.com/n0241co/
毎日、だいたい３００程度のPVがあり、
当初、１００幾つかから始まったことを思えば誇らしいのですが、
ほかの人のPV上位を見ると、軽く１０００を超えていて、稀に万超えしてたりするので、
いやー、すごいなあ。

あたくしの方は、とにかく地味に、一昨日あたりから、
「４月末までに１０万字」を達成するため、
１日２更新にしたところ、PVが倍の６００くらいになりました。
あれです、思い切って、一日に三回とか、四回くらい更新すれば、
１０００PVが実現できるかもしれませんね。。

でも闇雲に更新回数増やすってのは、ちと不誠実な気がして、
あたくしなどはとにかく、おもしろさ、読者の求めるもの、自分の特長、書きうる内容、、
といったあたりの課題を意識しながら、良いもので、１０万字完結できるよう頑張るしかありません。

2015/04/07

昨日は、博士ゼミの初回。
山田先生が、予想をはるかに超えて愉快で、酒飲みだということを学びました。
またゼミ仲間（先輩）が３人もいて、わくわくしました。

あたくしが入った愛知大学（大学院）の中世史ゼミ、
どういうわけか、ここ数年たいへん活発化しているようで、
１０年ほど前に、初めて修士学生が出た、という次元から、
今や博士課程に４人いるのですから、そうとうなもの（らしい）です。

んで、あたくしが取り組もうというキリシタン史研究。
あの時代を扱う日本史研究者はごまんといる中で、
宣教師たちの原史料を扱う、いわゆる専門家は、
飲んだくれた山田先生がそらで数えた限り５人しかおらず、
しかもうち一人は退職されているとかで、
とにかく対外関係史は重要視されている割に、専門家がいないそうです。
……この際、ラテン語をまじめにやりますか。

「地味系僧侶と桜の妖精」
http://ncode.syosetu.com/n0241co/
快調に、というとあれですが、ＰＶ数も少しずつ増えておりまして、
毎日連載、今のところ途切れず続けておりますが、
このままでは、４月末までに１０万字、という規程に間に合わんことに気づきました。
現在５万４０００字で、ざっくり言って、一日１０００字ペースで更新しているので、
締切まで、あと２０日ほどだと考えれば、２万５０００字ほどが不足する勘定。
更新分量か、頻度を倍にしなくちゃいけません。

ただでさえ、引っ越しやら身動きできず、続きを書くのに苦労しておるのに、
たいへんだこりゃ。
。。とにかく今は、やると決めたのだから、泣き言口にせず、書くしかない。

2015/04/03

これまでの小説作法懊悩記、ってほどでもありませんが、
今回の受賞に至るまでの記録をまとめておきたいと思うておりましたところ、
ちょうど良い機会を得ました。

近いうちに、お知らせできると思いますが、
まー、ぼちぼちと書いておきます。

明日は、放送大学修士論文の報告会、
あーんど、大学時代の仲間・恩人による祝勝会。
祝杯！

2015/04/01

日記帳を新たにしました。
でも相変らずな感じで書いてまいります。

昨日は、地元FMラジオ局で、九州さが大衆文学賞大賞について喋ってきました。
パーソナリティというか、アナウンサー？　的な人の質問に答える形式でしたが、
いや、すごいですね。
ラジオなので明るく、大きな声で喋らなきゃいけないのは当然なんですが、
とにかくグイグイ来る。

あたくしは、ご承知の方はご承知でしょうが、
人の話を聞くのは好きですが喋るのは苦手で、
気がついたら、パーソナリティの方の質問に、無言で頷いてたりしてました。
うまい具合に編集して放送してくださるそうですが、
あうあうおうおうしか言うてないと思うので、編集たいへんだ。。

時に、パーソナリティの方から、
「自分は小説なんて書いたことがないんですが、小説を書くって、どうするんですか」
と大きな声で聞かれて、まったく途方に暮れました。

どうするんでしょう？
みなさん、どうしてますか？

どうやらあたくしは、考えながら書く、ちゅか書きながら考えて行くみたいなので、
改めて考えたとき、どうやって書いてるか、よくわからない。

あたくし、ツイッタの自己紹介欄には長く、
「小説を書くしかない」
とだけ載せておりましたが、これはまったくそのとおりで、
むしろ、ほか何も無い感じ。

何でしょうね。
みなさん、小説ってどうやって書いてますか。
……と、夏樹先生に聞いてみればよかった。
（さあ、どうやって書いてるんでございましょう。考えたこともございませんでした。と仰るだけと想像づきます）

時に、認知症の人が迷子になる、というちょっと以前のNHKスペシャルを見まして、
茫然といたしました。

自分が呆けて、小説書けなくなったらどうなるんだろう？

丹羽文雄という作家は、だいぶ呆けてきたある夜、机に向かってひたすら、
「丹羽文雄、丹羽文雄、丹羽文雄」
と書き続けていた、というエピソードを見ましたが、さて、自分は。

で、ふとツイッタで見たエピソードに膝を叩いたのは、
「小説書けなくなったら、ゲーム三昧だ！」
あたくし、昔からゲームが好きで好きで、
人がやっているものや予告編を見れば無性に遊びたくてたまらなくなるのですが、
実際にやってみると、結局小説の方が楽しく、時間も根気もないので飽きてしまう。

……のが、小説書けなくなったら、ゲームやりたい放題となります。
難しいのはできなくなるでしょうが、ちょっとしたやつなら、
相当ぼけてしまうまで遊べるんじゃないかと。

そんなこと考えたら、ぼけて小説が書けなくなっても楽しい気がしてきたので、
人生は万事あかるくたのしく、幸福に、好き勝手生きられるよう、
がんばりたいと思いましたー。

2015/03/30

４月になったら書き始めます。

人生、何か変ってゆく予感というものは起きるんじゃまいかと思いました。
この予感というものは、期待や願望とは違って、
あくまでも、そんな気がする、という感覚で、
往々にして、期待や希望、そして妄想へ変容しちまうものですが。

個人的な感覚でいうと、まず放送大学で修士勉強の手応えを得た辺で、
吉川英治全集を並べるための棚をこしらえて、
でもそれは２年ほども空いたままだったわけですが、
次いで、実家への転居を決めたのが、この１－２年。

修士論文を無事に作成させて、愛知大学博士課程への進学を決めて、
あとあれです、１２月の一週間のうちに、流れ星を二度見ました。
この辺で、何か変る予感が起きて、、
そうこうしているうち、最終選考に残り、受賞のお知らせをいただきました。

さてもうすぐ４月。
人生どうなることやら。。

といっても、やることは、これまでと何も変らんのですけどね。